

ア  
グ  
ダ  
ス  
の  
書

アグダスの書

最も聖なる書

バハオラ

# 目次

序説	1
緒言	4
アグダスの書に関するシヨージギ・エフエンデイの描写	23
<b>アグダスの書</b>	33
アグダスの書の補足	155
質疑応答	177
アグダスの書の法と規定の概要と体系化	233
注釈	269
語彙説明	429

## 序説

### 序説

1953年、バハイ信教の守護者シヨーギ・エフェンディは、「アグダスの書」の翻訳の重要な前身となる「概要と体系化」を彼の十年計画のゴールの一つとして導入され、自らそれに着手された。しかし1957年、彼の逝去のときにはそれは完成されていなかった。その作業は、守護者の仕事ぶりを基盤として継続され、1973年について完成し、発行に至った。それには、「概要と体系化」とその解説・注釈の他に、シヨーギ・エフェンディがすでに翻訳し、様々な本で出版されていたアグダスの書本体の文節の編纂が含まれていた。「概要と体系化」にはアグダスの書とその補足をなす「質疑応答」が含まれている。1986年、万国正義院は、「最も聖なる書」全体の英語訳が可能であるだけでなく、それが必要な時期が来たと判断し、その完成を6年計画（1986―92年）の目標の一つとした。英語以外の言語での出版は英訳版出版の後に続くことになる。

聖典である「アグダスの書」は、学術書にあるような脚注や索引番号で煩雑にすることなく、分かりやすく、しかも感動的な形で提示すべきであるということが前提とされた。しかしながら、文の流れやそのテーマの変化に読者が容易についていけないにするため、段落分け——そのような区分けは、一般にアラビア語の著書にはない——を施した。さらに、これらの段落には番号をつけて、アクセスや索引を容易にし、また今後出版される言語のすべてで同じように参照ができるようにした。

アグダス本体の後には、最も聖なる書の補足を成す、バハオラの書からの短い編纂と、この版で初めて出版される質疑応答の翻訳が続く。

シヨーギ・エフエンデイは「アグダスの英語訳には豊富な注釈が必要である」と述べておられる。注釈を作成するにあたって従った方針は、アラビア語を解さない読者にとって意味が不明瞭と思える点や、様々な理由から解説や背景となる情報を必要とする点に焦点を置く、ということであった。これらの注釈は、そのような基本的なニーズに応えるものであり、本体の包括的解説という意図で書かれたものではない。

## 序説

「概要と体系化」に続く「注釈」には、順に番号がつけられている。注釈の前には、それぞれに関連する本体からの引用文が提示されており、その文がでる段落の番号が示されている。これにより、本体と注釈の相互参照が容易になるよう配慮されており、同時に、繰り返し本体を調べることなく、読者の希望に応じて、注釈を学習できるように工夫されている。これにより、多様な背景や関心を持つ読者層のニーズを満たすことが期待される。

更に、この索引は、この書の扱うすべての主題のガイド役を果たす。

「アグダスの書」の重要性と特徴、またそれが含む主題の範囲については、シヨーギ・エフェンデイがバハイの歴史書であり、最初の一世紀を語った「神よぎり給う」と題される書に鮮やかに描写されている。読者のためにそれを本書の「緒言」のすぐ後に付けた。「概要と体系化」は本書で再出版という形を取るが、それも、この聖典の全貌を知るうえでもう一つの助けとなるのである。

## 緒言

バハイ暦で一四九年となる今年は、バハオラの昇天百周年を記念する年である。バハオラは、人類全体を成熟に導く、神の普遍的な啓示を携えてきた御方である。この機会が、全人類を代表する信者らの共同体によつて記念されること、またこの共同体が一世紀半の間に地上の最も遠隔な地域にでも確立されたことは、バハオラの到来によつて放出された和合の力を示す徴である。これら同じ力の働きを示すもう一つの証拠は、バハオラのビジョンが多く局面で現代人の生活を予見したその程度の大きさに見ることができる。今この時は、バハオラの啓示の母なる書、バハオラの最も聖なる書、少なくとも一千年は続く運命づけられた宗教制のためにバハオラが制定された神の法を述べた書の、最初の公認英語訳を発行するに相応しい時期である。

バハオラの聖典を構成する百冊以上の書の中で、アグダスの書は独特の重要性を持つ。「全世界を新たに作り直すこと」がバハオラのメッセージの主張と課題であり、「ア

## 緒言

「アグダスの書」こそは、将来の世界文明の「憲章」である。バハオラはこの世界文明を築くために到来した。その憲章の規定は、過去の諸宗教が確立した基盤の上につきかりと据えられている。と言うのも、バハオラの言葉によると、「これこそは過去においても、未来においても、神の永遠にして不変の教え」だからである。この啓示では、過去のご概念は新しい理解の段階に引き上げられ、今明けようとしているこの時代に適合するように変更された社会的な法は、未だその輝きを想像することすらできない世界文明へと人類を導くよう設計されている。

「アグダスの書」は過去の偉大なる諸宗教の妥当性を認めるにあたり、それら神聖なる使者たちすべてが説いた永遠の真理——すなわち、神の唯一性、隣人愛、地上の生活の道徳的目的を改めて述べている。同時に、出現しつつある世界の融合や人間社会の再建にとって障壁となる過去の宗教的な要素を宗教的規律の中から除去している。

この宗教制における神の法は、人類家族全体のニーズに応えるものである。アグダ



スの書には、殊に特定の人々に宛てた法もある。それらは、彼らにはすぐ理解できるであろうが、異なる文化の人々がそれらを最初に読む時は、分かりにくいかもしれない。たとえば、人に罪を告白することを禁止するという法はその一例である。これは、キリスト教を背景とする人には理解しやすいが、他の人々は当惑するかも知れない。さらに、法の多くは過去の宗教制、特に最近の二つ、コーランとバヤンに具現されたムハンマドとバブの宗教制に関するものである。しかし、アグダスの特定の法令はどのように焦点を絞っているとは言え、それらは普遍的意味合いも持っている。その法を通してバハオラは、世界の諸民族が到達すべき知識と行動の新しいレベルの重要性を徐々に明かされたのである。バハオラは精神的解説という設定にその教えを埋め込み、扱われている主題が何であれ、それらの法は人類社会に平穩をもたす多様な目的を果たし、人間の行動基準を向上させ、人間の理解を深め、万人の生活を精神化するという原則を常に読者に思い起こさせている。宗教の法の究極の目的は、常に、個々の魂の神に対する関係と、精神的運命の実現である。バハオラご自身、こう断言され

## 緒言

ている——「われが単なる法典を汝らに現したと思うな。否、まさにわれは威力と強大の指をもつて、選り抜きの美酒の封を切つたのである」。バハオラの法の書は、「すべての人々に対する「バハオラの」最も重要な証言であり、天と地に住むすべての者に対する慈悲深き御方の証明」なのである。

アグダスの書で明かされた精神的宇宙の紹介は、バハオラがこのように啓示された法体系と永続的に結びつけられた解釈、および立法の機構を讀者に告げなかつたなら、その目的を達成することはできない。この導きの根底には、バハオラの諸々の書——まさにアグダスの本体そのもの——が、彼の長男であるアブドル・バハに付与した独特の役割が存在する。この特異な人物こそは、「彼の父親」が説いた生き方の「模範者」、天よりの靈感を受けた、彼の教えの權威ある解釈者、バハイ啓示の著者が彼を認めるすべての者と交わした聖約の中心かつ枢軸である。アブドル・バハの29年にわたる使命期間は、彼の父親の目的の理解に多様な展望を開く輝かしい解説機関をバハイ世界に付与した。

アブドル・バハはその遺訓で、彼の長孫シヨージ・エフエンデイに、大業の守護者、その教えの誤ることのない解釈者という外套を授与し、また、「聖典に明確に示されていない」あらゆる事柄に関しては、万国正義院に対してバハオラが定められた権限と聖なる導きについての保証が付与されていることを確認しておられる。このように、守護者制と万国正義院は、シヨージ・エフエンデイの言葉によると、バハオラとアブドル・バハの一对の後継者と見なすことができるのである。守護者制と万国正義院はアグダスの書で創設され、予期された行政秩序であり、アブドル・バハがその遺訓に詳しく解説され行政秩序の最高の機構である。

シヨージ・エフエンデイは36年の使命期間中に、選挙によって作られる精神行政会という構造を立ち上げられた。この精神行政会はアグダスの書に言及されている正義院で、現在は胎児期にある。そして彼は、この行政会と協働して、聖なる計画の系統の実行を開始された。聖なる計画は、信教を世界中に広めるためにアブドル・バハが規定されたものである。更に守護者は、確立された強力な行政的構造を基盤にして、

## 緒言

万国正義院選挙に不可欠な準備課程を推進された。1963年4月に誕生したこの機構は、世界中の成人バハイにより三段階の選挙で、秘密投票、多数得票式で選出される。バハオラの啓示された言葉は、聖約の中心及び大業の守護者の解釈や解説と合わせて、万国正義院が参照すべき事項を構成し、その基盤となる根拠である。

法そのものに関しては、三つの分野に適用されることを精査している。それら三つの分野とは、個人の神に対する関係、個人を直接益する身体的・精神的事柄、人間同志の関係及び個人と社会の関係である。それらは次のような見出しで分けられる。すなわち、祈りと断食、結婚・離婚・相続に関する個人的な地位の法、その他の法、禁止令、勧告、及び過去の宗教制の特定の法や法令の廃止である。これらの法の顕著な特徴はその簡潔性にある。これらの法は、これから先、何世紀にもわたって制定される膨大な法の中核を成す。この法の詳細化は、バハオラご自身によって付与された権限の下に万国正義院が実施する。アブドル・バハはこの原則について、彼の書簡の一つで以下のように述べておられる。

神の法の基盤を成す最も重要な事柄は聖典に明確に記されているが、補足的な法については正義院に委ねられている。これの英知は、時代は常に変化するということである。と言うのも、変化はこの世、そして時間と空間に必然の特質であり、本質的な属性だからある。そのために、正義院はそれに応じて行動するであらう…

簡潔に言うと、これが社会の法を正義院に委ねることの英知である。イスラム教においても同様に、すべての法令が明確に啓示されてはいなかった。いや、十分の一のさらに十分の一でさえも、原典に含まれてはいなかった。主要な事柄はすべて明確に言及されていたが、明記されていない法が何千もあつたということは疑う余地もない。これらは、イスラム法学の法則に應じて、後世の神学者らによって考案されたものであり、個々の神学者らは、もともと啓示されていた法令から、それぞれ異なつた結論を導き出した。それらはすべて執行さ

## 緒言

れた。今日、この演繹的結論のプロセスは正義院という機構の権限であり、正義院によつて是認されない限り、一個人としての学識者たちの演繹や結論には何の権限もない。その違いは、まさに次の通りである。つまり、そのメンバーが世界中のバハイ共同体によつて選出され、知られている万国正義院という機構の結論と是認により、いかなる意見の相違も生じ得ないのであるが、一方、一個人たる聖職者や学者らの結論は、必ず意見の相違につながり、分派や、分裂、分散を生み出す。聖なる言葉の一体性は破壊され、信教の統一性は消え、神の信教の建物は揺らいでしまうのである。

万国正義院には、状況の変化に応じて、自らが制定した法を変えたり、廃止したりする権限が明確に与えられており、こうしてバハイ法に柔軟性という不可欠な要素が付与される。しかし、聖典に明確に規定されている法は一切、廃止や変更はできない。アグダスの法が想定している社会のある部分は、徐々に現れるものであり、そのた

めバハオラは、バハイの法の段階的な適用を規定された。

まことに、神の法は大洋のごときもので、人の子らは魚に例えられる。彼ら、それを知り得るならば。しかし、法を守るにあたっては、機転と英知を利かせなくてはならない：大方の者は非力で、神の目的からかけ離れている故、人はあらゆる状況で、機転と慎重さを守らなくてはならない。それにより、混乱や衝突を引き起こしたり、不注意な者らの間に騒ぎを生じさせたりすることがないようにするのである。まことに、神の恩恵は全宇宙をしのぐものであり、神の賜物は地上に住むすべての者を包囲した。人は、人類を愛と寛容の精神をもって真の理解の大海へ導かねばならない。アグダスの書自体、神の愛の摂理を雄弁に証言するのである。

この法の段階的適用を規定する原則については、1935年、守護者の代理がある

## 緒言

全国精神行政会へ宛てた手紙で解説されている。

バハオラによつてアグダスの書に啓示された法は、実施が可能で、その国の法律に直接反しない限り、いつでも、西洋でも東洋でも、すべての信者及びバハイ機構に完全に課せられるものです。一部の法は、全信者に対し、現時点で普遍的、かつ絶対的に適用されると見なされるべきです。またある法は、今日の混乱とした状態の中から出現すると運命づけられた社会を予期して規定されています：「アグダスの書」で規定されていない事柄は、バハオラがすでに制定されている法の適用から生じる細目や二次的課題に加えて、万国正義院によつて規定されねばなりません。この機構は、バハオラが既に規定されていることに関して、それを補足することはできませんが、無効にしたり、いささかたりとも修正したりすることはできません。それほどまでに根本的で神聖なる書の規定の拘束力を弱めたり、ましてやそれらを廃止したりするような権利は、守護者にさえもまったくありません。



バハイが遵守するよう義務付けられる法の数が、この翻訳の発行によって増えることはない。時が熟せば、バハイ共同体は、どの法が新たに信者に適用されるかを知らされ、また、それに必要なガイダンスや補足的な法律制定がなされるであろう。

一般的に、アゲダスの書の法は簡潔に述べられている。この簡潔性の一例として、多くの法が男性のみに適用されるように表現されているという点があげられる。しかし、守護者の書かれたところから明らかであるように、女性に対する男性の行動に関する法をバハオラが定める時、文脈からしてそれが不可能でない限り、女性から男性に対する場合にも準用される。たとえば、アゲダスの書では男性に対して、父親の妻（つまり義母）との結婚を禁止しているが、守護者は、女性も同様、義父との結婚を禁止されていると指摘している。この法の含蓄についてのこの理解は、男女の平等というバハイの基本的な原則から見て極めて深遠な意味を有するのであり、聖典を学習する際はこれを念頭に置いておかねばならない。いくつかの特徴や機能において男女が互

## 緒言

いに異なるということは自然の避けられない真相であり、社会生活のある領域で互いに補足的役割を果たすことを可能にする。しかし、この宗教制において「男女の平等は一部の些細な点を除き、十分かつ明確に確立されている」と、アブドル・バハが述べていることは特記に値する。

アグダスの書と、以前の宗教制の聖典との密接な関係についてはすでに言及された。特に密接な関係があるのはバブの啓示した法の書バヤンである。これについては、守護者の代理による手紙から抜粋した次の言葉で解説されている。

シヨーギ・エフエンデイは、バハイの啓示の統一性は、バブの信教をも包括する一つの完全な総体を成すということを強調すべきと感じておられる：バブの信教はバハオラの信教から切り離されるべきではない。バヤンの教えは廃止され、アグダスの法がそれに取って代わったが、バブは自身をバハオラの先駆者として見なした故に、私たちは、バブの宗教制はバハオラの宗教制と共に一

つの体系を成すものであり、前者は後者の到来の導入部にあたると見なす。

バブは自分の法は仮のものであり、将来の顕示者の承諾に依存すると述べている。このため、バハオラはアグダスの書において、バヤンで定められた法の幾つかを是認し、幾つかを修正し、また多くを廃止している。

バヤンが、バブの使命期間のほぼ中間点で啓示されたように、バハオラも、テヘラのシア・チャールでご自身の啓示の暗示を受けてから約二十年後の1873年ごろに、アグダスの書を啓示された。アグダス啓示後もしばらくの間は、イランの友らにそれを送るのを保留していたと、バハオラはある書簡で述べておられる。その後の展開についてシヨーギ・エフエンディは次のように解説している。

バハオラがご自身の宗教制の根本的な法をアグダスの書で規定された後、ご自身の使命の終盤にかけてバハイ信教の核となる教義や原則のある部分が明確

## 緒言

に述べられ、以前に宣言した真理が再確認され、すでに規定された法の幾つか  
が解説され、解明され、さらなる予言や忠告が啓示され、最も聖なる書の規定  
を補足する補助的な法令が確立された。それらは無数の書簡の啓示に記録され  
ており、それらの啓示はバハオラの人生の最後の日まで続いた。：

そのような著作の一つが「質疑応答」で、それは、バハオラの書の写字生で最も著  
名なゼイノル・モガレビンによつて編纂された。これは様々な信者からの質疑に対す  
るバハオラご自身の応答で構成されており、アグダスの書の貴重な付録部分を成して  
いる。この種のもので他に最も注目に値する書簡が、「アグダスの書後に啓示された  
バハオラの書簡」という題の編纂書として、1978年に英語で発行されている。

アグダスの書が啓示されてから数年後に、バハオラはこの原稿の複写のいくつかを  
イランのバハイに送り、人生の晩年に向かうイスラム暦1308年（西暦1890—  
91年）に、アラビア語原典のボンベイでの発行を手配された。

ここで、アグダスの書の英語訳の文体について一言述べておく。バハオラはアラビア語に精通されていた。そして、アラビア語の持つ原語としての意味の正確性に鑑み、根本原理の説明など、意味の正確さが特に求められる書簡やその他の書にアラビア語を好んで使用された。しかし、このような言語の選択を越えて、用いられた文体は崇高で情感豊か、極めて強い説得力を有している。その文体が生まれる背景となった偉大な文学的伝統を知っている者にとってはとりわけそうである。シヨーギ・エフエン・デイは、英訳にあたり、原本の意味の正確性を忠実に伝えるだけでなく、アラビア語原典を読む時に生じるような瞑想的な畏敬の念を抱かせるような英語の文体を見つけて課題に直面した。彼が選んだ表現形態は、17世紀の聖書翻訳者らが用いた文体を思い起こさせるもので、バハオラのアラビア語の高尚な様式を捉える一方、現代の読者でも取り組み易い文体である。さらに、守護者の翻訳は、原典の意図と含蓄についての、特有な靈感による理解によっても啓発されている。

アラビア語と英語は共に豊富な語彙と多様な表現形式を有する言語であるが、その

## 緒言

形態は大きく異なる。アグダスの書のアラビア語の特徴は非常に濃縮性と表現の簡潔さにある。この種の文体においては、明らかに暗示的意味合いを持つ場合は明確に述べるべきではないという特徴がある。これは、文化的・宗教的・文学的背景がアラビア語と全く異なる読者にとっては問題である。アラビア語では明確な文を英語に直訳すると、曖昧になることがある。したがって、原典で明らかに暗示的であるアラビア語の文章の要素は、英訳にもそれを含める必要がある。同時に、原文の持つ意味に不当に手を加えたり、その意味を制限したりするほどにこのプロセスを過度に追求しないことも非常に重要である。一方では表現の美しさと明快さ、他方では逐語性、この二つを正しく調和させることは、翻訳に携わった人々が抱えた難題の一つであり、特定の文章の翻訳を何度も練り直させた原因でもあった。もう一つの難題は、あるアラビア語の用語の持つ法的含意が、類似する英語の用語とはいくつもの異なる意味を持つ場合である。

聖典を翻訳するときは、明らかに特別の注意と忠誠心を要する。これは、法の書の

翻訳にあたっては最も重要である。なぜなら、読者を誤解や、無意味な議論に引き込まないようにすることが肝要だからである。予想されていたように、最も聖なる書の翻訳は極めて困難な仕事で、多くの国の専門家との協議を要した。本体の約三分の一がシヨージ・エフエンデイによってすでに翻訳されていたため、残りの翻訳には、意味の正確さ、英語の美しさ、そしてシヨージ・エフエンデイが用いた文体との一致という三つの特質を確保する努力を要した。

我々は今、原本の適切な翻訳と言えるところに達したと感じている。しかしながら、内容に更なる光明を投じるような質疑や提案が出るであろうことは疑う余地もない。我々は、アグダスの翻訳を準備し、見直し、また注釈を付けるために委任命した諸委員会のメンバー各位の、熱心で入念な仕事に深く感謝している。我々は、このアグダスの書最初の、公認英訳版が、これを読む者らにバハイ宗教制の母なる書の光輝の白熱を垣間見せると確信している。

我々の世界は、その波瀾に満ちた歴史のなかでも未曾有の根本的な変動の時代の

## 緒言

まっ暗闇に突入している。人種、国籍、宗教を問わず、世界の諸民族は、副次的な忠誠心と、限定的なアイデンティティーのすべてを地球という一つ祖国の市民としての一体性に従属させるといふ課題に直面している。バハオラの言葉によれば、「人類の和合が確立されない限り、人類の幸福、平和、安全は決して実現しない」。我々は、このアグダスの書の英訳版発行が、この普遍的なビジョンの実現に新たな推進力を与え、世界の再建への展望を開くことを願って止まない。

万国正義院





アグダスの書に関する

シヨールギ・エフェンデイの描写

## バハイ信教の最初の一世紀を記した歴史書「神よぎり給う」からの抜粋

この宣布はユニーク、かつ驚異的なものであったが、それは、その著者の創造的な力のさらに強大な啓示と、彼の使命期間中の最も際立った行為として評価されるアグダスの書の公布の前段でしかなかった。アグダスの書は、確信の書で暗示され、また、預言者イザヤによって予期された法の主要な宝庫であり、その同じ法は、黙示録の著者が「新しい天」と「新しい地」、「神の幕屋」、「聖なる都」、「花嫁」、「神から下されてきた新しいエルサレム」と描写していたものである。そして、この最も聖なる書——そこに規定されていることは、少なくとも一千年は侵されることなく、またその制度は全地球を包括する——は、バハオラの心から発せられた最も輝かしい光線、バハオラの宗教制の母なる書、そして彼の新世界秩序の憲章と見なすことができる。

バハオラがウディ・カマールの家に移されてから間もなく（1873年頃）、未だ彼が敵や彼の信教の自称信奉者らの犯した行為のために苦難に包囲されていた時に啓

示されたこの書、バハオラの啓示の貴重な宝石を納めたこの宝庫は、それが説く諸原則、それが定める行政機構、そしてその著者の指名した後継者に付与される機能を規定していることで、特有性と比類なさにおいて世界の諸聖典の中にあつてユニークで類を見ないものとなつている。なぜなら、預言者自身が実際に発した教えの言葉が存在しない旧約聖書や、それ以前に書かれた諸々の聖典と異なり、また、イエス・キリストが語つたとされる数少ない言葉がその信教の諸事を将来どう管理して行くべきかに関する明確な導きを記していない福音書とも、更には、神の使徒によつて定められた法や法令に関しては明確でありながら、後継者という極めて重要な主題については黙しているコーランとも異なつて、アグダスの書は始めから終わりまで、この宗教制の著者自身により啓示されたものであり、彼の未来の世界秩序の構造の基盤となる根本的な法や法令を後世の人のために確保しているだけでなく、彼の後継者に付与する解釈者としての機能に加えて、信教の完全性と一体性を保護するための必須の諸機構を定めているのである。

将来の世界文明の憲章であるこの書の著者——審判者であり、律法定定者であり、人類の統合者および救済者であるその著者——は、地上の国王らに対して最も偉大な法の發布を宣言し、国王らは自分の従者であると断言し、自分は「諸王の中の王」であると宣言し、国王たちの領土に手をつける意志のないことを断言し、「人民の心を捕らえ、所有する」権利は自分のものとして保持するとしている。また、世界の聖職者らに対して、彼らの間に流布している基準で「神の書」を推し量らぬようにと警告し、その書自体が人々の間に確立された「誤りのない秤」であると断言している。この書においてバハオラは「正義院」という機構を正式に定め、その諸機能を定義し、その財源を定め、そのメンバーらを「正義の紳士ら」、「神の代理人」、「慈悲に満ちたもう御方の信託人ら」と指定し、将来の、彼の聖約の中心について暗示し、その彼に聖典を解釈するという権利を付与し、守護者制という機構を含意的に予期し、彼の世界秩序の革命的な影響力について証言し、神の顕示者の「最高の不謬性」という教義について宣言した。そして、この不謬性は預言者たちに本来備わっており、彼らの独占的

な権利であることを断言し、少なくとも一千年が経過する前に次の顕示者が出現する可能性を否定している。

さらに、この書においてバハオラは必須の祈りを規定し、断食の時期と期間を定め、故人のための祈り以外の会衆の祈りの慣行を廃止し、ゲブレを制定し、ホゴゴラ（神の権利）を制定し、遺産相続の法やマシユレゴウル・アズカルの機構を定め、十九日毎のフィーストやバハイの祭典や閏日を確立し、聖職者制度を廃止し、奴隷制度や禁欲主義や物乞い、修道院制度、懺悔、説教壇の使用、手への接吻を禁止している。また、一夫一婦制を規定し、動物の虐待、怠慢・怠惰、陰口および中傷を咎め、離婚をとがめ、賭博や阿片の使用、酒やその他酔いを引き起こす飲料の使用を禁止し、殺人や放火や姦通や窃盗に対する罰則を指定し、結婚の重要性を強調し、結婚の基本要件を定め、商いや何らかの職業に従事することを義務づけ、そのような仕事に勤しむことを崇拜の地位にまで引き上げ、子ども教育のための手段を提供する必要性を強調し、遺言を書くことと自国の政府に厳格に従うことをあらゆる者に義務づけている。

これらの規定に加えて、バハオラは、自らの信奉者らに、友情と調和をもって、差別することなく、すべての宗教の信奉者らと交わるよう勧告し、狂信や扇動行為、傲慢や論争や争い事を避けるよう忠告している。また、完璧な清潔さ、厳格な正直、汚れなき貞節、信頼性、もてなしの精神、忠実、礼儀、寛容、正義、公平を説き、「一つの手の指のごとく、一つの身体の手足のごとく」なるよう助言し、立ち上がって大業に奉仕するよう呼びかけ、彼らに対して彼の疑いのない援助を保証している。さらに、人の世の不確実性について詳説し、真の自由は彼の命令への服従にあることを宣言し、彼の法の実行にあたっては甘くしないようにと戒め、「神の啓示の曙」を認めることと、その啓示の曙が示したすべての法を守るという一對の、切り離すことのできない義務を規定し、この二つの義務は一方だけでは受け入れられないと断言している。

神の日において与えられた機会を掴み、正義を擁護するようという、アメリカ大陸の共和国の諸大統領へ宛てた意義深い召喚。世界共通の文字と言語を採用するよう

促した世界中の議会のメンバーらへの訓令。ナポレオン三世の征服者であるウイリアム一世への警告。オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフに浴びせた叱責。「ラインの川岸」宛てに彼が頓呼法で書いた「ベルリンの嘆く声」への言及。コンスタンチノーブルに確立された「残虐の王座」に対する非難、およびその都市の「外見の輝き」の消滅とその住人らを襲うべく運命づけられた苦難に関する予告。神が彼の生まれ故郷を「全人類の喜びの源」として選ばれたことを確信させるべくその都市へ向けられた歓呼と慰めの言葉。彼らの主の栄光を賛美して「ホラサンの英雄らの声」が上げられるという彼の予言。彼のことを述べる、「大いなる勇気を付与された」人々がケルマンに現れるという断言。そして最後に、バハオラをそれほどまでに苦しめた不実な弟に対する寛大な保証の言葉、つまり、もし悔い改めさえすれば、「常に許し給い、全てに恩寵深き」神がその不正行為を許し給うであろうということ。これらの言葉はすべて、その著者が「真の喜びの源」、「誤りのない秤」、「一直線の道」、「人類を蘇生させるもの」と称したこの書の内容を、一層豊かなものとするのである。



さらにバハオラは、この書の主要テーマを構成する法と掟の特徴を次のように述べておられる——「全創造物への生命の息吹」、「最も強大なる要塞」、彼の「樹の果実」、「世の秩序の維持と人々の安全にとって最高の手段」、彼の「英知と愛情あふれる摂理のランプ」、彼の「衣の甘い香り」、そして創造物に対する彼の「慈悲の鍵」と。「この書は、われがわが命令と禁止という星をもって飾った天である」とバハオラは自ら証言し、さらに次のように述べている——「それを読み、力の主であり、全能者である神によってそこに下された聖句について熟考する者は幸いなり。言挙げよ、おお、人々よ。忍従をもってそれを手にするが良い……。わが生命にかけて。それは人々の理性を驚嘆させる方法で下された。まことに、それは全人類に対するわれの最も厳肅なる証言であり、天と地に住む全ての者に対する慈悲深き御方の証拠である」。そしてさらに、「その甘味を味わう口蓋、そこに秘められているものを認識する感知力ある目、そしてその暗示と神秘を悟る理解力ある心は幸いなり。神にかけて！そこに明かされていることの威厳はあまりに大きく、またヴェールに包まれた暗示の啓示は並外れてい

## アグダスの書に関するショーギ・エフェンディの描写

るため、それらの描写を試みる時、発言の腰は震えてしまうのである」と述べ、そして最後に、「アグダスの書の啓示の方式は、神により定められた宗教制のすべてを引きつけ、包みこむほどである。それを精読する者は幸いなり。それを理解する者は幸いなり。それについて瞑想する者は幸いなり。その意味について熟考する者は幸いなり。その範囲はあまりにも広大であるため、人類がそのことに気づく前にそれは彼らを覆い包んだのである。やがて、その最高の力と浸透力とその強大なる偉大さは地上に現わされるであろう」と述べている。



# アグダスの書



1

これまで存在してきたもの、  
これから存在するものすべての  
至高の支配者なる  
彼の御名において

神がしもべらに定め給うた最初の義務は、神の啓示の曙であり、神の法の源泉であり、神の大業の王国と創造の世の双方において神の地位を代表する者を認めることである。この義務を果たした者は何人なんびとであれ、すべての善に達した者である。また、この義務を怠った者は、いかなる良き行いの実行者であろうとも、道を踏みはずした者である。この最も崇高なる地位、この超越した栄光の頂きに達した者に求められることは、世界の望みのである御方の法のすべてに従うことである。対をなすこれら二つの義務は不可分である。どちらも他を欠いては受け入れられない。聖なる靈感の源である御方は

## 2

このように定め給うたのである。

神より洞察力を授けられた者は、次のことを容易に認めるであろう。神の定め給うた教えは世の秩序の維持と、人々の保全にとつて最高の手段である。神の教えに顔をそむける者は、卑しく愚かなる者の内に数えられる。まことに、われは汝らに命ずる。自らの邪悪な情欲と腐敗した欲望が命じることを拒否し、最も崇高なる御方のペンが定めた限界内に踏みとどまれ。何となれば、これらは全創造物にとつて命の息吹だからである。神聖なる英知と言葉の大海は慈悲深き御方の息の微風により湧き立っている。おお、理解ある人々よ。急ぎ行きて心行くまで飲むがよい。神の法を破ることによつて神の聖約に違反し、背を向けた者は嘆かわしい過ちを犯した者として神の目に映るのである。神こそはすべてを所有し、最も高遠なり。

3

おお、世界の人々よ。このことを確信せよ。わが法は、わがしもべらに与えられたわが愛情あふれる摂理のランプであり、わが創造物に対するわが慈悲の鍵である。これは、啓示の主なる汝の主の御心の天から下されたものである。御心によって慈悲深き御方の御口より発せられた言葉の甘美を味わった者は、彼の恩恵に満ちた保護と慈愛の地平線上に輝く法の真実の一つでも立証するためであれば、たとえ地上の富をすべて所有していようとも、それらをすべて放棄するであらう。

4

言挙げよ。わが法からはわが衣の甘い香りが漂い、これら法の援助により勝利の旗は最も高い頂きに立てられよう。わが威力の舌は、わが全能なる栄光の天上より次の言葉をもってわが創造物に語りかけたのである。「わが美を愛するが故に、わが法に従え」。この言葉にはいかなる舌も描写することのできない恵みの香りが満ちている。この言葉より、最愛なる御方の神聖なる芳



香を嗅ぐことができた、愛する者は幸いなり。わが命にかけて言う。わが恵み深き恩恵の手より公平さの選り抜きの美酒を飲んだ者は、わが創造の地平線上に輝くわが法の周りを巡回するであろう。

5 われが単なる法典を汝らに現わしたと思うな。否、まさにわれは威力と強大の指をもって選り抜きの美酒の封を切ったのである。啓示のペンが書き記したことが、このことの真を証言する。このことについて瞑想せよ、おお洞察力ある者らよ。

6 われは、正午と朝と夜に、聖句の啓示者である神に向かい9つのラカーからなる必須の祈りを捧げるよう汝らに命じた。われは、神の書の命令として、これ以上の数を唱えることを免除した。まことに彼は、命令者、全能者、何ものにも束縛されぬ御方である。この祈りを捧げたいと欲するときには、わ

## アグダスの書

7

が最も神聖なる面前の宮居に顔を向けよ。それは、神が、その周りを天上の群衆が回る中心点となし、永遠の都の住人らの崇敬の点と定め、天と地にいるすべての者への命令の源として定め給うたこの聖なる地点である。そして、真理と発言の太陽が沈んだ後は、われが汝らのために定めた地点へ顔を向けよ。まことに彼は全能にして、全知におわす。

すべての存在は彼の抵抗しがたい命令によって生じたのである。わが法がわが発言の天上より太陽のごとくに現われるとき、万人はそれに忠実に従わねばならない。たとえわが命令が、あらゆる宗教の天界を粉碎するものであつたとしても従わなければならぬ。彼は望むままになし、また彼は選び給う。そして、誰もその選択に異論を唱えることは許されない。まことに、最愛なる御方の定め給うことはそのまま愛されるものである。これについては、全創造物の主なる御方がわが証人なり。慈悲に満ち給う御方の甘美なる芳香を

嗅ぎ、この言葉の源泉を認識した者は、神の法の真を人々の間に確立するた  
めであれば、自らの目をもって敵の矢を受けとめるであろう。神の法に向かい、  
彼の決定的な命令の意味を理解する者は幸いなり。

8 われは必須の祈りの詳細を別の書簡に記した。全人類を支配したまう御方  
によって従うよう命じられたことを実行する者は幸いなり。故人のための祈  
りでは、聖句の啓示者である神により、六つの特定の文が規定された。文字  
の読める者は、それらの文の前に記された文言を唱えるがよい。そして、文  
字の読めない者については、神はこの義務を解き給うた。まことに、神は強  
大なる御方、許し給う御方である。

9 獣毛は汝の祈りを無効にはしない。また、もはや命の宿っていないもの、  
たとえば骨やそれに類似するものも祈りを無効にはしない。汝らは、ビーバー

ヤリスやその他の動物の毛皮を着ると同じように、黒てんの毛皮を着ることが出来る。その使用の禁止はコーランに由来するのではなく、聖職者たちの誤解によるものである。彼はまことに、栄光に満ちたもう御方、すべてを知り給う御方である。

われは成人に達したときから、祈りと断食をするよう汝らに命じた。これは、汝らの主、汝らの祖先の主なる神によって命ぜられたことである。神はご自身の御前よりの恩恵として、病気や高齢のために虚弱な者についてはこの義務を免除された。神は許し給う御方、寛大なる御方である。神は、清潔な表面ならどこであろうとひれ伏してよいという許しを汝らに与えられた。われはこれに関して、聖典において規定された制限を取り除いたのである。まことに、神は汝らがまったく知らぬことについて知り給う。洗淨用の水が見つからない者は、「最も純粹なる御方、最も純粹なる御方にまします神の御名に

おいて」という言葉を五回繰り返して、それから祈るがよい。これが、すべての世界の主の命令である。昼間や夜が長くなる地域では、時計やその他、時間の経過を示す手段をもって祈りの時間を合わせよ。まことに、彼は解説者にして、賢明なる御方である。

11

われは汝らに対し、現象の祈りを唱える義務を廃棄した。恐ろしい自然現象が起ったときは、すべてを聞き、すべてを見たまう御方、汝らの主の強大さと威厳を思い起こして次のように唱えよ。「支配は神と共にあり、神こそは目に見えるもの、見えぬものの主におわし、創造の主におわします。」

12

必須の祈りは汝らがめいめい独りで捧げるように命じられている。故人のための祈りを例外とし、会衆の祈りの慣行は廃止されたのである。まことに、彼は命令者におわし、すべてに賢き御方である。

13 神は月経中の女性を必須の祈りと断食から免除された。その代わりに彼女は

らは洗淨の後、その日の正午から翌日の正午までの間に「光輝と美の主なる神に栄光あれ」という言葉を95回繰り返し唱えることによつて神を賛美するがよい。聖典にこのように定められたのである。汝らもし理解する者ならば。

14 汝ら、もし旅行中に安全な場所に止まって休むなら、男性も女性も同じよ

うに、唱えていない必須の祈りの回数に応じて一度ずつひれ伏し、その状態で「威力と威厳、恩寵と恩恵の主なる神に栄光あれ」と唱えよ。これができない者は「神に栄光あれ」とだけ唱えよ。これでその者には十分であることを確信せよ。彼はまことに、すべてに満ち足りたまい、永続したまい、許したまい、憐れみ深き神である。平伏の動作を終えたなら、足を組んで、男性も女性も、18回、次のように繰り返すがよい。「天と地の王国の主なる神に栄

光あれ」。このように、主は、真理と導きの方法を明らかにされる。それらの方法は一つの道につながるものであり、それはこの一直線の道である。この最も恩寵深き好意について神に感謝を捧げよ。諸々の天と地とを取り囲んだこの恩恵について神に賛美を捧げよ。全創造に浸透したこの慈悲のゆえに神を称えよ。

15

言挙げよ。神は、わが隠されたる愛を財宝への鍵とされた。汝ら、これを知ることができたならば。その鍵がなければ、財宝は永遠に隠されたままであつたであろう。汝ら、これを信じることができたならば。言挙げよ、これが啓示の源であり、光輝の黎明の地である。そして、その明るさは世界の諸々の地平線を明るく照らした。汝ら、これを理解することができたならば。また、これこそは確定された定めであり、取り消すことのできないすべての命令は、それを通じて確立されたのである。

おお、最も高遠なる御方のペンよ。言挙げよ。おお、世界の人々よ。われは汝らに短期間の断食を命じ、その期間の終わりにノー・ルーズを祝宴として定めた。始めと終わりの主なる御方の定めに従って、発言の昼の星はこのように聖典の地平線上に輝きでたのである。それらの月を超過して余剰の日々を、断食の月の前に置くがよい。われはこれらの日々を、すべての夜と昼の中で「ハ」という文字の現われとして定めた。このように、これらの日々は、一年やそれらの月の枠にとらわれないものである。この期間中、バハの人々は自分や親族、貧者や困窮者に喜びをもたらす義務があり、喜びと歓喜を持って自らの主を歓迎し、称え、主の賛美を歌い、主の御名を称える義務がある。そして、自制の時期の前にあるこれら施しの日々が終わったら、断食を開始せよ。全人類の主なる御方はこのように定め給う。旅人や病弱者、子どもをみごもっている者や授乳中の者らには断食の義務はない。彼らは、神の恩寵の印として神より免除を受けている。まことに神は、全能なる御方、最も寛



大なる御方である。

17 これらは神の最も崇高なるペンにより諸々の聖典や書簡に記されている神の法である。神の法規と命令にしっかりとつかまれ。そして、自らの愚かな妄想と、はかない空想とに従って自らが定めた基準に固執して、神が規定された基準を投げ捨てた者らの一人となるな。日の出から日の入りまで飲食を断て。そして、聖典に定められたこの恩寵を、欲望のために奪われぬよう注意せよ。

18 審判の主である神を信じる者はすべて、毎日、手と顔を洗った後、座し、神の方を向いて「アラホ・アブハ」を95回繰り返し返すよう定められている。天の創造者は、威厳と力をもって自らを御自身の諸々の名の玉座に確立されたとき、こう命じ給うたのである。必須の祈りを唱える時も同様に洗浄を実施せよ。

これが、比類なき御方、何ものにも束縛されぬ御方なる神の命令である。  
汝らは殺人や姦通、陰口や中傷を禁じられている。神聖なる聖典や書簡で  
禁じられていることを避けよ。

われは相続財産を7つの部類に分けた。子ども達には五四〇株を構成する  
9分を割り当て、妻には四八〇株を構成する8分、父親には四二〇株を構成  
する7分、母親には三六〇株を構成する6分、兄弟には5分または三〇〇株、  
姉妹には4分または二四〇株、そして教師には3分または一八〇株を割り当  
てた。これは、夜中となく夜明けとなくわが御名を賛美し続けたわが先駆者  
が定めた法令である。われは、まだ生まれていない子らの叫びを聞いたとき、  
子どもの分け前を二倍にし、残りの分け前を減らした。まことに、彼は欲す  
るがままに定める力を有し、その主権の威力により、望み通りになし給う。

21

故人に子どもがない場合、子どもの分け前は正義院に帰属する。それは、慈悲に満ち給う御方の受託人らにより、孤児や未亡人、公共の福利のために費やされる。そうすることで、すべての者が、慈悲深き御方、許し給う御方なる彼らの主に感謝を捧げんがために。

22

故人が子どもを残している場合、しかし聖典で規定されている他の部類の相続人がいない場合、子どもは遺産の三分の二を受け取り、残りの三分の一は正義院に帰属することになる。これは、すべてを所有したまう御方、最も高遠なる御方により、威厳と栄光をもつて与えられた命令である。

23

故人に規定された相続人はいないが、親族の中に甥や姪（兄弟、姉妹双方）どちらの筋でもよい）がいる場合、遺産の三分の二は彼らに分けられる。あ

## アグダスの書

るいは、もし甥や姪がない場合は叔父や叔母（父方と母方）に渡り、さらにこれらがない場合は、叔父や叔母の息子や娘に分けられることになる。いずれの場合も、残り三分の一の遺産は正義の座へ帰属する。すべての者を支配する御方は聖典中にこのように規定された。

24 もし故人の遺族に、最も高遠なる御方のペンにより記された名のいずれもない場合は、故人の財産はすべて前述した座へ帰属し、神により規定されたことに費やされる。まことに、神は定めたまう御方、全能なる御方である。

25 われは故人の住まいや衣服を、女性ではなく男性の子どもに割り当てた。そして、その他のいかなる相続人にも割り当てていない。まことに、彼は寛大におわし、恩恵に満ち給う御方である。

26

子どもを残して先立つた息子の父親が故人となった場合、その子ども達は神の聖典に規定されている通り、父親の取り分を相続する。汝ら、この子らの取り分を彼らの間で完全なる正義をもって分割せよ。発言の大海はこのようにうねりを上げ、全人類の主によって定められた法律の真珠を打ち上げたのである。

27

故人が未成年の子どもを残した場合、子ども達の取り分は、信頼できる個人、あるいは会社に委託されなければならない。子ども達が成年に達するまで、彼らの代わりに商業や事業に投資するためである。受託人は、このようにして得られた利益のうち妥当な取り分を受け取るべきである。

28

財産の分与は、ホゴゴラが支払われ、借金が清算され、葬儀と埋葬の費用が支払われ、故人が威厳と敬意をもって墓地へ運ばれるような取り計らいが

なされて初めて行われるべきである。始めと終わりの主におわす御方はこのように定め給う。

言挙げよ。これこそが決して変わることはない隠された知識である。なぜなら、その始まりは9と共にあり、9は隠され、かつ明白なるもの、侵すことができず、また近寄ることもできないほど崇高なる御名を示す象徴であるが故に。われが子どもらに割り当てたものについては、それは子どもらに、憐れみ深き御方、慈悲深き御方なる彼らの主に感謝を捧げるようにと、神が彼らに付与し給うた恩恵である。まことに、これらが神の法である。自らの、卑しく利己的な欲望にそそのかされてそれらを侵すなかれ。発言の黎明の場なる御方により汝らに課された法令を遵守せよ。神のしもべらの中の誠実なる者らは、神が定められた教えを、あらゆる信教の信奉者らへの生命の水、また天と地のすべての住人らへの英知、愛情ある摂理のランプと見なすであろう。

30

主はあらゆる町に正義院が設立され、そこにバハの数の評議員が集うよう定め給うた。しかし、この数を越えても構わない。彼らは自らを、崇高なる御方、最も高遠なる御方である神の面前に入る者、目に見えざる御方を見る者と見なすべきである。彼らは、人々の中の、慈悲深き御方の受託人でなければならず、また、自らを、地上に住むすべての者のために神より任命された擁護者であると思なさなければならぬ。彼らの義務は、共に協議し、自らの利益を考慮するが如くに神のしもべらの利益をも神のために考慮し、適切かつ相応しいことを選択することである。汝らの主なる神は汝らにこう命じるのである。汝ら、神の書簡に明確に啓示されているものをなおざりにすることなきよう注意せよ。神を畏れよ、おお、感知する汝らよ。

31

おお世の人々よ。汝ら、すべての宗教の主なる御方の御名において各地に

礼拝堂を建設せよ。存在の世においてできる限り完璧にそれらを建て、偶像や彫像ではなく、それに相応しいもので礼拝堂を飾れ。そうして、そこで、輝きと喜びをもって最も憐れみ深き御方なる汝らの主を賛美せよ。まことに、主を記憶することにより目は喜ばされ、心は光で満たされるのである。

32 主は可能な者に対しては聖なる家への巡礼を定め給うた。そして、主はご自身の慈悲として、この定めから女性を免除された。まことに、主は恩恵に満ち給う、最も寛大なる御方である。

33 おお、バハの人々よ。汝らは各自、技能職や商業など、何らかの職業に従事する義務がある。仕事に従事する汝らのその行為を、われは唯一真実なる神への礼拝と同じ地位にまで高めた。おお人々よ、汝らの主の恩寵と祝福について熟考し、朝な夕なに主に感謝を捧げよ。怠惰や無精で汝らの時間を無



駄にすることなく、自分および他者に利益をもたらすことに専念せよ。英知と発言の昼の星がその地平線上に輝くこの書簡にはこう定められているのである。神の目が最も嫌う者は、座して物を乞いをする者である。手段の綱にしっかりと縋り、すべての富の供給者なる神に汝らの信頼を置くがよい。

34 手に接吻することは聖典において禁止されている。この習慣は栄光と命令の主なる神により禁じられた。他の者に赦免しゃめんを求めることは誰にも許されない。悔い改めようとするとするならば、自分と神との間で行え。まことに神は許し給う御方、恵み深き御方、恩寵にあふれる御方、寛大なる御方、悔い改める者を許し給う御方である。

35 おお汝ら、慈悲深き御方のしもべらよ。神の諸々の御印の曙を否定した者らが引き起こす不安や悲しみに惑わされない程の熱意をもって神の大業への

奉仕に立ち上がれ。約束が果たされ、約束された御方が出現した時、地上の民の間に意見の相違が生じ、人々は皆、自らの空想と愚かな妄想に従った。

人々の中には、入口のそばの下足場に座していても、心の中では榮譽の上座に着くことを切望する者がいる。言挙げよ。汝は一体何という人間なのか。おお汝、自らの本性と違ふ姿を装う、虚栄に満ちた無思慮な者よ。また、人々の中には内なる知識を、そしてこの知識の内奥に隠されているさらに深い知識を有していると主張する者がいる。言挙げよ。汝は偽りを語っている。神にかけて言う。汝が有するものは、犬に残される骨のように、われが汝に残した<sup>もみがら</sup>粗殻にすぎないのである。唯一真実なる神の正義にかけて。ある者が、全人類の足を洗い、森や谷や山、高い丘や<sup>そび</sup>聳える山の頂上で神を崇拜し、岩や木や土の塊までがすべてその礼拝の目撃者であったとしても、もしその者からわが喜びの芳香をかぐことができなければ、その者のなしたことは決し

て神によって受け入れられるものではない。すべてのものの主なる御方はか  
くのごとく定め給うたのである。インドの地に身を隔離し、神が合法と定め  
るものをも放棄し、禁欲生活を送り、難行苦行を自らに課したにもかかわら  
ず、聖句の啓示者なる神に記憶されなかつた者が何と多くいたことか。汝ら  
の行いを、自らの願望の対象を捕らえるための罫としてはならない。そして、  
神に接近する者らすべてが常に切望してきたこの究極の目標を自ら奪ってし  
まわぬようにせよ。言挙げよ。すべての行為の生命そのものは、われを満足  
させることである。そして、すべてのことはわが承認に依存する。汝ら、諸々  
の書簡を熟読せよ。栄光に満ち、常に恩寵深き神の諸々の聖典が何を意図し  
ているかを理解するために。わが愛に達する者は黄金の玉座への権利を有し、  
名譽の中で全世界を見下ろす席に座す権利を有するのである。わが愛を奪わ  
れた者は塵ちりの上に座すとも、その塵でさえもすべての宗教の主なる神に避難  
所を求めらるであらう。

一千年が完全に経過する前に、神より下された啓示を携えてきたと主張する者は、まさしく虚偽を語る偽り者である。そのような主張を撤回し放棄するよう神が恩寵深く援助し給うことをわれは神に祈る。もしその者が悔い改めるならば、無論、神は彼を許されるであろう。しかし、もし過ちに固執するならば、神は必ずその者を容赦なく扱う者を遣わされるであろう。誠に神は、罰することにおいて恐るべき御方である。この言葉をその明白な意味以外に解釈する者は、万物を取り巻く神の慈悲と聖霊から見放された者である。神を畏れ、自らの愚かしい妄想に従うことなく、全能にして聡明なる汝らの主の命に服従せよ。やがて、騒々しい叫び声がほとんどの国で上げられよう。それらを避けよ、おお、わが民よ。そして、不正で邪悪な心を持つ者らに従うな。これは、われがイラクに住んでいたとき、そしてその後は神秘の地にいたとき、汝らに予め警告してきたことである。そして今や、この輝かしき地点か

らその警告を發しているのである。

38

おお、世の人々よ。わが美の昼の星が沈み、わが幕屋の天界が汝らの目から隠されたとき、失望してはならない。わが大業を促進し、わが言葉を人々の間に高めるために立ち上がれ。われは常に汝らと共にあり、真理の力で汝らを強めるであろう。われはまことに全能である。われを認める者は皆、天と地のいかなる勢力もその行く手を阻むことのできないほどの強い決意をもつて立ち上がり、われに仕えるであろう。

39

世の人々は深い眠りにある。その眠りから目覚めれば、彼らは全知にして聡明なる神のもとへと一心に急ぐであろう。主が彼らのことを心に留め、彼らにたった一言でも言葉を掛けてくださるなら、彼らは地上のすべての財宝を所有していたとしても、それらをすべて投げ捨てるであろう。隠されたる諸

事の知識を有する者は、かくして汝らに訓示する。彼はその知識を、創造物の目には触れることのない書簡に納め給うた。そしてその書簡は諸々の世の全能なる加護者である彼以外の何者にも明かされることはない。邪悪な欲望に酔いしれるあまり、人々は非常な困惑に陥っている。そのため、もはや彼らは「われをおいて神はなく、われは強大にして、聰明なる者なり」と声高らかに四方より呼びかけておられる万物の主を認めることができないのである。

言挙げよ。汝の所有物を汝の喜びとしてはならない。それらは、今宵、汝が所有していようと、明日には他人のものとなる。全てを知り、全てに精通し給う御方が汝らにこう注意するのである。言挙げよ。汝らの所有物が確かなものであり、永続するものであると断言できようか。否、最も慈悲深きわれ自身にかけて言う。汝の生涯の日々は、一陣の風のごとく過ぎ去り、汝の誇る華美や栄華は、先立った者らの華美や栄華と同様に崩れ去るのである。

熟考せよ、おお人々よ。汝らの過ぎし日々と、失われた幾百年もの時の流れはどうなったのか。神の思いに捧げた日々は喜びの日々であり、聡明なる御方の賛美に過ぎした時は祝福された時である。わが命にかけて誓う。権力者の栄華も、富豪の富も、また、不信心者の優勢も持続するものではない。彼の一言でそれらはすべて消滅する。まことに神は御力に満ち、全能にして、すべてを屈服させ給う御方である。人々の所有するこの世の物に何の利益があろうか。彼らは自分たちの真の利益となるものをまったく無視している。そのうち彼らは眠りから覚め、全能にしてすべてに賛美される彼らの主の日に逃したものはや取り戻せないことを知らされよう。このことを悟っていたなら、彼らは、神の玉座の前に名が語られるために自らのすべてを放棄していたであろう。まことに、彼らは死者の内に数えられる。

人々の中には学識があることで傲慢になり、自力にて存在する者というわが

御名を認識することから妨げられた者がいる。そのような者は自分の後ろについてくる靴音を聞くと、ニムロデにも増して尊大になる。言挙げよ。おお拒絶されし者よ。ニムロデの住まいは今どこにあるのであろうか。神かけて言う。それは最も下の火中にある。言挙げよ。おお、聖職者らの群衆よ。わが崇高なるペンの甲高い音が聞こえないのか。栄光に満ちた地平線上に、まぶしいほどに輝くこの太陽が見えないのか。汝らは自らの邪悪な欲望という偶像をいつまで崇め続けるといふのか。空しい想像を捨て、汝らの永遠なる主である神に顔を向けよ。

42

慈善行為のために捧げられた基金は、御印みしるしの啓示者である神に帰属する。啓示の黎明の場である御方の許可なしには誰もそれを処分する権利はない。彼の後、この権限はアグサンらに継承され、その後は正義院——それまでにこれが世界に設立されていれば——に受け継がれる。彼らによって、そのよう



な資産がこの大業において高められた諸々の聖地のため、また、強大と力の神なる御方により彼らに命ぜられている事柄に使われるために。さもなければ、これらの資産は、彼の許可なしに語ることなく、この書簡において神が定めたことだけに従って判断するバハの人々に帰属する。見よ、彼らは天と地の間の勝利の勇者である。その彼らが、強大なる御方、恵み深き御方である神によって聖典中に規定された方法でその資産を使うために。

43

試練のとき嘆くなかれ。また、試練の中にあつてそれを喜ぶなかれ。汝ら中道を求めよ。中道とは苦難の中にあつてわれを記憶し、将来汝らに降りかかるかもしれないことについて黙考することを意味する。全知者にしてすべてに精通する御方は汝らにこう伝えるのである。

44

剃髪してはならない。神は毛髪を頭の飾りとし給うたのである。このことに

は、自然の必要条件について考える者らに対する創造主からのしるしがある。彼はまことに力と英知の神である。しかしながら、髪を耳たぶよりも下に伸ばすことは相応しくない。すべての世界の主なる御方はこのように定め給う。

盗人に対しては追放と投獄が定められている。そして、三回目の犯行におよんではその者の額に印をつけよ。そうすることで、彼がそうであることが確認され、神の諸々の都市や国に受け入れられないようにされる。汝ら、憐れみのために、神の宗教の法令の実行を怠らぬよう警戒せよ。憐れみ深く、慈悲深き御方によって汝らに命じられたことを実行せよ。ちようど息子を教育する父親のように、われは汝らを英知と法の杖で教育する。そしてこれはただ、汝ら自身の保護と汝らの地位の向上のためである。わが命にかけて言う。われが聖なる法を啓示するにあたって汝らに望みしことを汝らが発見するなら、汝らはこの神聖にして強大なる、そして最も崇高なる信教のために自らの魂

そのものを捧げるであろう。

46

金や銀の器の使用を望む者はそうするがよい。食事をするとき、碗わんや皿の中に手をつつまぬよう注意せよ。汝ら、最も洗練された作法を身につけよ。まことに、彼は、彼の強大にして最も莊嚴な王国における樂園の住人らの作法を汝らの内に見たいと望まれる。いかなる状況においても優美であることに固執せよ。汝らの目が、汝ら自身と樂園の住民らにとつて不快になるようなものを見ることから守られるように。そこから逸脱する者の行為はその瞬間に無効となる。しかし、もし妥当な理由があれば、神はその者をお赦しになる。まことに、神はご仁慈の御方、最も恵み深き御方である。

47

神の大業の黎明の場である御方は、その最高の不謬性ふみょうせいにおいて共同者をもたない。彼こそは創造の王国において「彼は望むままになし給う」を顯示す

る者である。神はこの特異性を御自身で占有し、この莊嚴にして超越的な地位を誰にも分け与えてはおられない。これは、これまで、見通すことのできない神秘のヴェールに隠されていた神の定めである。われは、それをこの啓示において明らかにした。そして、われはそうすることにより、神の聖典に記されたことを認識できず、無思慮な人々の内に数えられた者らを覆うヴェールを引き裂いたのである。

すべての父親には、読み書きの技能や聖なる書簡に定められたあらゆることについて息子や娘を指導する義務がある。自らに命ぜられていることをなかがしろにする者については、もしその父親が裕福であれば、受託人らは教育に必要な費用を父親から徴収し、裕福でなければそのことは正義院に委ねられる。まことに、われは正義院を貧者や困窮者の避難所とした。自分の息子、あるいは他人の息子を育て上げる者は、われ自身の息子を育てたに等しい。

そのような者には、全世界を包み込むわが栄光と、愛情ある優しさと慈悲とが宿らん。

49

神は姦通を犯した者には、男性にも女性にも、罰金を課したまい、罰金は正義院に支払われることとした。その罰金は金9メスガルであり、もし再び違反を犯したら罰金は二倍となる。姦淫した者に対して諸々の御名の主なる御方が課し給うこの世における罰則はこれである。そして、神は、来るべき世において彼らに屈辱的な苦悶を定めておられる。罪に苛まれている者は悔い改め、己の主のもとに戻るが良い。主は、お望みの者に対して許しを与え、主が望みのままに定め給うことに関して異論を唱える権利は誰にもない。主はまことに、常に許し給う御方、全能なる御方、最高に賛美され給う御方である。

50

栄光の暗幕によって、この生きた泉の水晶のごとく澄んだ水を飲むことを

妨げられぬよう警戒せよ。夜明けをもたらず御方の御名において、汝らこの夜明けの時に救済の杯を握りしめよ。そして、栄光に満ち、比類なき御方を賛美して心ゆくまで飲むがよい。

51 われは、汝らが音楽や歌を聞くことを合法とした。しかし、それらを聞くことで、礼節と威厳の限界を越えぬよう注意せよ。わが最大名に由来する喜びを汝らの喜びとせよ。それは心に歓喜をもたらし、神に接近した者らの理性を陶醉させる御名である。まことに、われは音楽を汝らの魂の梯子とし、魂を天上の領域に引き上げる手段とした。それゆえ、それを自我と情欲の翼としてはならない。まことに、われは、汝らが愚かな者の中に数えられるのを見たくはない。

52 われは、あらゆる罰金の三分の一は正義の座へ送られるよう定めた。また、

われは正義の座の紳士らに対し、純粹なる正義を守り、このようにして蓄積したものを、全知者、すべてに賢き御方が命じ給う目的に使用するよう忠告する。おお汝ら、正義の紳士らよ。神の領土において神の羊たちのための羊飼いとなり、扮装して現われる強欲な狼たちから彼らを擁護せよ。自分の息子らを保護すると同じ様に。助言者であり誠実なる御方は、汝らにこのように勧告し給う。

53

汝らの間に何らかの相違が生じた場合、太陽がまだこの天の地平線上に輝いている間は、それを神に照会せよ。そして、その太陽が沈んだ後は、彼より下されたものに照会せよ。これはまことに、世の諸々の人々にとって十分である。言挙げよ、おお人々よ。わが存在の栄光が退き、わが言葉の大海原おおうなばらが静まる時、心を乱されてはならない。われが汝らと共にあることには道理があり、わが不在にもまた違った所以ゆえんがある。比類なき御方、全知者なる神

## アグダスの書

の他は誰もそれを知り得ない。まことに、われはわが栄光の王国より汝らを見守り、わが大業の勝利のために立ち上る者には誰であれ、天上の軍勢と、わが愛する天使の一団をもつて援助の手を差し伸べるであろう。

54 おお地上の人々よ。永遠の真理におわす神こそわが証人なり。何ら拘束されぬ汝らの主の語った甘美なる言葉により、岩の中からも静かに流れる清水が湧き出たのである。にもかかわらず、汝らは今もなお、眠りにある。汝らの所有するものを投げ捨て、世俗超脱の翼に乗り、すべての創造物を越えて高く舞い上がれ。そのペンの動きにより全人類の魂に大変革をもたらした創造の主は、汝らにこう命じるのである。

55 栄光に満ち給う汝らの主がどれほど高遠な所から呼びかけておられるか、汝らは承知しているのであろうか。諸々の名の主が汝らに命令するのに用いら



れたペンを、汝らは正しく認識したと思つてゐるのであるうか。否、わが生命にかけて、決してそうではない。もし汝らがこのことを理解していたなら、この世のものを捨て、最愛なる御方の御前へと一心に急いだであろう。汝らの魂は最愛なる御方の言葉に魅せられ、喜びに恍惚となつたであろう。その喜びは、全宇宙をも激動させるほどのものであり得たのである。とすれば、この狭く、取るに足りない世界にあつてはどれほどの激動が起こつたであろうか。このようにしてわが恵みの天水は、わが慈愛の天上より注がれたのである。これこそわが恩寵の証である。さらば汝ら、感謝する者であれ。

56

人に怪我を負わせたり暴行を加えたりすることに對する罰は、負寄せた傷害の程度による。それぞれの程度に応じて、審判の主はいくらかの賠償を規定された。主はまことに、定め給う御方、強大なる御方、最も崇高なる御方である。われは、もしそれがわが意志ならば、程度に応じた公平な賠償額を

## アグダスの書

定めるであろう。これはわが約束である。まことに、主はご自身の誓いを守り給う御方であり、全知者である。

57 まことに汝らは、毎月一回フィーストを提供するよう命じられている。たとえ水だけしかなくとも。なぜなら神は、たとえ天と地の両方の手段を使つてでも、汝らの心を結びつけることを意図されたが故に。

58 肉体の欲望と墮落した心の抱く欲望とによって汝らの間に分裂が生じることなきよう注意せよ。汝ら、一つ手の指のごとく、また、一つの身体の器官のごとくあれ。このように啓示のペンは汝らに勧告する。おお、汝ら、信じらる者ならば。

59 神の慈悲と賜物について熟考せよ。神はいかなる被造物をも必要とされな

い。にもかかわらず、神は汝らに対し、汝らを利することを命じ給う。汝らの悪行は決してわれを害することはない。汝らの善行もまた、われを利することはない。われはまったく、神のためにのみ汝らに呼びかけるのである。このことは、理解と洞察力を持つすべての者が証言するところである。

60 鳥や動物を使って狩りをする場合、それを獲物に向けて放つ時に神の御名を唱えよ。そうすれば、捕られた獲物は汝らにとって合法なものとなる、仮に獲物が既に死んでいたとしても。神はまことに、全知にしてすべてに精通し給う御方である。しかし、過度に狩猟せぬよう注意せよ。すべてのことにおいて正義と公平の道を歩め。啓示の黎明の場なる御方は汝らにこう命じ給う。汝ら、理解する者ならば。

61 神はわが親族に親切であるよう汝らに命じ給うた。しかし、彼は、他人の

財産に手をつける権利をわが親族に与えてはいない。まことに、神は創造物を必要とせず、自ら満ち足り給う。

62

ある者が意図的に家に放火したならば、その者自身も焼かれなければならない。汝ら、強さと力の限りを尽くして神の教えにすがれ。そして、無知な者のやり方を捨て去れ。放火犯と殺人犯を終身禁固刑に処すことは聖典の規定に照らして許される。まことに、彼は、望むままに定める威力をもち給う。

63

神は、結婚を汝らのために規定された。二人より多く妻をめとらぬよう注意せよ。神の侍女の中から一人の伴侶を選んで満足するならば、夫も妻も平穩のうちに生きるであろう。女中を奉公に雇いたい者は、礼節を持ってそうすることができぬ。これが、啓示のペンにより、真実と正義において記され

た法令である。おお人々よ、わがしもべらの間でわれのことを述べる者をもたらすために結婚せよ。これは、汝らに対するわれの指示である。自分自身のためにそれに確固としてつかまらるがよい。

64 おお世の人々よ。自我の誘惑に従うな。それは、邪悪と肉欲へと執拗しつように呼

びかけるものである。むしろ、全創造物を所有し給う御方であり、汝らに敬虔な態度を示すよう促し、神への畏れを表すよう命じる御方に従え。まことに、彼は、いかなる創造物からも独立し給う。秩序が整えられた後に、国に騒動を起すことがないよう注意せよ。そのような行動をする者はわれには属さない。われはそのような者と関係を持たない。それが、啓示の天より、真理の力を通して顕現された命令である。

65 バヤンにおいて、結婚は結婚する二人の同意を条件とした。わがしもべらの

間に愛と和合と調和の確立を欲したわれは、二人の望みが明らかになった後、結婚について双方の両親の認可を条件とした。彼らの間に敵意や恨みが起きないように。そして、われは、このことに他にもいくつかの目的を持たせた。わが命令はこう定めた。

結納金の支払いなしに結婚は成立しない。結納金は、都会に住む者は純金19メスガル、村に住む者は銀19メスガルと定められている。これ以上の額を納めようとする者は95メスガルを限度とし、この限度を超えてはならない。このようにして、命令は威厳と威力とをもって明記されたのである。聖典によれば、最低額の支払いに満足することはその者にとつてより良いことである。まことに神は、天と地の両方の手段をもって、ご自身が望む者を豊かになし給う。まことに、彼は万物に対して力を持ち給う。

神はこう定め給う。神のしもべが旅をする時は妻に対して帰還の時期を定めなければならぬ。約束したときまでに帰還するならば、そのしもべは主の指示に従ったことになり、神の命令のペンにより、清廉なる者の一人に数えられよう。さもなれば、もし、遅延する妥当な理由があるなら、妻に連絡し、妻のもとに戻るために最大の努力を払わねばならない。このどちらの事態も起きない場合、妻は9ヶ月間待つ義務がある。その後は、別の男性を夫として迎えても何ら支障はない。しかし、もし妻がさらに待つなら、まことに神は忍耐を示す男女を愛される。汝ら、わが命令を遵守せよ、そして、神の聖なる書簡において罪人と見なされた不信心なる者らに従うな。妻が待っている間に夫からの便りがあれば、彼女は賞賛に値する道を選ぶべきである。まことに彼は、ご自身のしもべらと侍女らが互いに平安であることをお望みである。汝らの間に非協調的態度を引き起こすことがないように注意せよ。このように法令は定められ、約束は果たされたのである。しかし、もし、夫の死、

あるいは殺害の知らせが届き、その事実が一般に認められ、あるいは二人の公正な証人によりそれが確認されたなら、彼女は独りのままでいることが好ましい。そして、定められた月数が過ぎた後には、自ら選択した道を取ることもができる。これこそは、命令することにおいて威力に満ち、強力なる御方の指示である。

夫と妻の間に憎しみや嫌悪感が起きたならば、夫は妻と離婚すべきではなく、一年間、辛抱強く待たなければならない。愛情の芳香が二人の間に再び取り戻されるように。一年経過してもその愛情が取り戻されなければ、離婚が許可される。まことに、神の英知は万物を包含する。汝らが妻に三度離婚を言い渡したときの過去の時代の慣習について、主は、その命令のペンによって記した書簡でそれを禁止された。主は、汝らが感謝する者らのなかに数えられるよう、このことをご自身からの恩恵としてなし給うた。妻と離婚した



男性は、月が経過するごとに、互いに愛情と同意があり、彼女が別の男性と結婚していなければ、その女性と再婚することができる。彼女が再婚していれば、再婚によって別離が確定され、彼女の状況が明らかに変化しない限りその事柄は終結する。このようにして、法令は美の黎明の場である御方により威厳をもってこの栄光に満ちた書簡に記されたのである。

69

妻が夫に同伴して旅行している時にいさかいが生じた場合、夫は妻の生活費を一年間供給しなければならない。そして、元のところへ彼女を帰すか、そのために必要な旅費を添えて家まで送るよう、信頼できる人に彼女を託さねばならない。まことに、汝らの主は、地上の諸民族を覆い包む主権により、お望みのままに命じ給う。

70

女性が不貞行為を実証され、その結果として離婚された場合、彼女は待機期

間中の生活費を受け取ることはできない。このように、わが命令の昼の星は正義の天空より輝きでた。まことに、主は和合と調和を愛し、離別と離婚を忌み嫌われる。おお、人々よ。輝く精神と喜びをもって共に生活せよ。わが命にかけて言う。地上にあるものはすべて過ぎ去って行く。一方、善行のみが永続するのである。わが言葉の真実については神ご自身が証言される。おお、わがしもべらよ、互いの相違を和解させよ。そして、栄光のわがペンの勧告を聞き入れ、傲慢なる者と片意地なる者らに従うな。

71 汝ら、過去の人々が欺あやむかれたように、この世界に欺かれることなきよう注意せよ。汝らの主の法令と教えを遵守し、正義と真実をもって、汝らの前に示されたこの道を歩め。不正と過ちを避け、美徳を固守する者らは、唯一真実なる神の目から見て神の創造物の中で最も優れたものの中に数えられる存在である。彼らの名は、天上の領土の群衆によって、また、神の御名のもと

に建てられたこの幕屋に住む人々によつて賛美される。

72

男性であれ、女性であれ、奴隷を売買することは禁じられている。自分自身もべたる者が、神の別のしもべを買うなどということはできず、この行為は神の聖なる書簡で禁じられている。このように、神の慈悲により、正義のペンを通して命令は記されたのである。何人も自分なんびとを他の者の上に置いてはならない。万人は皆、主の御前において奴隷であり、神の他に神はいまさぬという真実を具現するものである。まことに、彼はすべてに賢き御方におわし、彼の英知は万物を覆い包む。

73

汝ら自らを善行の衣で飾れ。神の御心に召す行いをなす者はまことにバハの人々の一人であり、彼の玉座の御前で記憶される。汝ら、清廉なる行為をもつて、また、英知と発言を通して、全創造物の主を援助せよ。実に、慈悲に満

ち給う御方は、そのほとんどの書簡を通して汝らにこう命じておられるのである。まさしく、彼はわれが述べることを知り給う。何人も他人と論争してはならない。また、何人も人を殺してはならない。まことに、これは栄光の幕屋の中に隠されてきた聖典で禁じられていることである。汝ら、神が生氣を与え給うた者、神がご自身の息吹で精神を授け給うた者を殺すというのか。そうならば、神の玉座の御前で、汝らの罪は甚だしいものである。神を畏れよ、そして、神ご自身が立ち上がらせ給うたものを破壊する不正と圧制の手をふり上げるな。否、真実なる神の道を歩め。真の知識の軍勢が聖なる発言の旗を掲げて出現するやいなや、諸々の宗教の民は敗走したのである。その唯一の例外は、栄光に満ち給う御方の息吹により創造された楽園に流れる永遠の生命の小川から飲むことを欲した人々のみである。

神は、創造物への慈悲の印として、精液は不浄でないと定め給うた。喜び

と輝きをもつて神に感謝を捧げよ。そして、神への近接の黎明の場から遠く離れた者らに従うな。いかなる状況にあらうとも、大業への奉仕に立ち上がれ。なぜなら、神は諸々の世界を覆い包む神の主権の力を通して、必ずや汝らを助け給うが故に。汝らの衣の上に些pakかの汚れの跡も残さぬほどの不屈をもつて洗練性の綱にしっかりとすがれ。それが、すべての洗練性を超えて聖別された御方の訓令である。正当な理由でこの基準に沿えない者は、何もとがめられることはない。まことに、神は寛容にして、慈悲深き御方である。水の有する三つの面のいずれにおいても変化をきたしていない水を用いて、汚れた物をすべて洗浄せよ。空気や他の物質にさらされて変化した水を使わぬよう注意せよ。汝ら、人類の間で清潔の真髓であれ。まことに、これは、比類なき御方、すべてに賢き御方が汝らのために望み給うことである。

同様に、神は、神の御前からの恩恵として、様々な物や民族を汚れたものと

見なす不浄の概念を廃止された。疑いもなく、神は常に許し給う御方、最も寛大なる御方である。まことに、レズワンの最初の日に、われが、わが最も優れた諸々の御名とわが最も崇高なる諸々の属性の光輝をもつて全創造物を照らしたとき、全創造物は浄化の大海に浸されたのである。これはまことに、すべての世界を覆い包むわが愛情溢れる摂理の印である。従つて、汝ら、すべての宗教の信奉者らと交わり、最も憐れみ深き御方なる汝らの主の大業を宣布せよ。これこそはあらゆる行為の王冠である。もし汝ら、理解する者ならば。

ほこりを被った物でさえも、洗つて、最高の清潔を守るよう神は汝らに命じられた。固まった泥や、それと同じような汚れはなおのことである。神を畏れよ、そして純潔なる者であれ。人目をひくほど汚れた衣類を着た者の祈りは神のもとへ昇ることはなく、天上の群衆もその者から顔を背けるであろう。バラのエキスや純粋な香水を使用せよ。まことにこれは、神が始めなき

始めより愛し給うたことである。比類なき御方、すべてに賢き御方なる汝らの主が望み給うものが汝らから放散されるように。

77

神は本の破棄についてバヤンで規定された法令から汝らを解放された。われは無意味な論争に終始するようなものではなく、汝らの益になる諸々の科学の本を読むことを許可した。その方が汝らのためになる。もし汝ら、これを理解する者ならば。

78

おお、地上の王たちよ。すべてを支配する主が出現したのである。王国は神に属し、神こそは全能なる庇護者にして、御自力にて存在し給う。神のみを崇拜し、輝く心もてすべての名の主なる汝らの主に向けて顔を上げよ。たとえ汝らの所有するすべてをもつてしても、この比類なき啓示に比べ得るものは決してない。汝ら、このことを知り得たならば。

79

われは、汝が、他人のために積み上げたものを己の喜びとし、わが守られたる書のみが語り得る諸々の世界から自らを閉めだしているのを見る。汝らが蓄えてきた財宝は、汝らの究極の目的から汝らを遠く引き離している。この状況は決して汝らにふさわしいものではない。汝ら、もしそれを理解する者ならば。心を清め、世俗の汚れをすべて洗い流し、主の王国へと急げ。主こそは天と地の創造者におわし、世界を震撼させ給う。そして、主は、すべてを放棄して隠されたる書簡の定めにする者を除き、地上のすべての人々を嘆き悲しませ給うたのである。

80

この日こそは、神と語り合った者が日の老いたる者の光に到達し、海をもうねらせたこの聖盃から再会の清水を飲み干した日である。言挙げよ。唯一真なる神にかけて言う。シナイ山は啓示の曙の周囲を巡り、神の精神なる者



は王国の高所より次のように声たからかに宣言している。「おお、地上の傲慢なる者らよ、奮起せよ。そして彼のもとへ急げ」。この日、カルメル山は敬慕の念を抱き彼の宮廷に向かつて急ぎ、シオンの中心からは、「約束は果たされた。神の聖典に予告されたことは実現した。神こそは最も崇高なる全能者におわし、最愛なる者なり」の叫びが轟とどろいているのである。

81

おお、地上の王たちよ。最も偉大なる法は、この場所、すべてを超越する輝きに包まれたこの場所において啓示されたのである。隠されていたものはすべて、至上の命令者の意志により明かされたのである。彼こそは終末をもたらし、月を裂き、あらゆる不変なる命令を説く者なり。

82

おお、地上の王たちよ。汝らは従属者にすぎない。今や王の中の王なる者がその最もすばらしき栄光に包まれて出現し、危急の場の救助者におわし、御

自力にて存在し給う御自身のもとに汝らを召喚しているのである。汝らの慢心が啓示の源を認める妨げとならぬよう注意せよ。また、世俗の諸事が暗幕となり、汝らを天上の創造者から閉め出すことのないよう心せよ。立ち上がれ、そして、すべての国の望みの的である者に仕えよ。彼は御口をもれる一言によつて汝らを創造し、時代を超えて、汝らを御自身の主権の象徴と定め給うたのである。

83 神の正義にかけて！ 汝らの王国に手をかけることがわれの望みではない。人民の心を捕らえ、それを所有することがわれの使命であり、バハの目は彼らを見据えている。諸々の名の王国はこの真実を証言する。汝ら、それを理解する者ならば。自らの主に従う者はみな、この世とそれに属するものをすべて放棄する。ならば、これほど崇高な地位にある者の世俗超脱はいかに大いなるものであろうか。汝らの宮殿を捨て、彼の王国への入場を求めて急げ。

実にこれは、この世においても、次の世においても汝らを利することである。天上の領土の主はこのことの真を証言する。汝ら、もしそれを知り得たならば。

わが王国においてわが大業を援助するために立ち上がり、われ以外のすべてを超脱する国王を何と大いなる祝福が待ち受けていることか。そのような王は、神がバハの人々のために用意された深紅の箱船の一行の一人に数えられよう。万人はその王の名を称え、その地位に敬意を払わなければならない。目に見える王国、見えぬ王国のすべての住人の全能なる加護者というわが名の鍵により諸々の都市の開錠に努めるその王に、万人は加勢しなければならぬ。このような王は、人類の目に相当し、創造の世の額に輝く装飾であり、全世界を覆う祝福の源泉である。おお、バハの人々よ。汝らの財産、否、汝らの生命をも捧げて彼に加勢せよ。

おおオーストリアの皇帝よ。汝がアクサの寺院を訪問すべく出発した時、神の光の曙なる御方はアツカの牢獄に住んでいた。すべての家は彼によって高められ、すべての崇高な門の鍵は彼によって開けられるにも関わらず、汝は彼のそばを通り過ぎ、彼について尋ねもしなかった。まことに、われは、人々がわれを記憶するようにと、この場所を世界が向かうべき場所とした。しかし、彼が、汝の主であり、諸々の世界の主なる神の王国と共に現われたとき、汝はこの記憶の対象である御方を拒絶した。われは常に汝と共にあって、汝が枝にしがみつき、その根に不注意であるのを発見した。まことに、汝の主はわが言葉の証人なり。われが汝の面前にいるにもかかわらず、われに気づくこともなく、ただ、わが御名の周囲を回る汝を見て、われは悲しみに暮れた。この栄光あるビジョンを目にするために汝の目を開け。そして、汝が昼となく夜となく呼びかける御方を認識し、光輝みなぎるこの地平線上に輝く光を凝視せよ。

言挙げよ。おお、ベルリンの王よ。この明白なる聖堂より、「まことに、永遠なる者、比類なき者、日の老いたる者なるわれ以外に神はなし」と呼びかける声に耳を傾けよ。傲慢によつて聖なる啓示の曙を認識することを妨げられぬよう、また、世俗の欲望という暗幕によつて、天上と地上の玉座の主から閉め出されぬよう注意せよ。最も崇高なる御方のペンは汝にこのように勧告する。まことに、彼は最も恩寵深き御方、恩恵に満ち給う御方である。かつて汝以上に卓越した権力を有し、汝の地位より高い地位にあつた者を汝は思い出すことができるか。彼は<sup>1</sup>今どこにいるか。彼が所有していたものはどこに消え去つたのか。これを警告とし、深い眠りに落ち込む者であるな。残虐の軍勢がわれに与えた苦しみについてわれが彼に知らせたとき、彼は神の書簡を後ろに投げ捨てたのである。それゆえ、恥辱があらゆる方向から彼に

1 ナボレオン三世

襲いかかり、彼は大きいなる損失のうちに塵へと戻って行つた。おお、国王よ。その彼について、そして汝と同じように多くの都市を征服し、人々を支配した者らについて深く考えてみよ。慈悲に満ち給う御方は彼らを彼らの宮殿から墓へと落された。この忠告を聞き入れ、熟考する者であれ。

87

われは汝らから何を求めたことはない。まことに、われは神のために汝らに勧告する。そして、汝らの手がわが身にもたらしたことにこれまで耐えてきたように、これからも耐えるのである、おお、国王たちよ。

88

おお、アメリカの為政者たちとその諸共和国の大統領たちよ。永遠の枝にうたう鳩の声に耳を傾けよ。「永続する者、許す者、恩恵に満ちた者なるわれの他に神はなし」。汝ら、施政の聖堂を正義と神への畏敬の念をもって、そして、その頭を天界の創造者なる汝らの主の記憶の冠をもって飾れ。諸々の名

の曙なる者は、全知にして聡明なる御方の命じられた通りに汝らにこう忠告する。約束された者は、この栄光ある地位において現われたのである。そして、目に見えるもの、見えぬものすべてがそれに歓喜したのである。汝ら、神の目が提供する機会を逃さず活用せよ。まことに、彼に会うことは、汝にとつて、太陽に照らされるすべてのものにも増して有益である。汝ら、それを知り得たならば。おお、統治者らの集まりよ。壮大の曙より上げられた声に耳を傾けよ。「まことに、発言の主であり、全知者なるわれの他に神はなし」。打ちひしがれた者らを正義の手もてつなぎ、栄華のなかにある圧制者を、汝らの主、命令者、すべてに賢き御方の命令の鞭で粉碎せよ。

89

おお、コンスタンチノープルの人々よ。見よ、われは汝らの間にたちのぼる梟くわうろうの不吉な鳴き声を聞く。情欲の酔態が汝らを捕らえたのか、それとも、汝らが無頓着の中に沈んでいるのか。おお、二つの海の間位置する地よ。ま

ことに、残虐の玉座は汝の上に確立され、憎悪の炎は汝の懐に灯された。天上の群衆と、崇高なる玉座の周りを巡る者らが泣き叫び、嘆き悲しむほどに。われは汝のなかに愚者が賢者を支配する様を發見し、暗闇が光明に対し自らを誇るのを見る。まことに、汝は、明らかなる傲慢に満たされている。汝の外見の輝きが汝の虚栄心を焼き付けたのか。人類の主なる御方にかけて言う。その輝きは間もなく消え去り、汝の娘らや未亡人ら、また汝のなかに住むあらゆる民族は嘆き悲しむであろう。すべてを知り、すべてに賢き御方は、汝にこのように告げるのである。

90

おお、ラインの川岸よ。われは、報復の劍が汝に對して抜かれ、汝が血糊に覆われているのを見る。これは再度繰り返されるであろう。今は繁榮の中にあるにせよ、われにはベルリンの嘆きの声が聞こえる。



91

何も悲しむことはない、おお「ター」<sup>2</sup>の地よ。神は汝を全人類の喜びの源として選び給うた故に。もしそれが御意志ならば、神は正義をもって統治し、狼たちが追い散らした神の羊の群れを再び集める者を汝の王座に据えて祝福されるであろう。その統治者は大いなる喜びをもつてバハの人々に顔を向け、彼らに好意を示すであろう。実に、その統治者は人類の中の宝石として神の目に映るであろう。神の栄光と神の啓示の王国に住むすべての者の栄光は、彼の上に永遠に宿らん。

92

大いに喜べ。何となれば、神の栄光の顕示者は汝の内に誕生し、神は汝を「彼の光の曙」と定められたからである。汝に授けられたこの名を喜びとせよ。恩寵の昼の星はこの名を通してその光輝を放ち、天と地を共に明るく照らしたのである。

## アグダスの書

93

やがて汝のなかの情勢は一変し、主権は国民の手に移行するであろう。まことに、汝の主はすべてを知り、その権威はすべてに及ぶものである。汝の主の恩寵深い好意を確信せよ。主の慈愛の目は永遠に汝に向けられよう。汝の動揺が、平和と平穩に変わる日は近づきつつある。すばらしき書にはこのように定められているのである。

94

おお、「ハー」<sup>3</sup>の地よ。すべての所有者におわし、最も崇高なる御方なる汝の主を賛美する英雄たちの声が汝より聞こえてくる。すべてに栄光ある者というわが名のもとに、聖なる諸々の名称の旗が創造の王国に掲げられる日は祝福されん。その日、忠実なる者らは神の勝利に歓喜し、不信心者らは嘆くであろう。

95

何人も、なんびと人民を統治する者らと争ってはならない。彼らのことは彼らに任

せて、汝らは人々の心に集中せよ。

96

おお、最も強大なる海よ。永遠の主権者なる御方が汝に課し給うたことを諸国にまき散らせ。そして、地上のすべての住人らの聖堂を彼の法の衣で飾れ。その法を通してすべての心は喜び、すべての目は明るくされよう。

97

ある者が一〇〇メスガルの金を得たならば、そのうちの19メスガルは神のものであり、天と地の造形者なる彼に捧げられねばならない。おお人々よ、この大いなる恩恵を自ら逸することなきよう注意せよ。われはこれを汝らに命じたが、われは汝らをはじめとする天と地にあるいかなるものもまったく必要とはしない。その中には全知にして、すべてに精通し給う神の他のいかなる者の理解をも超える利益と英知がある。言挙げよ。この方法により、神は、汝らが自らの所有物を浄化し、神が意図された者以外のいかなる者も理解で

## アグダスの書

きない地位に汝らを近づけんと欲し給うたのである。まことに神は寛大にして、恩寵深く、恵沢多き御方である。おお、人々よ。この神の権利を不誠実に扱うな。また、彼の許可なしにそれを自由に処分してはならない。このように、神の命令は諸々の聖なる書簡で、そしてこの崇高なる聖典で確立された。神に対して不忠義なる者は、正義にかけて自ら不忠義と出会うことになる。しかし、神の指示に応じて行動する者は、恩寵深き御方、授け給う御方、寛大なる御方、日の老いたる者である己の主の恩恵の天より祝福を受ける。まことに、主は汝らのために、今はまだ汝らの知識を超えるものを意図されたのである。しかし、それはこの束の間の人生の後、汝らの魂が天へと昇り、汝らの世俗的喜びの装飾品が巻き上げられた後に汝らに知らされるのである。護られし書簡を所有する御方はこのように汝らに勧告される。

98 目に見えるもの、見えぬものの主、すべての世界の主なる御方から下される

神の法に關して、信者らから様々な請願がわが玉座の前に送られてきた。したがって、われは人々が主の命令を遵守するようにとこの聖なる書簡を啓示し、主の法をもってそれを裝飾したのである。過去数年間、同様の要求がわれのもとへ寄せられたが、われはわが英知をもって、多くの友らから手紙が届けられた最近の日々まで、わがペンを保留した。われはこうして、眞實の力を通して、人々の心に生氣を与えるものをもって返答した。

99

言挙げよ。おお、宗教の指導者らよ。汝らの間に今日普及している基準や学問をもって神の聖典を推し量つてはならない。なぜなら、神の書はそれ自体、人の世に確立された誤りのない秤であるが故に。地上に住む諸々の民が有するものはすべて、この完全なる秤にかけられねばならない。そして、この秤に用いられる基準は、この秤固有の基準によってのみ試される。おお、汝らこのことを知り得たならば。

汝らは、昼に夜に、朝に夕べに汝らが呼びつづけてきた御方を認めることができなかつたのである。われは汝らのこの有様を嘆き、わが憐れみの目には涙があふれる。おお、人々よ。雪のように純白な顔と輝く心とをもって、祝福された深紅の地点に向かって進行せよ。そこでは、サドラトル・モンタハがこのように呼びかけている。「まことに、われ以外に神はなく、われは全能なる保護者にして、自力にて存在する者なり」。

おお、宗教の指導者らよ。洞察力や看破力においてわれと比較されうる者が汝らの中にいようか。また、わが言葉と英知に匹敵するものを持つとあえて主張できるものがどこにいようか。否、慈悲深きわが主にかけて！ 地上にあるすべてのものは朽ち果てる。そして、これこそが全能にして、敬愛される汝らの主の御顔である。

102

おお、人々よ。あらゆる学問のなかで最高、かつ、究極の目標としてわれが定めたものは、すべての知識的である御方を知ることである。にもかかわらず、この有様を見よ。汝らの学識はまるでヴェールのように彼との間をさえぎっており、汝らはこの状態に甘んじているのではないか。彼こそはこの光明の曙であり、隠されていたものはすべて彼を通じて明かされたのである。この言葉の輝きの光源を発見できたならば、汝らはこの世の人々と、彼らの所有するすべてを捨てて、この最も祝福された栄光の座に接近したであろう。

103

言挙げよ。まことに、これこそは母なる書が納められている天界である。おお、汝ら、このことを理解し得たならば。彼こそは岩に叫び声をあげさせ、聖地に聳<sup>そび</sup>える山頂で燃えさかる藪<sup>やぶ</sup>に「御国は神のものなり。神は、万物を支配し給う主におわし、御力に満ち、愛し給う御方なり」と、声たからかに語

## アグダスの書

らせた者である。

104

われは学び舎に学んだこともなければ、汝らの論文をひもといたこともない。常に存在し給う神のもとへと汝らを召喚するこの無学なる者の言葉に耳を傾けよ。これは汝らにとって、地上のすべての財宝に勝るものである。おお、汝ら、このことを理解し得たならば。

105

啓示の天から下されたものを解釈し、その明白なる意味を歪める者は、まことに神の莊嚴なる言葉を歪めた者であり、明らかなる書に記された迷える者らに属す。

106

汝らは、爪を切り、身体を浸すことができるだけの水で毎週沐浴し、以前使用していたものを用いて自らを清潔にするよう命じられている。怠慢のゆえ



に、比類なき御方、御仁慈の御方が汝らに定められしことに違反することなきよう注意せよ。清潔な水に浸れ。すでに使用された水で沐浴してはならない。ペルシヤの大衆浴場にある浴槽に近づかぬよう注意せよ。そのような浴場に行く者は、それに入る前にその悪臭を嗅ぐであろう。そのような所を避けよ、おお人々よ。そして、そのような不潔をおめおめと受け入れるような者になるな。まことに、それらは不潔と汚染の水槽のようなものである。もし汝ら、理解する者ならば。同じく、ペルシヤの家の中庭にある悪臭のする水槽も避けよ。そして清く聖別されたものであれ。まことにわれは、汝らが地上における樂園を具現するのを見たいのである。汝ら、神の好意を得る者らの心を喜ばせるような芳香を放散させよ。沐浴者が水槽に浸かる代わりに、身体に水をかけて洗うならそれは一層よいことで、そうすれば身体を浸ける必要はない。まことに、主はご自身の面前からの恩恵として、汝らの生活が容易になることを意図し給うた。汝らが真に感謝する者であるようにと。

## アグダスの書

107

汝らは自分の父親の妻との結婚を禁じられている。われは、まったくの羞恥心から、男児の主題について取り扱うことを控える。汝ら、慈悲深き御方を畏れよ。おお、世の人々よ。わが聖なる書簡において汝らに禁じられていることを犯すな。そして、己の欲望の荒野で取り乱してさまよう者であるな。

108

誰であれ、道や市場を歩きながら公衆の面前で聖句を呟くことは許されない。いやむしろ、主を賛美せんと欲するなら、この目的のために建てられた場所や自分の家するのが相応しい。この方が誠実さと信心深さに適う。このように、わが命令の太陽はわが発言の地平線上に輝きでた。わが命令を守る者に祝福あれ。

109

すべての者は遺書を書くよう義務づけられている。遺言者は最大名をもつ

てこの文書の冒頭を飾り、神の啓示の曙において神の一体性を証言し、それから賞賛すべきことを心のままに述べるがよい。それは啓示と創造の王国で遺言者の証言となり、最高の保護者、忠実なる御方なる彼の主と共にある宝となるからである。

110

すべてのフィーストは二つの最も偉大なる祭典と、一対の日に来る別のもう二つの祭典をもって頂点に達した。最も偉大なる祭典の最初のもものは、慈悲に満ち給う御方が、全創造界にご自身の最も優れた諸々の御名と最も崇高なる諸々の属性の輝かしい栄光を放たれた日々であり、二つ目はこの御名の吉報を人類に宣言した者をわれが立ち上がらせた日である。この御名を通して死者はよみがえり、諸々の天と地にあるすべてのものは一つに集められたのである。定め給う御方、全知者なる御方によってこのように定められたのである。

111

バハの月の初日を迎えた者は幸いである。この日は、神がこの偉大なる御

名に捧げ給うた日である。この日に神より授けられた恩恵を、身をもって表す者に祝福あれ。まことに、そのような者は、すべての世界を包含する主の寛大さを証言する行為を通して神に感謝を表す者らの一人である。言挙げよ。まことに、これはすべての月の王冠であり、その源泉であり、生命の息吹が全創造物のうえに漂う日である。輝きと喜びをもってその日を迎える者の祝福は大なり。われは証言する、その者はまことに、幸福に満ちた者らのうちに数えられることを。

言挙げよ。まことに、この最大の祝祭日はもろもろの祝祭日の王である。お、人々よ、神が汝らに授けられた恩恵を想起せよ。汝らは眠りの底にあった。その時、見よ！ 神はその啓示からもたらされる再生の微風で汝らを目覚めさせ、明らかで真つ直ぐな神の道を汝らに知らせ給うたのである。

113

病気のときは有能な医師に頼れ。われは、物質的な手段の使用を排除するものではない。われはむしろ、神が、輝かしく、栄光ある大業の黎明の地とされたこのペンを通して、物質的手段を肯定してきたのである。

114

神は以前、各信者に自分の所有物の中から貴重な贈り物をわが玉座の面前に捧げる義務を課し給うた。しかし今、われはわが慈悲深い恩寵の印としてこの義務を廃止した。まことに、神は最も寛大にして、すべてに恵み深き御方である。

115

夜明けに思いを神に向け、神を思い起すことに専念し、許しを請い求め、マシユレゴウル・アズカルへ歩みを向け、そこに入り、静かに座して、主権者、御力の御方、すべてに賛美される御方なる神の聖句に耳を傾ける者に祝福あれ。言挙げよ。マシユレゴウル・アズカルは、われを賛美するために町や村

に建てられた各建物すべてである。これは栄光の玉座の前に指定された名称である。汝ら、理解する者であれば。

116

すべてに慈悲深き御方の聖句を最も麗しい調べで唱える者らは、天と地の主権も比較し得ないものを聖句の中に見いだすであろう。彼らは、それらの聖句からわが諸々の世界——今日、この崇高で麗しい啓示を通して視力を授けられた者以外は誰も認めることのできない世界——の聖なる芳香を嗅ぐであろう。言挙げよ。これらの聖句は、言葉で言い表すことも引喩でほのめかすこともできない諸々の精神界に、清らかな心を引きつけるであろう。耳を傾ける者らに祝福あれ。

117

おお、わが人々よ。わが創造物の間でわれについて語るため、また、わが領土全体にわが言葉を高揚するために立ち上がった、われの選びししもべら

を援助せよ。まことに、彼らはわが慈愛の摂理の天の星であり、全人類へのわが導きのランプである。しかし、その言葉がわが聖なる書簡で下されていることと矛盾するならば、その者はわれに属する者ではない。不信心なる詐称者に従わないよう留意せよ。これらの書簡は夜明けをもたらし、天と地の間に声を上げた御方の印章で飾られている。この確かな把手とてと、強大で疑う余地のないわが大業の綱とにしつかりとすがれ。

118

主は、誰であれそれを望むなら、世界のさまざまな言語を学ぶことを許し給うた。それによりその者が西洋と東洋の至るところで神の大業のメッセーヂを伝えることができ、また人々の心を活気づけ、朽ちたる骨に生気を与え、るために世界の民族や国民の間で神について語るができるように。

119

理性を授けられている人間が、その理性を奪ってしまうものを取り込むこ

とは許されない。いやむしろ、人間は人間の地位にふさわしい態度で振る舞わねばならない。そして、すべての、無思慮で、常に揺らいでいる者らの悪行に従うべきではない。

汝らの頭を信頼と忠実の栄冠で飾り、心を神への畏れという装いで飾り、舌をまつたくの真実で飾り、身体を礼儀正しさの衣服で飾れ。まことに、これこそが人間の身体にふさわしい飾りである。もし、汝ら熟考する者であれば、おおバハの人々よ、真実なる御方である神への隷属の綱にすがれ。それにより汝らの地位が明らかにされ、汝らの名が記され、保存され、汝らの階級が引き上げられ、そして汝らの名声が保存された書簡の中で高められよう。地上の住人らによってこの栄光ある高貴な地位に達することを妨げられないように注意せよ。われはわが書簡の大半と、そして今、この聖なる書簡の中で、汝らにこのように勧告する。汝らの神、強力なる御方、全てに賢き御方なる



主の法の昼の星は、この聖なる書簡の頭上から光を放った。

121

わが現存の大海の潮が引き、わが啓示の書が終わったとき、神の意図し給うた者、この古来の根茎より分岐した者に汝らの面を向けよ。

122

人々の心の狭量について考えてみよ。彼らは自らを害するものを求め、益するものを捨てる。実に、これらは遠くさまよう人々である。ある者は自由を欲し、自由に振る舞うことを誇りとしている。これこそは無知の深みにある人々である。

123

自由は最終的には騒乱に至り、誰もその炎を消すことはできない。審判者にして全知者におわす御方はこのように警告しておられる。自由の具現と象徴は獣である。人間にふさわしいことは、自らの無知から自分を保護できるよ

## アグダスの書

うな節度に従うことであり、悪事を働くものから自分を守ることである。自由によって人は礼節を逸脱し、人間の地位の尊厳を侵害するに至る。自由は人間を極度の墮落と邪悪の状態に陥れる。

124

人類を、羊飼いの保護を必要とする羊の群れと見なせ。まことに、これは真実であり、疑う余地のない真理である。われは一定の状況のもとでは自由を承認するが、その他の状況においては許すことはない。まことに、われは全知者なり。

125

言挙げよ。汝らはこれに気付いていないが、真の自由はわが戒律に従うことにある。われが啓示の天より下したことを遵守するならば、人間は間違いない完全な自由を得るであろう。全創造物にみなぎる神の意志の天から啓示されたものすべてに内在する神の目的を理解した者は幸いなり。言挙げよ。汝

らの益となる自由は、永遠の真理なる神に対する完全な隷属以外に見いだすことはできない。そして、一度その甘味を味わった者は、天と地のすべての主権をもつてしても、それを交換することを拒むであらう。

126

バヤンの書はわれに質問することを禁じている。今や主はこの禁令を解き給うた。汝らが必要とあらば自由に尋ねることができるようになされたのである。しかし、それらは過去の時代の人々が繰り返してきたたわいない問いであつてはならない。神を畏れよ。そして公正なる者であれ。神の大業と神の領土とにおいて汝らに益となるようなことを問うがよい。神の憐れみ深い同情の門は天と地に住むすべての者の面前に開かれたからである。

127

神の書で定められた一年間の月の数は19である。これらの月のうち最初の月は、全創造を覆い包むこの御名をもつて飾られた。

主は、死者を埋葬する際、水晶、堅くて耐性のある石材、または良質で耐久力のある木製の棺に入れるよう定められた。また、死者の指には文字を刻んだ指輪をはめることを定め給うた。まことに、主は最高の命令者であり、すべてを知り給う御方である。

これらの指輪に刻む文字は、男性の場合、「天と地にあるすべてと、その間にあるすべてのものは神のものなり。まことに神はすべてを知り給う」であり、女性の場合は、「天と地とその間にあるすべてのものの主権は神のものなり。まことに神はすべてを超えて強力であり給う」である。これらの句は以前に啓示されたものであった。しかし、見よ、今やバヤンの点は高らかに叫んでいる。「おお、諸々の世界の最愛なる御方よ。これらの言葉の代わりに、あなたの恩寵深い恵みの芳香が全人類に漂いくるような言葉を現し給え。あなた

から発せられたひとつの言葉は、バヤンに示されたすべての言葉に優ることをわれはすべての人に告げた。まことに、あなたは御心のままに為す威力を持ち給う。あなたの慈悲の大海の、あふれんばかりの恩恵をあなたのしもべから取りあげ給うな。まことに、あなたは限りなき恩寵の御方におわす」。見よ、われは彼の叫びを聞き、今やその望みをかなえた。まことに、彼は最愛なる御方、祈りに答え給う御方である。この瞬間、神から下された次の句が、男女双方の埋葬用の指輪に刻まれるならば、それは故人にとつてより良いことである。確かに、われは至上の命令者である。「われは神より来たり、そして神の他のすべてを超脱し、慈悲深き御方、憐れみ深き御方なる神の御名にしっかりとすがり、神のもとへ戻れり」。このようにして、主はお望みのままに人を選び、自らの面前より恩恵を注ぎ給う。まことに、主は強大と威力の神におわす。

さらに、主は、死者を五枚の絹または木綿の布で包むよう定められた。財

## アグダスの書

力に限りがある者は、これらのいずれかの布一枚で十分である。すべてを知り、すべてに精通し給う御方はこのように定められた。遺体を、町から一時間間の距離を超えて運ぶことは禁じられている。むしろ、輝く心と沈着をもって、近くの場所に埋葬するがよい。

131

神はバヤンの書で課せられた旅の制限を除き給うた。まことに、彼はまったく自由なる御方なり。彼は望みのままに為し、何事も思いのままに定め給う。

132

世界の人々よ。諸々の御名の主であり、最大の牢獄の住まいから汝らに宣言する者の呼びかけに耳を傾けよ。「まことに、強力なる者、威力ある者、すべてを従わせる者、最も崇高にして、全知者であり、すべてに賢き者なるわれの他に神はなし」。まことに、諸々の世界の全能なる統治者たる彼の他に神は存在しない。御心ならば、彼は御自身の面前から生じるたった一言で全人

類を捕え給うであろう。この大業を受け入れるにあたり、ためらわぬよう注意せよ。これは、天上の群勢と諸々の名称の町の住人とがその御前に頭をたれた大業である。神を畏れ、暗幕で遮かざられた者らの一人になるな。汝ら、わが愛の炎でその暗幕を焼きつくし、われが全創造を征服したこの御名の威力をもって虚ろな想像の霧を消散させよ。

133

対をなす聖なる地点にある二つの家と、すべてに慈悲深き御方なる汝らの主の玉座が確立されたその他の場所を高め、賞賛せよ。理解ある心をもつすべての者の主はこのように汝らに命じ給う。

134

この世の事柄や関心事によって、強大にして忠実なる御方の命令に従うことを妨げられないよう注意せよ。神が強大なる主権をもって自らを顕わされるとき、それを信じなかつた者らの疑念によって神から遠ざけられないよう

に、人類の中にあつて不動の精神を持つ者であれ。聖なる書に記録されたことによつて、この生ける書である御方に耳を傾けることを妨げられぬよう注意せよ。彼は、「まことに、最も卓越した御方、すべてに賛美される御方なるわれの他に神はなし」という真理を宣言しているのである。聖なる意志と威力の天から下された御方を公平の目で見るがよい。また、不正な行動をする者らであるな。

わが先駆者なる者のペンより、この啓示を称賛して流れ出た次の言葉を想起せよ。そして、圧政者らの手が、わが生涯を通してもたらしたことを考えよ。まことに、彼らは迷っている者らの中に数えられる。彼はこう述べた。「汝ら、神が現わし給う御方の面前に達し得たならば、神が恩恵を通じて、汝らの椅子に彼が座すことを許し給うよう、神に嘆願せよ。何故なら、彼のその行為は汝らに、この上ない、無類の榮譽を授けるものであるが故に。彼が汝らの



家で一杯の水を飲まれるなら、その行為は、すべての魂、否、あらゆる創造物に生命の水を提供すること以上に汝らにとって重要な意味を持つのである。このことを知れ、おおわがしもべらよ」。

これこそは、わが先駆者がわが存在を賞揚するために用いた言葉である。汝ら、理解する者ならば。これらの聖句について熟考し、そこにいかなる隠された真珠が秘められているかを知った者は、神の正義により、この牢獄から漂う慈悲深き御方の芳香を感知し、天と地の全軍勢をもってしても止めることのできないほどの熱意をもって、全霊を傾けて彼のもとに急ぐであろう。言挙げよ。この啓示は、すべての証拠と証言がその周囲を回る啓示である。慈悲の神におわす汝らの主はこのように定められたのである。汝ら、正しく判断するものならば。言挙げよ。これこそが最も高遠なる御方のペンに吹き込まれたすべての聖典の真髄である。それは、わが慈愛の微風と全創造物に

みなぎるわが恩恵の甘い香りに心を奪われた者以外のすべての創造物を唾然とさせたのである。

おお、バヤンの人々よ。最も慈悲深き御方を畏れ、彼が他の節で啓示されたことを考えよ。彼曰く、「ゲブレとは、まことに神が現わし給う御方のことである。彼が動きを停止するまでは、ゲブレは彼の動きと共に動くのである」。彼がこの最も偉大なる美について述べんと欲したとき、最高の命令者によってこのように書き記されたのである。おお人々よ、これについて瞑想せよ。そして、過ちの荒野に心を取り乱してさまよう者となるな。汝らの空虚な妄想のゆえに彼を拒否するならば、汝らが顔を向けるゲブレはどこにあるというのか。おお不注意なる者らの集まりよ。汝ら、この句を熟考し、神の面前で公平に判断せよ。それにより、栄光に満ち、最も高遠なる御方であるわが名のもとに波打つ大海から神秘の真珠を集めることができるように。

この日、いかなる者もこの啓示において顕わされたこと以外のものにすがってはならない。これが過去において、また未来においての神の定めである。この定めは過去の使者達の聖典を飾ってきたものである。これは過去において、また未来においての主の勧告である。この勧告は生命の書の序文を飾ってきたものである。汝ら、もし認識するものならば。これが、過去において、また未来においての主の命令である。汝ら、この代わりに恥辱と墮落を選ばぬよう注意せよ。この日、神の他のなにもも汝の役には立たない。また、全知者、すべてに賢き御方なる彼の他には避難の場所もない。われを知った者はすべての望みの目標を知り、われに顔を向けた者は、すべての敬慕の的に顔を向けたのである。このように聖なる書に記され、すべての世界の主なる神により定められている。わが啓示の句のひとつを読むことは、過去と未来の世代の聖典を熟読するよりも良いことである。これは慈悲深き御方の言

葉である。汝ら、もし聞く耳があれば。言挙げよ。これこそが知識の精髓なのである。汝ら、もし理解できるならば。

さらにまた、汝らの考えを捨て、存在の主なる神へ顔を向けんがために、他の句に啓示されたことについて考慮せよ。彼（バブ）はこう述べた。「バヤンを信じる者以外との結婚は法に反することである。もし結婚している二人のうち、一方のみがこの大業を受け入れるなら、その者の所有物は、相手にとつてはその者が改宗するまでは不法なものとなる。しかしながら、この法は、まことに、神が現わし給う御方の大業、もしくはすでに正義によつて現わされたものが高揚された後にのみ適用される。それ以前は、汝らには思い通りに結婚する自由が与えられている。そうすることにより、汝らが神の大業を高揚することができるように」。このように、小夜鳥はすべてに慈悲深き御方なる自らの主を賛美して、天上の枝で麗しい調べで歌った。これに耳を傾け

る者らは幸いである。

140

おお、バヤンの人々よ。慈悲の神なる汝らの主にかけて汝らに勧告する。真理の力により下されたこの言葉を公平な目で見よ。そして、神の証拠を見ていながらもそれを退け、否定する者らにならぬように。まことに、彼らは確実に滅びる者らである。バヤンの点はこの句の中で、彼自身の大業よりむしろわが大業の崇高なることを明白に述べた。これについては、あらゆる公正で理解力ある心が証言するであろう。この日、汝らはその崇高さを容易に目撃できる。この俗世界に目が酔いしれている者らや、来るべき世で屈辱的な懲罰が待ち受けている者らの他は、誰もその崇高さを否定することはできない。

141

言挙げよ。神の正義にかけて。まことに、われは彼（バブ）の最愛なる者なり。そして、彼は今まさに、啓示の天から下されるこれらの句に耳を傾け、

これまで汝らが犯してきた悪事を嘆いているのである。神を畏れよ。そして、侵略者と行動を共にするなかれ。言挙げよ。おお人々よ。彼（バハオラ）を信じないとしても、少なくとも彼に反抗して立ち上がるようなことはするな。神にかけて誓う。彼に反対して団結する暴虐の群だけで十分である。

まことに彼（バブ）は、この宗教制において最も高遠なるペンが、御自身の卓越した地位と最も輝かしい美を賛美する以外に動く必要がないよう、一定の法を啓示した。しかし、われはわが恩恵を汝らに示したいと望み、真理の力を通してこれらの法を明白に制定し、汝らに遵守させたいことを軽減した。まことに、彼は寛大にして寛容なる御方である。

彼（バブ）は以前、この神の英知の曙なる者が語るであろうことを汝らに知らせた。彼はこう述べた。まことに、彼は真理を語っている。「彼（バハオ

ラ)はいかなる状況下においてもこう宣言する。『まことに、唯一にして、比類なき御方、全知者、すべてに精通する御方なるわれの他に神はなし』。これこそは、神が、崇高にして無類の、驚くべきこの啓示のみに定められた地位である。これは彼の豊かな恩寵の象徴であり、抵抗し難い命令の印である、もし汝ら、これを把握する者ならば。これこそ彼の最大名であり、最も高遠なる言葉、彼の最も卓越した称号の曙である。もし汝ら、理解する者ならば。それどころか、さらに彼を通してあらゆる源泉、すべての神の導きの黎明の場が明らかにされるのである。おお人々よ、まことに、下されたことについて熟考せよ。そして、それについて熟慮し、違反する者となるな。

144

すべての宗教の人々と友好と和合をもつて交われ。それにより彼らが汝らから神の甘美な芳香を吸い込むことができるように。人々の間の愚かしい無知の炎が汝らを圧倒しないよう警戒せよ。すべてのものは神から生じ、神に

## アグダスの書

戻って行く。神こそは万物の源泉であり、万物は彼に終わる。

145

持ち主が不在の時は、許可のない限りいかなる家にも入らぬよう注意せよ。いかなる状況においても礼儀正しく振る舞え。そして、強情な者の内に数えられないようにせよ。

146

ザカートを支払いを通して、汝らの生計のための手段とその他のものを清めよ。聖なる句の啓示者なる御方はこのようにこの高遠なる書簡に定められた。もしそれが神の御意志と目的ならば、間もなくわれはその査定基準を示すであろう。まことに、かれは自らの知識により、望むことはすべて解説し給う。まことに、かれは全知者、すべてに賢き御方である。

147

物乞いは不法であり、また物乞いに物を与えることも禁じられている。す



べての者は自ら生計を立てる義務がある。それができない者については、神の代理人と富者らが彼らに不足のないよう供給する責任を負う。神の法と戒律に従え。いや、汝自身の目を守るがごとくにそれらを守り、嘆かわしい損失を被る者となるな。

論争と争いに関わること、人を殴ること、またはそれに類する行為で、人の心や魂が悲しむようなことを犯すことは神の書において禁じられている。全人類の主なる御方は以前、他の人の悲しみの原因になった者に金19メスガルの罰金を定め給うた。しかしこの宗教制ではその定めは免除され、汝らには公正な振舞いと敬虔な言行を示すよう勧告されている。これがこの輝かしい書簡で汝らに命じられたことである。自分に望まぬことを他人に望むな。神を畏れよ。また、傲慢な者であるな。汝らはみな水より創られ、土に戻るのである。汝らを待つている終わりを熟慮し、压制者の道を歩むな。聖なる口

トの木である御方が汝らに向けて唱えられる神の聖句に耳を傾けよ。それらはまことに、この世と次の世の主なる神により確立された誤りのない秤である。それらを通して人の魂は、啓示の曙である御方に向かって飛翔し、すべての真の信者の心は光で満たされる。これこそは神が汝らに命じ給うた法であり、神の聖なる書簡に定められた教えである。歓喜してそれに従え。なぜなら、そうすることが汝らにとって最善であるからである。もし汝ら、このことを知る者ならば。

神の聖句を毎朝、毎夕唱えよ。それらを怠る者は誰であれ、神の聖約とその証言に対する忠誠を怠る者である。この日、これらの聖句から顔を背ける者は誰であれ、神より永遠に顔を背けた者らの一人である。おおわがしもべらよ、皆ことごとく神を畏れよ。神の聖句を大量に読むことや、日夜多くの敬虔な行為を重ねることを誇るな。なぜなら、危難の場の救助者におわし、御自力

にて存在し給う神のすべての聖なる書をだらだらと読むよりも、たった一行の聖句を喜びと輝く心を持って唱える方が良いからである。疲労感に襲われたり、気が沈んだりしない程度に聖句を読むようにせよ。汝の魂を疲れさせる、あるいは、圧迫するようなことを課すことなく、むしろ、魂を活気づけ、高揚させるものを課すようにせよ。それにより、汝らの魂が聖句の翼に乗って、神の明白なしるしの夜明けの地に向かって飛翔できるように。これは汝らを神に近づけるであろう。もし汝ら、理解する者ならば。

150

威厳と力の天上より下された聖句を汝らの子どもたちに教えよ。子どもたちがマシユレゴウル・アズカルの隅で、すべてに慈悲深き御方の書簡を最も麗しい調べで唱えることができるようにするために。最も憐れみ深き者といわが御名に対する敬慕の念から生じる歓喜に満たされた者が唱える神の聖句は、いまだ深い眠りにある人々の心を捕らえるほどのものとなるう。わが

御名において、慈悲深き主の言葉から永遠の生命の神秘の美酒を飲み干した者は幸いなり。その御名により、堂々と聳そびえたつ山のすべては塵と化したのである。

151 汝らは、19年ごとに家の家具を新しいものと取り替えるよう命じられた。全

知にしてすべてを感知し給う御方はこう定められたのである。まことに、彼は汝ら自身と、汝らの所有する物すべてが洗練されたものであることをお望みである。神への畏敬をなおざりにするな。そして、怠慢であつてはならない。常に許し給う御方、最も寛大なる御方なる神は、家具を取り替える資力が不足する者にはこれを免除された。

152 夏には汝らの足を毎日洗い、冬には三日に一度洗うようにせよ。

153

汝に対して憤慨している者に対しては優しさをもって応えよ。汝をきびしく批判する者に対しては批判し返すことを慎み、その者をそっとしておき、全能なる復讐者、威力と正義の主なる神に信頼を置け。

154

汝らは説教壇の使用を禁じられた。汝らに向けて主の句を唱えたいと欲する者には、全人類の主なる神について語れるよう、壇上の椅子に座らせよ。汝らが神とその栄光に輝く大業の顕示者に対して抱く敬愛のしるしとして椅子や長椅子に座ることは、神の満足し給うところである。

155

賭博と阿片の使用は禁じられた。おお人々よ。その両方を避け、違反者となるな。人間の身体に不調や無気力を引き起こし、身体に害を及ぼすような物質を使用しないよう注意せよ。まことに、われは汝らの益になることのみを望む。これについては全創造物が証言する。もし汝ら、聞く耳を持つものならば。

156

宴会や祝いの催しに招待されたときは、喜んで、晴れやかな気持ちで応えよ。そして、自分の約束を果たす者は非難を受けることはない。今日は、神の英知ある法令のひとつひとつが解説される日である。

157

見よ、「主権者の印の大いなる逆転の神秘」は今や明らかにされた。神に助けられて、この「高潔なるアレフ」により起こされた「6」を認めた者は幸いなり。それはまことに真実の信仰をもつ者らの一人である。外見は敬虔でありながら、顔を背けた者がいかに多くいたことか。また、「あなたにすべての賛美あれ、おお、諸々の世界の望みである御方よ」と叫びながら接近してきた、強情なる者がいかに多くいたことか。まことに、お望みの者に気に向くままに与え、お望みの者からは気の向くままに差し控える力は神の手中にある。心の奥底にある秘密と、人を見下す者の目くばせに隠されている意味

を神は知り給う。われは、清らかな心を持ってわれのもとに来た無思慮の権化なる者のいかに多くを、わが容認の座に就かせたことか。一方、英知の代弁者のどれほど多くを、まったくの正義をもって火に付したることか。まことに、われは審判者なり。彼は「神は思いのままになし給う」の顕示者であり、「選んだ通りに定め給う」の玉座に留まり給う。

158

このペンの筆跡から内なる意味の芳香を発見する者に祝福あれ。そのペンの動きにより神の微風が全創造物の上に漂い、そのペンの静止により平穩の真髓そのものが存在の世界に現われる。この測り知れない恩恵の啓示者におわす慈悲の御方に栄光あれ。言挙げよ。彼が不正に耐えたが故に正義は地上に現われ、屈辱を受け入れたが故に神の尊嚴は人類の間に輝いた。

159

必要不可欠な場合を除き、武器を所持することは禁じられ、そして、絹を身

にまとうことは許された。主は彼の恩恵として、以前適用されていた衣服や髭の刈りかたに関する制限を解き給うた。まことに、主は制定者であり、全知者であり給う。汝の振舞いに、健全で、高潔な心の持ち主が非とするものがあつてはならない。また、汝自身を愚者の遊具としてはならない。ふさわしい行為と称賛に値する人格の衣で自らを飾る者は幸いである。そのような者は必ずや、立派で、卓越した行為を通して自らの主に加勢する者に数えられよう。

神の都市や国の発展を促進し、そこに立ち、神から愛される者の喜びに溢れる語調で神を称えよ。まことに、家や町が人の手やその他の手段で建てられるように、人々の心は言葉の力で啓発される。われはすべての目的に対し、その達成のための手段を定めた。それを利用せよ。そして、全知にしてすべてに賢き御方なる神を信じ、信頼せよ。



161

神への信仰を告白し、神の御しるしを信じ、「神の行いに対し、理由を問うことはならない」の真理を認識した者は幸いなり。神はこの認識をすべての信仰の装飾とし、礎とされた。いかなる善行も、それが受け入れられるか否かはこの認識の有無にかかっている。反抗者たちの囁きによって踏み外すことがないよう、汝らの目をそれに据えよ。

162

古来より禁じられていたことを彼が合法と定め、いつの時代にも合法と見なされてきたことを彼が禁じたとしても、彼の権限を問う権利は誰にも与えられていない。一瞬たりともためらう者は違反者と見なされよう。

163

この崇高にして根本的な真実を認めず、この最も高遠なる地位に達し得なかった者は、疑念の嵐に動揺し、その魂は不信心な者らの言葉に惑わされるであろう。逆に、この原則を受け入れた者は、最も完成された不動の精神を

付与されよう。この栄光に満ちた地位に誉れあれ。その記憶がすべての崇高なる書簡を飾るこの地位に誉れあれ。これこそは神が汝らに与えられた教えであり、この教えは汝らをあらゆる疑念や混乱から救い、この世と来るべき世における救済に到達することを可能にするものである。まことに、彼は常に許し給い、恩恵に満ち給う御方である。彼こそは、「全能者にして、すべてに聡明なるわれの他に神はなし」と宣言させるために諸々の使者を遣わし、諸々の聖典を下し給うた御方である。

おお、カフトラ（ケルマン）の地よ。まことに、われは、汝が神に不快感を与える状態にあるのを見る。そして、全知者であり、すべてを知り給う彼の他には誰も知ることのできないものが汝より出現するのを見、汝から密かに放射しているものを感知する。万事の知識はわれと共にあり、それは明快な書簡に刻まれているのである。汝に降り掛かったことを悲しむな。間もなく、

神は汝の中から大いなる勇気を付与された人々を立ち上がらせ給うであらう。彼らは、聖職者たちの邪悪な暗示にも妨げられることなく、疑惑をまく者らの巧みな暗示にも引き止められることがないほどの忠誠をもってわが御名を称えるであらう。彼らは自らの目で神を見、自らの生命を通して神に勝利をもたらすであらう。まことに、彼らは不動の信念をもった者らである。

おお、聖職者たちの集合よ。わが句が下され、わが明らかなるしるしが現わされたとき、汝らはヴェールの背後にいた。まことに、これは奇妙なことである。汝らはわが御名を自らの榮譽とするが、慈悲に満ち給う汝らの主が生るしと証拠をもって汝らの間に現われたとき、われを認めなかった。われは諸々のヴェールを引き裂いたのである。さらなるヴェールをもって人々を遮断することなきよう注意せよ。万人の主の御名において、虚ろな想像の鎖を引きちぎれ。そして偽る者らであるな。神に向かい、その大業を受け入れ

たなら、その中で混乱を広げるな。また、神の書を汝らの利己的な欲望に照らして計るな。まことに、これは過去においても未来においても神の勧告である。そして、これについては、神の証人たちと、選ばれた者たち、さらには、われらすべてが厳肅に証言する。

モハメッド・ハサンという名のシェイキを想起せよ。彼は当時の最高の学識をもつ聖職者たちの一人であつた。眞実なる御方が出現したとき、この聖職者は他の聖職者たちと共に彼を否認した。一方、小麦や大麦のふるい手であつた者は眞実なる御方を受け入れ、主に顔を向けた。その聖職者は自分の考えに沿つて、神の法や法令と思えることを書き記すことに日夜取り組んだ。しかし、何ものにも拘束されぬ御方が出現したとき、それらの文字はただの一つも彼の役には立たなかつた。さもなければ、彼は主に愛されし人々の面を照らす御顔から面をそむけることはなかつたであらう。神が御自身を顕示

されたとき、汝らが神を信じていれば、人々は神から顔を背けることはなかったであろうし、また、今日汝らが目撃していることがわれに降りかかることもなかったであろう。神を畏れよ、そして、無思慮な者となるな。

いかなる名も、汝らをすべての名の所有者なる御方から遮ることなきよう、また、いかなる言葉によっても、汝らの間にあるこの英知の源泉たる神の記憶から遮断されないよう注意せよ。おお、聖職者たちの集合よ。神に向かい、彼の保護を求めよ。そして汝ら自身を、われとわが創造物の間のヴェールにするな。汝らの主はこのように忠告し、汝らが公正であるよう命じ給う。汝らの努力を無に帰すことがないように、また、汝らの陥った苦境に汝ら自身が気付くようにするためである。この大業を否定する者が、創造を通して何らかの大業の真理を立証することができるであろうか。宇宙の形成者である御方にかけて誓うが、それはあり得ない。しかも、人々はまさにヴェールに

包まれているのである。言挙げよ。この大業を通じて証言の昼の星が現われ、証拠の発光体が地上に住むすべてのもののうえにその輝きを放った。おお、洞察力を備えた人々よ、神を畏れよ。そして、われを信じぬ者であるな。「預言者」という言葉によって、この最も偉大なる宣言から引き止められることがないよう注意せよ。また、「代理人」という言葉へのいかなる言及によっても、諸々の世のすべてを庇護する、神の代理である御方の主権から除外されぬよう注意せよ。すべての名は彼の言葉によって創造され、すべての大業は抗しがたい、強大で驚くべき彼の大業に依存する。言挙げよ。これは神の日であり、すべての世界の全能なる保護者たる彼自身の事以外は何も語られない日である。これは、汝らの迷信と偶像のすべてを震撼させた大業である。

168 まことに、われは汝らの間に、神の書を手にし、その中から証拠と論拠を引用しながら自らの主を否認する者を見る。それは、他のすべての宗教の信

者らが、危急の場の救助者であり、御自力にて存在し給う御方を論駁するた  
めにさまざまな理由を自分たちの聖典中に探したのと同様である。言挙げよ。  
真実なる御方である神がわが証人である。世界の諸々の聖典も、現存するす  
べての書や文献も、この日においては、この生ける書なしには汝らにとつて  
何の役にも立たない。この生ける書は創造の世の中心にあつてこゝう宣言する。  
「まことに、全知者、すべてに賢き者なるわれの他に神はなし」。

169

おお、聖職者らの集合よ。この信教の初期において汝らがこの教えの否認  
の原因となったように、国の中で争いの原因にならないよう注意せよ。「王国  
は、すべてのしるしの黎明の場である神のものなり」と小石に叫ばせたこの  
言葉の周りに人々を集めよ。汝らの主はその恩恵として、汝らにこゝう忠告す  
るのである。まことに、彼は常に許し給う御方、最も寛大なる御方である。

170

カリムを想起せよ。そして、われが彼を神に召したとき、いかに彼が自分の欲望に駆られて、次第に尊大になっていったかを想起せよ。しかも、われは、存在の世における証拠の目に慰めとなるもの、また、天と地のすべての住民に対する神の証言の成就を彼に送った。われは、すべてを所有する御方、最も高遠なる御方の恩寵のしるしとして、彼に真理を受け入れるよう命じた。しかし、彼は顔を背けた。そして遂に、神から下される正義の行為として、怒りの天使が彼を捕えたのである。まことに、われはその目撃者であった。

171

王国の住民にその音が聞こえるほどの激しさでそれらのヴェールを引き裂け。これは過去と未来における神の命令である。命じられたことを守る者に祝福あれ。そして、無頓着な者に禍わざわいあれ。

172

確かに、われは神を顯示し、その主権を現す以外にこの地上の領土に何の目



的も持たなかった。神はわれにとって十分な証言者である。確かに、われは天の王国においても神の大業を高揚し、神の栄光を称える以外に何の意図も持たなかった。神はわれにとって十分な保護者である。確かに、われは、高遠なる領土にて、神と、神が下されたこととを称揚する以外に何の望みも持たなかった。神はわれにとって十分な援助者である。

おお汝ら、バハの学識者たちよ。汝らは幸いなり。主にかけて誓う。汝らは最強の大海の大波、栄光の天空の星、天と地の間に翻る勝利の旗である。汝らは人々の間で確固不拔さを顕示する者であり、地上に住むすべての者への神の御言葉の黎明である。汝らに顔を向ける者は幸いなり。強情な者に禍わざわいあれ。今日、慈悲深き御方、主なる神の慈愛の手から永遠の生命の神秘の美酒を飲み干した者はだれであれ、人類の身体で鼓動する動脈のように脈打たなければならぬ。その者を通じて世界とすべての朽ち果てた骨が蘇るように。

おお、世界の人々よ。神秘の鳩が、そのはるかかなたの目的地、その隠された住居を求めて賛美の聖所から飛び立った後は、聖なる書の中で理解できないことは何であれ、この強大な根茎から分岐した彼に尋ねよ。

おお、最も高遠なる者のペンよ。諸々の天の創造者なる汝の主の意に沿って書簡の上を移動し、聖なる一体性の曙である御方が超越的な唯一性の学舎に向けてその歩を進めた時について語れ。それにより、清らかな心を持つ者が、ヴェールの背後に隠されている全能者、全知者なる汝の主の神秘を、たとえそれが針の目ほどの大きさであろうとも一見できるように。言挙げよ。まことに、われはすべての創造物が気付かないでいるとき、内的意味と解説の学舎に入った。われは、慈悲深き御方から下された言葉を見、彼（バブ）がわれに示した、危急の場の救助者、御自力にて存在する御方なる神の句を

受け入れ、彼がその書簡中に厳肅に確言したことに聞き入った。われはこのことを確かに目の当たりにした。そして、われはわが命令により、彼の望みを受け入れたのである。なぜなら、まことにわれは命令する力をもつ者であるが故に。

おお、バヤンの人びとよ。まことに、われは汝らがまどろむ間に神の学舎に足を踏み入れた。そして、われは汝らが深い眠りに落ちている間にその書簡を熟読した。唯一真実なる神にかけて誓う。われは汝らが気付かない内に、その書簡が啓示される前に読んだのである。そして、われは汝らがまだ生まれていないときにその書について完全な知識を持った。これらの言葉は、神の基準ではなく汝らの尺度に合わせたものである。彼の知識に秘められたことはこのことを立証する。もし、汝らこれを把握する者ならば。また、全能者の舌はこのことを証言する。もし、汝ら理解する者ならば。神にかけて誓う。

もしわれがヴェールを上げれば、汝らは唾然とするであらう。

全能者とその大業とについて無駄な議論をしないよう気をつけよ。なぜなら、見よ、彼は過去と未来を問わず、万物を包含するほどの偉大な啓示を付与されて汝らの間に現われ給うたからである。もし、われが王国の住民の言葉でわが主題を語るならばこのように述べるであらう。「まことに、神は天地を創造する前に、その学舎を創り給うた。そしてわれは、『存』と『在』の二つの文字が結合され、結ばれる前にその学舎に入った」。これが、わが王国のわがしもべらの言葉である。わが高遠なる領土の住民の舌が語るであろうことについて考えてみよ。つまり、われは彼らにわが知識を教え、神の英知に隠されているものをすべて啓示したからである。では、威力と壮大の舌がその栄光に満ちた住いで述べることを想像してみよ。

178

この大業は、汝らの虚ろな空想の遊具としてあるものではなく、愚者や臆病者の遊び場でもない。神かけて誓う。これは、洞察と超脱、展望と高揚の競技場である。そこでは、存在の世へのすべての愛着を断った、慈悲深き御方の勇敢なる騎手のみが進撃の拍車をかけることができるのである。まことに、彼らは地上で神に勝利をもたらす者らであり、人類の間における彼の至高なる威力の黎明の場である。

179

バヤンに啓示されたいかなることによつても、最も憐れみ深き御方なる汝らの主より遠ざけられないよう注意せよ。バヤンはわが賛美を称える目的のためにのみ下された。このことについては神がわが証人である。汝らそれを知り得たならば。清らかな心の持ち主は、その中にわが愛の芳香のみを発見し、視る者と見られるものすべてを庇護するわが名のみを見いだすであろう。言挙げよ。おお、人々よ。わが最も高遠なるペンより流れでるものに顔

## アグダスの書

を向けよ。もし汝ら、そこから神の芳香を嗅いだなら、彼に反対したり、彼の慈悲深い恩恵と、さまざまな賜物の分け前を拒んだりするな。汝らの主はこのように忠告し給う。まことに、彼は助言者にして全知者である。

180

バヤンの中で理解できないことは何であれ、汝らの主であり、汝らの祖先の主である神に聞くがよい。もし、彼がそうお望みなら、彼はそこに啓示されたことを汝らのために解説し、その言葉の大海に隠されている神の知識と英知の真珠を汝らに明かし給うであろう。まことに、彼はすべての名にまして崇高なり。危急の場の救助者にして、御自力にて存在し給う彼の他に神はなし。

181

世の中の平衡状態は、この最も偉大な、この新しい世界秩序の震えんばかりの影響力によってくつがえされたのである。人類の整然とした生活は、人

間の目がこれまでに決して見たことのない、この二つとない素晴らしい制度の力によって大改革されたのである。

182

汝らがその秘密を解き、深い所に隠されている知恵の真珠を残らず発見できるよう、わが言葉の大洋に身を沈めよ。この大業の真理を奉じる汝らの決意にぐらつきがないよう注意せよ。これこそは神の威力の可能性を示し、神の主権を確立した大業である。喜びに輝く顔をもって、汝ら、神のもとに急げ。これこそは過去においても、未来においても、神の永遠にして不変の教えである。教えを求める者には、それが得られんことを。また、それを求めることを拒む者については、まことに、神は創造物を必要とすることをまったく超越し、自ら満ち足り給う。

183

言挙げよ。これこそは神の御手に握られた誤りのない秤である。天と地のす

べてのものはこの秤にかけられ、その運命が決定されるのである。おお、汝らこの真理を認め、信ずる者ならば。言挙げよ。これこそは最も偉大なる証言である。諸々の時代の証拠の真実性はそれにより立証されるのである。もし、汝らそれについて確信するものならば。言挙げよ。これにより貧しき者は富み、学識者は啓発され、探求者は神の御前に昇ることができたのである。汝ら、この秤を自分たちの間の不和の原因にせぬよう注意せよ。強大にして愛し給う主の大業の中にあつて、不動の山のようにしっかりと定住せよ。

言挙げよ。おお、誤りの源泉よ。汝の強情な盲目を捨て、人々の間で真理を語れ。神かけて誓う。われは汝が自らの利己的な情欲に従い、汝を創造し存在させ給うた御方を否認したのを見て、汝のために涙を流した。汝の主の優しき慈悲を思い、汝が大業に奉仕できるようにと、いかにわれが日夜、汝を養育したか思い起こせ。神を畏れ、真に悔い改める者であれ。汝の地位に



ついで人々が混乱したことを認めるとしても、汝自身も同様に混乱しているのであろうか。汝、主の御前で震え、わが玉座の前に立ち、われが口述する句——全能なる保護者、威力と強大の主である神の下し給う句——を書き取っていた日々を思い出せ。汝の無遠慮の劫火ごうかのために、神の聖なる宮廷に入ることや妨げられないよう注意せよ。彼に顔を向け、汝のなした行動を案じるな。まことに、彼は自身からの恩恵として、だれであれ思いのままに許し給う。常に許し給い、すべてに恩恵深き御方なる彼の他に神はなし。われは神のためのみ汝に忠告する。もし汝この勧告を受け入れるならば、それは汝自身のためになる。もし拒絶するなら、まことに、汝の主は、汝と、また明らか迷いのために汝に従ったすべての者をまったく必要とされないのである。見よ、神は汝を迷いに導いた者を捕らえ給うた。謙虚に、従順に、謙遜をもって神に戻れ。まことに、彼は汝の罪を取り除き給う。なぜなら、汝の主は間違ひなく、許す御方、威力ある御方、すべてに慈悲深き御方なるが故に。

185

これは神の勧告である。汝、これに留意する者ならば。これは神の恩恵である。汝、これを受け入れる者ならば。これは神の御言葉である。汝、これを把握する者ならば。これは神の宝物である。汝、これを理解する者ならば。

186

これは、この世への永遠なる御方のランプとなった書であり、地上の人々の間にあって、彼のまっすぐな、逸れることなき道となった書である。言挙げよ。これは神聖なる知識の黎明である。もし汝ら、理解する者ならば。そしてこれは、神の命令の夜明けの場である。もし汝ら、把握する者ならば。

187

動物にそれが耐え得る以上の重荷を負わせるな。まことに、われはそのよきな扱いを、この書の最も拘束力ある禁令を通して禁じた。汝ら、全創造物の内にあって正義と公正を体現する者であれ。

188

意図しないで他人の生命を奪った者は、賠償金として遺族に一〇〇メスガルの金を払わねばならない。汝ら、この書簡に定められたことを守り、その限度を踏み越える者となるな。

189

おお、世界中の議会の議員たちよ。地上のすべての人によって用いられる言語を一つ選び、また、共通の文字を採用せよ。まことに、神は汝らの益となることを明らかにし、汝らを他より独立させるものを提示した。まことに、彼は最も恵み深き御方、全知者、すべてに精通する御方である。これは和合をもたらずものとなるであろう。汝ら、このことを把握する者ならば。これは調和と文明を促進するための最大の手段となる。汝ら、これを理解する者ならば。われは人類の成熟期の到来を証すものとして二つのしるしを定めた。第一のしるしは最も堅固な土台であり、それについては他の幾つかのわが書

## アグダスの書

190

簡に書き留めた。一方、第二のしるしはこの驚くべき書に記された。

汝らは阿片を吸うことを禁じられている。まことに、われはこの書に記した最も拘束力ある禁令によってこの行為を禁止した。阿片を使用する者は決してわれに属する者ではない。神を畏れよ、おお、理解力を授けられた者らよ。



## アグダスの書の補足

### バハオラにより啓示された幾つかの聖句

バハオラが「アグダスの書」の後に啓示された幾つかの書簡は、「最も聖なる書」の規定の補足となる節を含む。それらのうち最も注目に価するものは「『アグダスの書』の後に啓示されたバハオラの書簡」で出版された。この部分には「エシュラガトの書簡」からの一つの抜粋が含まれている。「質疑応答」で言及されている三つの必須の祈りの原文と、アグダスの書本体に述べられている故人のための祈りも同じく以下に示す。

## エシユラガトの書簡

### 第八のエシユラガト

今や栄光のペンによって書かれたこの節は、最も聖なる書の一部と見なされる。神の正義院の紳士たちには人民の諸事が託されている。まことに、彼らは神のしもべの間にある神の信託人たちであり、神の国々における権威の曙である。

おお、神の人々よ。世界を鍛えるものは正義である。なぜなら、それは報酬と罰いふ二本の柱で支えられるからである。これら二本の柱は世界の生命の源である。日々、新たな問題が出現し、それぞれの問題には適切な解決法があるために、そのような事柄は正義院に託されるべきであり、正義院のメンバーは、その時の必要性や求めに応じて行動するであろう。神のために、彼の大業に奉仕すべく立ち上がる者らは見えぬ王国からの聖なる靈感を得る者らとなろう。すべての者は彼らに従わねばならない。国の諸事に関することはすべて正義院に照会されねばならないが、礼拝に関する行為

## アグダスの書の補足

は神がその聖なる書に啓示されたことに従って行われなければならない。

おおバハの人々よ。汝らは神の愛の夜明けの場であり、神の慈愛の曙である。他人を呪い、ののしることで汝らの舌を汚すな。また、ふさわしくないものを見ることから汝らの目を守れ。汝らの有するものを他に表明せよ。もしそれが好意をもつて受け入れられれば、汝らの目標は達成されたのである。もし、受け入れられなければ、抗弁は無益である。その者をそつとしておき、保護者であり、ご自力にて存在し給う御方なる主に顔を向けよ。悲しみの原因になってはならない。ましてや不和や争いの原因となることなかれ。汝らが彼のお優しき慈悲の木陰で真の教育を受け、神が望まれることに従って行動することを切に望む。汝らはすべて一本の木の葉であり、一つの大洋の雫である。

(「アグダスの書の後に啓示されたバハオラの書簡」より)



## 長い日々の必須の祈り

(二十四時間に一度唱える)

この祈りを唱える者は起立して神に向かい、最も慈悲深く、憐れみ深き主の慈悲を待ち望むかのように右へ、そして左へ顔を向け、次いで唱えよ。

すべての名称の主におわし、天界の創造者にまします神よ。最も崇高にして、栄光に満ち給うあなたの不可視の本質の曙なる御方らにより嘆願いたします。私のこの祈りをして、あなたの美から私をさえぎる諸々の暗幕を焼き尽くす炎となし、あなたの御前の大海へ私を導く光となし給え。

次に神聖にして崇高なる御方にまします神に嘆願の両手を挙げて唱えよ。

おお世界の希望の的におわし、人類の最愛なる御方にまします神よ。ご覧のように、私はあなたに向かい、あなた以外の者へのすべての愛着を捨て、その動きにより全創造界を奮い立たせ給いましたあなたの御綱にすがっております。おおわが主よ、私はあなたの僕であり、あなたの僕の子であります。御心に従うことのみを願ひ、あなたの望み給うことを果たし、あなたの御喜びにかなう用意の整った私を見そなわせ給え。ご慈悲の大洋とご恩寵の昼の星とにより嘆願いたします。この僕を、あなたの御心とお喜びのままにあしらい給え。いかなる表現も賛美もとうてい及ぶことのできないあなたのご威力により誓います。あなたの示し給うものはすべて私の心の望みであり、私の魂の慕いまつるものであります。おお神よ、わが神よ。私の抱く望みや行いには御目を向け給わず、天と地をあまねく包み込むあなたの御心のみを見そなわせ給え。おお全人類の主よ、あなたの最大名にかけて誓います。私は、あなたの望み給うことのみを望み、あなたの愛し給うもののみを愛します。

次にひざまずき、額を地につけて唱えよ。

あなたは、あなた以外のいかなる者の叙述も、あなた以外のいかなる者の理解力をも超えて崇高なる御方におわします。

次に起立して唱えよ。

おお主よ、私の祈りをして生命の泉となし給え。そしてあなたのご主権の続く限り、私がこの泉により生き、あなたの諸々の世を通じてあなたについて述べることができ、ますようなし給え。

次に再び嘆願の両手を挙げて唱えよ。

ご愛情の炎により全世界を燃え立たせ給いました御方よ。あなたとの別離は心と魂を溶かしてしまいます。あなたのもとにあるものを私に拒み給わぬよう、全創造物を征服し給うあなたの御名により嘆願いたします。おお万人を支配し給う御方よ。おお、わが主よ、見そなわす通り、この旅人はご威力の天蓋のもとにあり、ご慈悲の境内にある最も崇高なる自らの住まいに急いでおり、この罪人はあなたの御許しの大洋を求め、この卑しき者はご栄光の宮廷を求め、この貧しきものはあなたの御豊さの地平線を求めております。御心のままに命じ給うご主権はあなたと共にあります。ここに証言いたします。あなたのなし給うことは賛美され、あなたの定め給うことは遵守され、そして、あなたはご命令を下すに何ら制約を受け給わぬ御方におわします。

次に両手を上げて「最大名」（アラホ・アブハ）を三度唱えよ。神聖にして崇高なる御方にまします神の御前に腰をかがめ、両手を膝において唱えよ。

おおわが神よ。見そなわす通り、私の精神は、あなたを崇拜し、あなたを記憶し、あなたを賛美したいという切なる思いで両の手足と諸々の器官の中で奮い立ち、あなたのご命令の御口があなたの御言葉の王国と知識の天上において証言したことを、証言しております。おおわが主よ、この状態にて懇願いたします。私が自らの貧しさを示し、あなたのご恩恵と御豊さを賛美し、私の無力なることを宣言し、あなたの御力とご威力とを表わすことができますよう、あなたと共にあるすべてのものを私に与え給え。

次に起立し、嘆願の両手を二度挙げて唱えよ。

全能者におわし、すべてに恩寵深き御方にましますあなたの他に神はいまさず、初めと終りの命令者にましますあなたの他に神はありません。おお神よ、わが神よ。あ

あなたの御許しは私を勇気づけ、ご慈悲は私を力づけ、あなたの呼び声は私を目覚めさせ、あなたのご恩寵は私を立ち上げらせ、あなたの方へと導きました。さもなければ、どうして私が、あなたのおそばの都の門前に立ち、御心の天上より輝きわたる光へ顔を向けることができましょうか。おおわが主よ、見そなわす通り、この哀れな者は、あなたのご恩寵の扉をたたいております。また、このはかなき魂は、ご恩恵の御手から永遠の生命の流れを求めております。おおすべての名称の主にまします御方よ。命ずるは常にあなたにあり、御心に身をゆだね、進んで服するは私にあります、おお天の創造者よ。

次に両手を三度挙げて唱えよ。

神はすべての偉大なる者を超えて偉大なり。

次にひざまずき、額を地につけて唱えよ。

あなたは、あなたのおそば近く仕える者らの賛美もあなたの御前の天上に昇ることができぬほど高遠におわします。また、自らをあなたに捧げる者らの心の鳥も、決してあなたの門の御扉に行き着くことはできません。あなたはすべての属性を越えて聖別され、すべての名称を越えて神聖にましますことを証言いたします。あなたの他に神はいまさず、あなたは最も崇高なる御方におわし、栄光に満ち給う御方にまします。

次に座して唱えよ。

全創造物が証言し、天上の集合が証言し、そして最も高きにある楽園の住民や、彼らを越えて栄光の地平線より荘嚴なる御言葉そのものが証言したことを私もここに証言いたします。あなたは神におわし、あなたの他に神はいまさぬこと、また、現わさ

れた御方は、隠されたる神秘であり、秘蔵の御しるしであり、「存在」の二文字は彼により結びつけられましたことを。そして、彼こそは、最も崇高なる御方の筆によりその名が書き記された御方であり、天上の玉座と地上の主にまします神の諸々の書に述べられた御方であることを証言いたします。

次に起立して唱えよ。

おおすべての存在の主におわし、目に見えるもの、見えぬものすべての所有者にまします主よ。あなたは私の涙と私のもらす溜息に気付き給う。そして私のうめき声と、泣き声と、心の嘆きとを聞き給う。ご威力にかけて申します。私の罪過は、私があなたへ近づくの妨げ、私の罪は私をあなたの神聖さの宮廷から遠く引き離しております。おおわが主よ、あなたのご愛情は私を豊かにし、あなたとの別離は私を破滅させ、あなたから遠く隔てられることは私を消滅させてしまいました。この荒野にしるされ



たあなたの足跡により嘆願いたします。また、この広大なる空間で、あなたが選び給うた者らが発した「ここに我あり、ここに我あり」という言葉により嘆願いたします。さらに、あなたの啓示の息吹と、ご出現の曙の微風とにより懇願いたします。私が、あなたの美を仰ぎ見ることを許し給い、あなたの書に記されたことのすべてを守るよう定め給え。

次に「最大名」（アラホ・アブハ）を三度唱え、腰をかがめ、両手を膝において唱えよ。

おおわが神よ、あなたに賛美あれ。あなたは、私があるを記憶し、賛美するよう私を助け給いました。また、あなたは御しるしの曙である御方を私に知らしめ給い、ご主権の前に頭を垂れ、ご神性の前にひれ伏し、莊嚴なる御口からもれる御言葉を認めさせ給いました。

## アグダスの書の補足

次に起立して唱えよ。

おお神よ、わが神よ。私の背は私の犯した罪の重荷で曲り、私の無思慮は私を破滅に追いやりました。自らの悪行とあなたのご仁愛を思うたびに、私の心は私の中で溶け、血管を流れる血潮は煮え返ります。おお世界の希望の的にまします御方よ、あなたの美にかけて申します。あなたに向けて顔を上げるにも、私は赤面し、あまりの恥ずかしさに切望の両手をご恩恵の天上に差し伸べることもできません。おおわが神よ、見そなわす通り、私の涙は、あなたを記憶することをさえぎり、あなたの美德を称えることを妨げております、おお天上の玉座と地上の主にまします御方よ。御国のしるしと、あなたの領土の神秘とにより嘆願いたします。おおすべての存在の主よ、愛し給う者らをご恩恵にふさわしいように扱い、ご恩寵にかなうままにあしらい給え。お目に見えるもの、見えぬもの、すべてのものの王におわす御方よ。

次に「最大名」(アラホ・アブハ)を三度唱え、ひざまずき、額を地につけて唱えよ。

あなたに賛美あれ、お我らの神よ。あなたは、私どもをあなたのおそば近くに引き寄せるものを遣わし給い、聖なる書と経典を通じて下し給いましたあらゆる良きものを私どもに与え給いました。おおわが主よ、愚かな空想、むなしい妄想の軍勢より私どもを守り給うよう嘆願いたします。まことにあなたは強大なる御方におわし、すべてを知り給う御方にまします。

次に頭を上げて座して唱えよ。

おおわが神よ、あなたの選び給うた者らが証言いたしましたことを私もここに証言いたします。また、最も高きにある楽園の住民たちと、あなたの強大なる玉座を取り

囲む者らが認めたものを私もここに認めます。天と地の王国はすべてあなたのもの  
あります、おお、諸々の世界の主なる御方よ。

バハオラ

## 中位の長さの日々の必須の祈り

(日に三度、朝・昼・夕方に唱える)

祈ろうとする者はまず手を洗い、洗いながら次の句を唱えよ。

おおわが神よ。この世の軍勢も及ばぬほどの確固たる力であなたの聖典を握りしめ  
ることができまますよう、私のこの手を強くなし給え。そして、この手に属さないあら  
ゆるものへの干渉から私の手を守り給え。まことにあなたは全能者であり、最も力に  
満ち給う御方におわします。

次に、顔を洗いながら次の句を唱えよ。

おおわが主よ、私はあなたに顔を向けました。あなたのお顔の光で私の面を照らし給え。そして、この顔があなた以外の何者にも向くことがないよう守り給え。

祈る者は起立して、ゲブレ（崇拜の的、すなわちバージにあるバハオラの霊廟に向かつて唱えよ。

神はご自身の他に神なきことを証言し給う。啓示と創造の王国は神のものなり。まことに、神は啓示の曙なる御方を現わし給い、彼こそはシナイ山上で神と対話した御方であります。彼を通して至高なる地平線は光り輝き、通り越すことのできないロートの聖木は語りました。そして、「見よ、万物の所有者は来たれり。天と地、栄光と

## アグダスの書の補足

支配は全人類の主であり、天上の玉座と地上との所有者である神のものなり」との声  
明が、彼を通して天と地のすべてのものに対して発せられました。

次に腰をかがめ、両手を膝におき唱えよ。

あなたは、私や私以外のいかなる者の賛美をも超え、また、私や天と地に住むすべての者の描写も及ばぬほど崇高なる御方におわします。

次に起立して、両手を顔に向けて唱えよ。

おおわが神よ、懇願の指もて、あなたのご慈悲とご恩寵の御裾にすがる者を失望させ給うな、おお慈悲深き者の中の最も慈悲深き御方よ。

次に座して唱えよ。

私はあなたの一体性と唯一性を証言し、また、あなたが神におわし、あなたの他に神なきことを証言いたします。あなたはまことに、あなたの大業を啓示し、聖約を果たし、天と地に住むすべてのものに対し、ご恩寵の扉を開け広げ給いました。あなたの愛し給う人々の上に祝福と平安、敬礼と栄光あらんことを。彼らこそは、世の移り変わりや異変によってもあなたに向かうことを妨げられない者であり、あなたと共にあるものを得ることのみを願ひ、すべてを捧げた者らであります。まことにあなたは常に許し給ひ、恵み深き御方におわします。

「望む者は、長い聖句の代りに次の句を唱えるだけでも十分である。『神はご自身の他に神なきことを証言し給う。神こそは危急の場の救助者におわし、ご自力にて存在し給う御方にまします』。同様に、次の句を座して唱えても

十分である。『私は、あなたの一体性と唯一性を証言し、また、あなたが神におわし、あなたの他に神はいまさぬことを証言いたします』。

バハオラ

## 短い日々の必須の祈り

(日に一度、昼に唱える)

神様、あなたが私を創り給いましたのは、あなたを知り、あなたを崇拜するためでありますことを証言いたします。今こそ私の無力なことと、あなたの御力の大きいなることを、また私の貧しさと、あなたの御豊さとを証言いたします。

あなたの他に神はいまさず、あなたは危難の中の御救いにおわし、ご自力にて存在し給う御方にまします。

バハオラ



## 故人のための必須の祈り

おおわが神よ、これはあなたの僕であり、あなたの僕の息子であります。彼はあなたご自身と、あなたの御しるしとを信じ、あなたに顔を向け、あなた以外のすべてのものを超越いたしました。まことに、あなたは慈悲深き者の中の最も慈悲深き御方におわします。

人々の罪を許し、人々の過ちを覆いかくし給う神よ。ご恵沢の天上と、ご恩寵の大海原に相應しいままにこの僕をあしらい給え。天と地の創造以前より続く崇高なるご慈悲の領土に入ることをこの僕に許し給え。あなたの他に神はいまさず、あなたは常に許し給い、最も寛大なる御方におわします。

(次に「アラホ・アブハ」を一回唱えるごとに、その下に続く聖句をそれぞれ十九回ずつ唱える。)

アグダスの書の補足

アラホ・アブハ	我らみな、まことに神を礼拝いたします。
アラホ・アブハ	我らみな、まことに神の御前に額ずきます。
アラホ・アブハ	我らみな、まことに神に献身いたします。
アラホ・アブハ	我らみな、まことに神を賛美いたします。
アラホ・アブハ	我らみな、まことに神に感謝いたします。
アラホ・アブハ	我らみな、まことに神のもとに、耐え忍びます

バハオラ



## 質疑応答

## 質疑応答

1 質問 最大の祝祭について

答え 最大の祝祭は、バヤンによる1年の、2ヵ月目の13日午後遅く始まる。この祝祭の第1日目、9日目、12日目は仕事を禁じられている。

2 質問 対をなす誕生日の祝祭に関して

答え アブハの美（バハオラ）の生誕はモハラム月（イスラム太陰暦の最初の月）の2日目の夜明け時であった。彼の先駆者は同じ月の1日目に生誕した。これら二つの日は神の目には一つと見なされる。

3 質問 結婚の誓いについて（アラビア語では男性と女性の誓いの言葉が異なる）

答え 男性は「まことに、私たちは神の御意志に従います」、女性は「まことに、私たちは神の御意志に従います」、と誓う。

## 質疑応答

### 4 質問

男性が帰還の時期を明確にせずに旅にでた場合、つまり予定不在期間を知らせなかった場合で、その後も彼から何の便りもなく、行方がまったく分らない場合、彼の妻はどう対処すべきか。

### 答え

もし彼が、これに関するアグダスの書の規定を知りながら、帰還の時を定めることを怠った場合、妻は丸一年待ち、その後は賞賛に値する道をとるか、別の夫を選ぶかは自由である。しかし夫がこの規定を知らない場合は、神が、親切にも彼の運命を明らかにされる時まで忍耐強く待つべきである。これに関して、賞賛に値する道という意味は、忍耐強くあるということである。

### 5 質問

次の聖句について。「まだ生まれていない子らの叫びを聞いたとき子ども分け前を二倍にし、残りの分け前を減らした」

答え

神の書によれば、故人の財産は二五二〇株に分けられる。この数は9までのすべての整数の最小公倍数であり、これらの分け前は7つの部分に分けられ、各部分はその書に述べられている通り、個々の部類に属する相続人に配分される。たとえば、子どもたちには60の分け前が9ブロックで、計五四〇から成る分け前が配分される。「われは彼らの分け前を二倍にした」という句の意味は、このように子どもたちは60の分け前を更にあと9ブロック受け取ること、全部で18ブロック受け取る権利を与えられたのである。彼らが受け取る余分の分け前は、他の部類に属する相続人の分から差し引かれたものである。たとえば、配偶者は60の分け前の8ブロックである。「四八〇の分け前を含む8つの部分」を受け取る権利があると啓示されているが、今この再整理により、全部で90の分け前を含む1.5が配偶者の分から差し引かれ、子どもたちに再配分された。他の部類の場合も同様である。結果は、差し引かれた合計は9ブロックの分け

6 質問

前に相当し、それが子どもたちに配分されることになる。

兄弟が遺産の分け前を相続する権利をもつためには、故人と同じ父親と母親から生まれていなければならないのか。それとも片親だけが同じであれば十分であるのか。

答え

もしその兄弟が同じ父親をもつのであれば、彼はこの書に規定されている方法で遺産の分け前を受け取ることができる。しかし、母親だけが同じである場合、彼はその権利の三分の二だけを受け取り、残りの三分の一は正義院に帰属することになる。この決定は姉妹にも適応される。

7 質問

遺産相続に関する規定の中で、もし故人が子孫を残さなかった場合、彼らの財産の分け前は正義院に帰属すると定められた。同様に父、母、兄弟、姉妹や教師といった相続人がない場合は、彼らの財産の分け前は正義院



に帰属するのか、それとも他の方法で処理されるのか。

答え

この聖なる句で十分である。彼はこう述べ給う。その言葉は高遠なり。「故人に子どもがない場合、子どもの分け前は正義院に帰属する」云々とあり、また故人が子どもを残しているが、聖典で規定されている他の部類の相続人がいない場合、子どもは遺産の三分の二を受け取り、残りの三分の一は正義院に帰属する。この規定は全般的なもの、および特定なものに適用される。つまり、後者の部類に属する相続人がない場合、彼らの遺産相続の三分の二は子孫に渡され、残りは正義院に帰属する。

## 8

質問

ホゴゴラが支払われるべき基本額について

答え

ホゴゴラが支払われるべき基本額は金19メスガルである。換言すれば、この価値に相当する現金を得たら、ホグクを支払う。同様に、他の形態の財産の、数ではなく、価値が、述べられた額に達したならホグクを払う

9

質問

ことになる。ホゴゴラは一度支払うだけでよい。たとえば、一〇〇〇メスガルの金に相当する財産を取得し、これに対してホグクを納めた人は、この値を超える利益に関するもの以外は、更なる支払いは不要である。商売等を通じて、その利益がさらに19メスガルの値に達した場合には、人は神が定められたことを実行しなければならない。持ち主が変わったときは、その物に対するホグクの支払いは、再度最初のときの原則にそって行われる。「最初の点」は、ホゴゴラは人の所有するすべてのものの価値について支払われると指定したが、この最も強大なる宗教制では、われは生活や住居のニーズをまかなうような生活必需品をこの対象より除いた。故人の、ホゴゴラ、負債、葬儀と埋葬費の支払いのどれを優先すべきか。葬儀と埋葬費の支払いが優先する。次に負債を払い、その後ホゴゴラを支払う。もし故人の財産でその負債を清算しきれない場合、その者の不

## 10

## 質問

動産の残りはその大きさにあわせて負債清算に充てられるべきである。アグダスの書では剃髪を禁じているが、ハッジの書簡では剃るように、とあるのはなぜか。

## 答え

人は皆、アグダスの書に従うよう命じられている。その書に啓示されたことは何であれ、しもべのための神の法である。聖なる家の巡礼のために剃髪すべしという命令は解かれた。

## 11

## 質問

待機期間中に夫婦間で肉体関係をもち、その後再び仲たがいをした場合、待機期間をやり直すのか、それともその関係をもった以前の期間を待機期間に数えてよいか。また離婚が成立した後も一定期間待つ必要があるか。

## 答え

待機期間中に夫婦間で愛情が蘇ったときは、結婚の絆は有効であり、神の書で命じられたことに従わねばならない。しかし、ひとたび一年間の待

## 質疑応答

### 12

#### 質問

機期間が終わり、神によって定められたことが実施されれば、それ以上待つ必要はない。一年間の待機期間中は夫婦間の肉体関係は禁じられている。これを犯す者は神の許しを乞い、罰として19メスガルの金を正義院に納めなければならない。

#### 答え

結婚の誓いが読まれ、結納金が支払われた後に二人の間に悪感情が生じた場合、一年間の待機期間を経ないで離婚できるか。

結婚の誓いが読まれ、結納金が支払われた後、合法的に離婚を求めることができるが、それは、結婚で床入りの前でなければならない。その場合、一年間の待機期間を守る必要はない。しかし結納金を取り戻すことは許されない。

13

質問

双方の両親の承認を得ることは結婚の必要条件であるのか。一方の両親だけの承認で十分か。この法は処女だけに適用されるのか、それとも他の者にも同様に適用されるのか。

答え

結婚の条件として双方の両親の承認が必要である。この点において新婦が処女であるか否かは関係ない。

14

質問

信者は必須の祈りを唱える時にゲブレ（崇拜の点）の方向に顔を向けるよう命じられているが、他の祈りや礼拝の時はどの方向に向くべきか。

答え

ゲブレに顔を向けることは必須の祈りを唱える時の必要条件であるが、他の祈りをする時は、慈悲深き主がコーランの中で啓示された「どの方向に顔を向けても、神の御顔がある。」という言葉に従ってよい。

## 質疑応答

15

質問

夜明け時にマシユレゴウル・アズカル（礼拝堂）で神を想うことに關して。「夜明け時」という言葉が神の書に用いられているが、一日の夜明けが始まったばかりの時、夜明けから日の出までの間、あるいは日の出の後2時間以内でも神は満足し給う。

答え

16

質問

遺体は一時間以上かかる所へ運ぶべきでないという法令は、陸路と海路の輸送の双方に適用されるのか。

答え

この指示は汽船でも、列車でも、海路と陸路の双方による距離に適用されるものである。意図は、いかなる輸送手段であれ、一時間で行ける距離ということである。しかしながら、埋葬は早ければ早いほどふさわしく、支持されることである。

## 17

## 質問

遺失物はどう処理されるべきか。

## 答え

町の中で遺失物が見つかった場合は、町の広報係が一度その発見を告知しなければならぬ。その遺失物の所有者が見つければその人に渡すべきである。所有者が見つからない場合は遺失物の発見者は一年間待つべきである。もしその期間内に所有者が明らかになれば、発見者はその人から広報係に払う代金を受け取り、遺失物をその人に返すべきである。所有者不明のまま一年間が過ぎた場合にのみ、発見者はその遺失物を自分の所有物としてよい。もし遺失物の価値が広報係に払う代金よりも低いか、または同等の場合、発見者は発見時から一日待つべきである。丸一日が過ぎて所有者が明らかにならない場合、発見者はそれを所有してよい。人の住んでいない地域で遺失物が見つかった場合、発見者は三日間待ち、その期間が過ぎても所有者が不明の場合、発見者がその発見物を所有することは自由である。

18

質問

洗淨に関して。たとえば、全身を洗ったばかりの時でも、改めて洗淨を行う必要があるのか。

答え

いかなる場合でも、洗淨に関する規定は守らねばならない。

19

質問

人が自国から他国に移住する計画を立てたが、その人の妻がそれに反対し、意見の相違から離婚になった場合、旅の準備に一年を要したとするところの期間は一年間の待機期間と見なされるか、夫婦が別れた日が待機期間の始まりとなるのか。

答え

計算の起点は夫婦が別れた日である。従って、もし夫の出発前に一年間別居していれば、そしてもし夫婦間に愛情の芳香が蘇らなければ、離婚してよい。そうでなければ、夫の出発日から計算されなければならず、アグダスの書に述べられている条件を守らなければならない。



20

質問

宗教上の義務に関する成人の年齢について

答え

成人の年齢は男女共に15才である。

21

質問

次の聖なる句について。「汝ら、もし旅行中に安全な場所に止まって休むなら、男性も女性も同じように、唱えていない必須の祈りの回数に応じて一度ずつひれ伏し、…。

答え

この平伏は、旅行中、安全でない状況のために行わなかった必須の祈りを埋め合わせるものである。もし旅行者が祈る時間に安全な場所に休むことができれば、その祈りをすべきである。埋め合わせるための平伏に関する規定は在宅中と旅行中のいずれにも適用される。

22

質問

旅行の定義に関して

(注) これは断食を免除される旅行の最低期間に関するものである。

答え

旅行の定義は時計で測つて9時間である。旅行者がある場所に止り、バヤンの計算で一カ月以上そこに留る予定ならその人は断食を守らねばならない。しかし、一カ月未満なら断食は免除される。もしその者が、断食期間中にある場所に到着し、バヤンによる一カ月をそこに滞在する場合、三日が過ぎるまで断食すべきではないが、その後は断食の期間が終わるまで断食すべきである。しかしもし、彼が、自分が以前からずっと住んでいた居所に帰ったのなら、到着した次の日から断食を始めなければならぬ。

23

質問

姦夫と姦婦の罰について

答え

最初の違反には9メスガル、二回目は18メスガル、三回目は36メスガルを

## 24

質問

狩猟に関して

答え

彼はこう述べ給う。彼は高遠なり。「鳥や動物を使って狩りをする場合」とあるが、他の手段、つまり、弓矢や、銃、および狩りに用いられる装置の様な手段も含む。しかしながら、もし毘や落とし穴が用いられ、それにかかった獲物をしとめる前に獲物が死んだ場合、それを食すことは違法である。

## 25

質問

巡礼について

答え

二つの聖なる家の一つに巡礼することは義務である。しかし、どちらの家

質疑応答

に行くかは巡礼者が決めることである。

26 質問 結納金について

答え 結納金に関して、最低の基準で満足せよという意味は、銀19メスガルである。

27 質問 次の聖句に関して。「しかし、夫の死、あるいは殺害の知らせが届き、……」

答え 「定められた月数」の間待つということとは、9カ月を意味する。

28 質問 教師が受け取る遺産の分け前に関する再度の質問について

答え もしその教師が死亡していた場合、その教師の分け前の三分の一は正義院に帰属し、残りの三分の二は、教師の子孫ではなく、遺産を遺した故人の子孫に分配される。

29

質問

巡礼に関する再度の質問

答え

男子に課せられている聖なる家への巡礼というのは、バグダッドにある最も偉大なる家と、シラーズにある最初の点の家の双方を意味する。これらの家のどちらかに巡礼することで十分である。従って、自分の住んでいる場所から近い方の家に巡礼することができる。

30

質問

次の句に関して。「女中を雇いたい者は、礼節をもってそうすることができる。」

答え

これは、老若を問わず、賃金と引き換えになされるすべての召し使いの仕事と同様の奉公を指す。その女性は自分の好きな時に自由に夫を選ぶことができる。女性を買い取ることや、男性が二人を超えて妻をもつことは禁じられている。

31

質問

次の聖句について。「妻に三度離婚を言い渡したときの過去の時代の慣習について、主は、…禁止された。」

答え

これは、そう云った女性が前夫と再婚する場合は、その前に他の男性と結婚することを必要とした以前の法に言及するものである。この慣習はアグダスの書で禁じられた。

32

質問

対をなす聖なる地点にある二つの家と、玉座が確立されたその他の場所の保全修復に関して

答え

二つの家というのは、最も偉大なる家と最初の点なる御方の家を意味する。その他の場所に関しては、その地域の人々は、玉座が確立されたすべての家、またはその内の一つを保存するかどうかを選択することができる。

33

質問

教師の遺産相続について再度出された質問

答え

もし教師がバハの人々に属さなければ、その人は相続することはできない。

数人の教師がいる場合、分け前はそれらの教師全員に均等に分配されねばならない。もし教師が死亡していれば、彼の子孫がその分け前を相続するということはなく、その三分の二は財産の持ち主の子どもたちに帰属し、残り三分の二は正義院に帰属する。

34

質問

男の子孫に占有的に割り当てられる住宅に関して

答え

もし幾つかの住宅があれば、それらの住宅のうちで最も立派で最も質の高いものを意味する。残りの住宅は他の財産と同じく相続人全員の間で分配される。どの相続人の部類であろうと、相続人が神の信教の外にいる場合は、その者は存在しないものと見なされ、相続はできない。

## 質疑応答

35

質問

ノー・ルーズに関して

答え

ノー・ルーズの祝宴は太陽が牡羊座の宮に入った日（北半球で春分の日）に行く。たとえその現象が日没前に1分だけであったとしても、それが起こった日に祝う。

36

質問

対をなす誕生日のいずれかの記念日、またはバブの宣言の日の記念日が断食の期間に当たる時はどうすべきか。

答え

対をなす誕生日、またはバブの宣言、を祝う祭典が断食の月に当たる時は、それらの祝祭日には断食を行う必要はない。

37

質問

遺産相続を決定する聖なる法令では、故人の住居と衣服は男の子孫に割り当てられている。この規定は父親の所有物のみを指すのか、母親の所有物にも適用されるのか。



答え

母親の使った衣服は娘たちの間で均等に分けられるが、所有地、宝石、および未使用の衣服を含む彼女の残りの財産は、アグダスの書に述べられている方法ですべての相続人に分配されるべきである。しかし、故人に娘がいない場合、彼女の全財産は聖なる書のなかで男性のために指示されている方法で分配されなければならない。

38

質問

離婚は、一年の忍耐の期間を置くが、その離婚について、二人のうち一人だけが和解したい場合はどうすべきか。

答え

アグダスの書に述べられた法令によれば、双方ともに満足でなければならぬ。双方ともに望むのでなければ融和はありえない。

39

質問

結納金に関して。もし新郎が全額を支払えない場合、その代わりに可能な時に払うという理解のもとに、結婚式の時に約束手形を正式に新婦に渡

す場合はどうなるか。

答え 権威の源泉なる御方は、このやり方の採用を許可し給うた。

40 質問 一年の忍耐の期間中に愛情の芳香が蘇ったが、そのあと悪感情が起こった

とする。このように夫婦が忍耐の期間を通して愛情と嫌悪の間でぐらつき、一年が悪感情で終わつたとすると離婚は成立するか。

答え いつであれ、悪感情が起こる毎にその日に一年の忍耐の期間が始まり、それから一年間が経過しなければならぬ。

41 質問 故人の住居と衣服は男の子孫に割り当てられているが、女の子孫とその他

の相続人には割り当てられていない。もし故人が男の子孫を残さなかつた場合はどうすべきか。

答え 彼は述べ給う。彼は高遠なり。「故人が子孫を残さなかつた場合は、その

分け前は正義院に帰属する…。この聖句に従って、故人の住居と衣服は正義院に帰属する。

#### 42 質問

ホゴゴラの規定がアグダスの書で啓示されている。住居に備え付けの備品や必要な家財道具はホグクの対象になる不動産に含むのか、それとも別にするのか。

#### 答え

ペルシヤ語で啓示された法で、われは、この最も強大な宗教制において、住居と必要な家具を除外すると規定した。

#### 43 質問

未成年の女子の婚約に関して

#### 答え

この習わしは、権威の源泉なる御方により違法であると宣告された。また、結婚式の95日より前に結婚を発表することも違法である。

44 質問

人が、たとえば一〇〇トマン持っていて、これに対してホグクを払ったが、その後、取引きの不成功でその半分を失った、しかし、その後の商売でお金がホグクを支払うほどに儲かった場合、その人はホグクを支払うべきか。

答え

そのような場合、ホグクは払わない。

45 質問

ホグクを払った後に、その同じ一〇〇トマンを完全に失ってしまったが、その後、商売や取引きでまたお金を取り返すことができた場合、ホグクは再度払われるべきか。

答え

このような場合も同様、ホグクを支払う必要はない。

46 質問

「神は、結婚を汝らのために規定された」という聖句に関して。この規定は義務なのか。

答え 義務ではない。

47 質問

ある男性がある女性を処女と信じて結婚し、結納金を支払った。しかし、床入りの時に彼女が処女でないことが明らかになった。費用と結納金は取り返すことができるか。また、もし結婚が処女であることを条件とした場合、その条件が満たされなるときは、その条件のもとでなされたことは無効となるか。

答え

そのような場合、費用と結納金は取り返してもよい。条件が満たされなかったことで、条件付きでなされたことは無効となる。しかしながら、そのことを隠し、許すことは神の目には恵み深い報酬に値することである。

48 質問

「フィーストは汝らに課せられた…」とあるが、これは義務なのか。  
 答え 義務ではない。

質疑応答

49

質問

姦通、男色、窃盗に対する罰金と、その度合いに関して

答え

これらの罰金の度合いを定めるのは正義院である。

50

質問

自分の親類との結婚は合法か、否かに関して

答え

これらの事柄も同様に正義院の信託人たちにかかっている。

51

質問

洗淨についてこのように啓示されている。「洗淨用の水が見つからない者

は、『最も純粹にお話し、最も純粹にまします神の御名において』という言葉を五回繰り返せ」と。厳寒の時期や、顔や手に傷がある時にこの句を唱えることは許されるか。

答え

厳寒の時は温かい湯を使用してよい。もし、顔や手に傷があるとか、その他の理由で、つまり水の使用が害になるような疼痛があるときは、洗淨

の代りに定められた句を唱えることができる。

52

質問

現象の祈りの代りに啓示された句を唱えることは義務であるか。

答え

義務ではない。

53

質問

遺産相続に関して。同じ両親をもつ兄弟と姉妹がいる場合、異父兄弟と姉妹もまた分け前を受け取れるか。

答え

分け前はない。

54

質問

彼は述べ給う。彼は高遠なり。「子どもを残して先立った息子の父親が故人となった場合、この子ども達は神の聖典に規定されている父親の取り分を相続する…」とあるが、娘が父親の存命中に死亡した場合はどうすればよいか。

## 質疑応答

答え 彼女の相続分は、アクダスの書の規定にしたがって、7つの部類の相続人に分配される。

55

質問

故人が女性の場合、妻に行くべき遺産の分け前はだれに配分されるか。

答え

それは、夫に配分される。

56

質問

五枚と定められている遺体を包む布に関して。五枚というのは、それまで伝統的に用いられてきた、身体に重ねて巻きつける五枚の布であるのか、それとも五枚の全身大の布のことであるのか。

答え

布を五枚使用するということである。

57

質問

啓示されたある句の間にある相違について

答え

書簡の多くは啓示された後、校正されることも改められることもなく、そ



## 58

## 質問

のままの形で送付されることがあった。そのため、聖なる御方の命に応じて、それらの書簡はその御方の面前でふたたび読み上げられた。そして、大業に反対する者らの揚げ足取りの機先を制するために、人びとが慣習として用いている文法にしたがって直された。もう一つの理由は、先駆者——彼以外のすべての魂が彼のために捧げられんことを——によつて始められた新しい形式は、文法の規則からはなれてかなり自由に書かれていたからである。それゆえ、聖なる句は、理解しやすく、表現を簡潔にするために、大部分、現代の用法にしたがって啓示された。

次の祝福された句に関して。「旅行中に、もし汝ら安全な場所に止つて休むならば…、捧げていない必須の祈りに対して、一度ひれ伏し、…」。この必須の祈りの償いは、安全でない状況の時のものなのか、それとも旅行中は必須の祈りを完全に中止して、その代りに平伏するののか。

59

質問

旅行者が止まり、休んだ後、必須の祈りの時間になったとすれば、その人は必須の祈りをすべきか、それともその代わりにひれ伏すべきか。

答え

安全でない状況にいるとき以外は必須の祈りの省略は許されない。

60

質問

必須の祈りを逸したため、何回か平伏が必要な場合、償いの平伏毎に定められた句を繰り返さなければならないのか。

答え

必要な回数平伏し、最後に、定められた句を唱えることで十分である。何

答え

必須の祈りの時間がきても、安全でないため祈りができないときは、安全な環境に達したとき唱えることができなかつた各必須の祈りの代りにひれ伏すべきである。最後の平伏の後、足を組んで座り、指定された句を読まなければならない。もし、安全な場所があれば、必須の祈りは旅行中でも止めてはならない。

度か平伏するときは、その度に句を繰り返す必要はない。

61

質問

家で必須の祈りを省略した場合、平伏で償われるべきか。

答え

以前出された質問への答えに次のように書かれた。「この規定は、旅をしているときにも、家にいるときにもあてはめられる。」

62

質問

他の目的で洗淨をした。そして、必須の祈りの時間がきたときはその洗淨で十分か、それとも再度、洗淨すべきか。

答え

その洗淨で十分である。ふたたび洗淨する必要はない。

63

質問

アグダスの書では、正午と、午前、午後に唱えるべき9つのラカーから成る必須の祈りが課せられている。しかし、必須の祈りの書簡（現在用いられている三つの必須の祈りが含まれている）はこれと異なるように見

える。

答え アグダスの書に啓示されたものは別の必須の祈りに関するものである。その必須の祈りを含め、アグダスの書の法令のいくつかは、何年か前、英知ある理由で、別々に記録され、他の聖なる文献と共に別のところへ送られた。保存と保護のためにそうされたのであった。その後、これらの三つの必須の祈りが啓示された。

64

質問

時間を決めるのに、置時計や腕時計に頼ることは許されるか。

答え

置時計や腕時計に頼ることは許される。

65

質問

必須の祈りの書簡には三つの祈りが啓示されている。これら三つの全部をする必要があるのか。

答え

これら三つのうち一つを捧げることが課せられている。どの祈りであって

も十分である。

66

質問

朝の祈りのための洗淨は、正午の祈りにもまだ効力を有するか。また同様に、正午に行なわれた洗淨は夕方にもまだ効力を有するか。

答え

洗淨は必須の祈りのためにするもので、それに関連しているため、祈り毎にしなければならない。

67

質問

長い必須の祈りのとき、起立して、「神に顔を向ける」よう求められている。

これは、ゲブレ（崇拜の点）に顔を向ける必要はないことを示しているようであるが、そうなのか。

答え

ゲブレ（崇拜の点）を意味する。

68

質問

「毎朝、毎夕、神の句を唱えよ」という聖句に關して。

答え

それは、聖なる言葉の天から下されたものすべてを意味する。第一に必要なことは、神の言葉を読む、聖別された人びとの熱望と愛である。喜びと輝きをもつて一つの句を読むこと、または一つの言葉だけを讀むことでも、沢山の書を通読するより望ましいことである。

69

質問

ある人が遺書を作成するとき、財産——ホゴゴラの支払と負債の決済に当てられた後の残りの財産——の一部を慈善事業に割り当ててもよいか。それとも、自分の残りの財産が、神に定められた方法で、指定された部類の相続人たちの間で分配されるようにするため、葬儀と埋葬の費用を賄うに十分な額を割り当てることに限定されるのか。

答え

人は自分の財産を完全に管轄する権利をもつ。もし、人がホゴゴラを納めることができ、負債がなければ、遺書の中に記録されたことすべてと、そ

70

質問

れに含まれる宣言や公言はすべて容認されるであろう。まことに、神は、人に与え給うたものをその者の望む通りの方法で処分することを許し給うた。

埋葬用の指輪の使用は大人だけに課せられたものか、それとも未成年者にも同様に課せられたものか。

答え

大人だけが用いるものである。死者のための祈りも同じく、大人のためである。

71

質問

ある人が「高尚の月」以外の時期に断食を望むなら、それは許されるか。またもし、人がその断食に誓い、または願をかけるならば、それは有効かつ、受け入れられるか。

答え

断食の法令はすでに啓示された通りである。しかし、もしだれかが望みの成就、あるいはその他の目的を達成するために、神に断食を捧げるならば、以前も現在もそれは許されることである。とは言え、誓いや願いは人類

の利益になるような目的に向けられることを神は望み給う。神の栄光は高遠なり。

72 質問

住宅と個人の衣服について再び質問が出された。男性の子孫がない場合、これらは正義院に帰属するのか、それとも残りの財産と同じく配分されるのか。

答え

住宅と個人の衣服の三分の二は女性の子孫に渡され、三分の一は、神が人びとの宝庫とされた正義院に渡される。

73 質問

一年の忍耐期間を終えたとき、夫が離婚を拒否する場合、妻はどういう手段をとるべきか。

答え

その期間が終われば離婚が成立する。しかしながら、その期間の始めと終わりを証言する者が必要である。必要が生じたとき彼らに証言を求める



ことができるためである。

74

質問

老年の定義に関して。

答え

アラブ人にとっては、極端に年老いたことを指すが、バハの人びとにとっては70歳からである。

75

質問

徒歩で旅行する人の断食免除の適用範囲に関して。

答え

限度は二時間である。もし、それを上回れば、断食を中断することが許される。

76

質問

断食の月に重労働にたずさわる人の断食の遵守について。

答え

その人は断食を免じられる。しかしながら、神の法と断食の高遠なる地位に敬意を示すために、食事は質素に、内々にすることが最も称賛され、

ふさわしいことである。

77

質問

最大名を95回繰り返すとき、必須の祈りのために行なった洗浄で十分であるか。

答え

再度の洗浄は必要ではない。

78

質問

夫が妻のために買った衣服や宝石に関して。これらは、彼の死後は、彼の相続人たちの間で分配されるのか、それとも妻個人のものであるのか。

答え

使用した衣服以外のものは何であれ、宝石であろうがその他のものであるうが、夫に属する。ただし、妻への贈り物であることが証明されているものは別である。

79

質問

ある事柄の証明が二人の公正なる証人たちの証言に依存するときの公正の基準に関して。

答え

公正の基準は、人々の間で評判がよいことである。すべての神のしもべら

## 80

## 質問

の証言は、その人の信仰や信条が何であれ、神の玉座の面前に受け入れられるのである。

もし、故人がホゴゴラの義務を果たすことも、他の負債を払うこともしていない場合、それは住宅、その人の衣服、残りの財産から均等に差し引いて支払われるべきか。それとも、住宅と個人の衣服は男性の子孫に取っておき、負債は残りの財産から決済されなければならないのであろうか。また、もし財産の残りがその目的を満たすに不十分な場合、負債はどのように支払われるべきか。

## 答え

未払いの負債やホゴゴラの支払いは、残りの財産から決済されるべきであるが、もしただで不十分な場合は、不足額は彼の住宅と衣服から支払わなければならない。

81

質問

第三の必須の祈りは座ったままで捧げられるべきか、もしくは起立して捧げられるべきか。

答え

謙虚な畏敬の念をもつて起立して捧げる方が好ましく、またよりふさわしい。

82

質問

第一の必須の祈りに関して、「謙虚さと熱烈な崇敬の状態にあるときはいつでも、行なうこと」とあるが、これは二十四時間に一回行なうのか、それとももつと頻繁に行なうべきか。

答え

二十四時間に一度で十分である。これこそ聖なる命令の舌によつて述べられたことである。

83

質問

朝、正午および夕方 of 定義に関して。

答え

それは日の出、正午、日の入りのことである。許される必須の祈りの時間は朝から正午まで、正午から日没まで、そして日没からその後二時間ま

84

質問

での間である。権威は、二つの御名を携えてきた御方、神の手中にある。

質  
問

信者が信者ではない者と結婚することは許されるか。

嫁に取ること、嫁に出すことも許される。主は、恵み深さと恩寵の玉座に昇られたとき、このように定め給うた。

85

質問

死者のための祈りは、埋葬に先行すべきか、それともその後捧げられるべきか。また、ゲブレ（崇拜の点）に向く必要があるか。

答  
え

この祈りの詠唱は埋葬に先行すべきである。またゲブレ（崇拜の点）についてはこうである。「どの方向に顔を向けても、神の御顔がある。」「コー

ラン2章  
115節」

86 質問

正午は、必須の祈りの二つ——短い正午の祈り、および朝と正午と夕方に捧げられる祈り——を詠唱する時間であるが、この場合、二回洗浄をす  
る必要があるか、それとも一回で十分か。

答え 洗浄の繰り返しは必要ない。

87 質問

村の住人たちの結納金は銀であるが、それに関して。それは新婦が村の  
住人である場合か、それとも新郎の方であるのか、または双方の場合か。  
また、一方が都市の住人で、もう一方が村の住人の場合はどうすべきか。

答え 結納金は新郎の住所で決められる。もし、彼が都市の住人ならば、結納金

は金で、村の住人なら銀である。

88 質問

人が都市の住人であるか、または村の住人であるかを定める基準は何か。  
もし、都市の住人が村に住み、あるいは村の住人が永住する意図をもつ

て都市に住むならば、どう決めたらよいか。出生の場所が決定要因となるのか。

答え 基準は永住の場所であり、それがどこであるかで、聖なる書にある指示に従わなければならない。

## 89 質問

聖なる書簡の中に、ある人が金19メスガルに相当するものを取得したら、その者はこの額についての神の権利を支払うべきと規定されているが、この19メスガルのうちいくらを払うべきか説明してもらいたい。

## 答え

一〇〇の内の19が神の規定で設定されている。計算はこの基本に立って行われる。それからその額の19が確定される。

## 90 質問

人の富が19を越えるとき、ホグクが再度払われるにはそれが更に19まで増えることが必要か。

答え 19の上に加えられたものはすべて、それが更に19に達するまでホグクの対象にはならない。

91 質問 清らかな水と、その水を使用されたものと見なす基準について。

答え 一カップまたは二、三カップ位の少量の水は、一回顔と手を洗えば使用済みの水と見なされる。しかし、一コール（約1.5立方メートル）、またはそれ以上の水は一回や二回の洗顔では変わらず、その使用に異論はない。ただし、三つの面（色、味、香り）の一つが変わっていたなら、たとえば、変色していた場合など、それは使用された水と見なされる。

92 質問 さまざまな質問についてのペルシャ語の論説で、成人の年齢は15歳と定め

られている。結婚も同様に成人の年齢に達するのが条件であるのか、またはその年齢前に結婚できるか。



## 93

答え

神の書には、本人たち相互の承諾が必要とされており、成人に達する前は、本人たちの承諾も不承諾もしつかりとは確認できないので、したがって、結婚は成人に達することを条件とし、その年齢前の結婚は許されない。

質問

病人の断食と必須の祈りに関して。

答え

まことに、われは述べるが、必須の祈りと断食は神の目に高遠なる地位を占めるものである。しかしながら、それらの徳が実現されるのは健康な状態にあるときである。不健康のときにそれらの義務を守るとは許されない。これがつねに主——彼の栄光は高遠なり——の命令であった。これに留意し、神の教えを守る男女に祝福あれ。聖句を下し給うた御方、疑いの余地のない証拠の啓示者である神にすべての賛美あれ。

94

質問

モスク、教会、寺院に関して

答え

モスク、教会、寺院のように、唯一真なる神の礼拝のために建造されたものは何であれ、神の御名を記念する以外の目的で使用してはならない。これは神の法令であり、それに違反する者はまことに罪を犯した者である。建造者には害はない。なぜなら、彼は神のためにその行為をし、公正なる報酬を受け取った。そして、今後も受け取り続けるであろう。

95

質問

仕事や職業を行うために必要な商売の場所の装備品に関して。それはホゴラの対象であるか、それともそれは家財道具として同じ方法で処理されるか。

答え

それらは家財道具と同様に処理される。

96

質問

他人から預かった財産を、価値の低落、または損失から守るために、現金、またはその他の資産と交換することに関して。

答え

価値の低落、または損失から守るために、預かった財産の交換に関する文書での質問について述べると、そのような交換は、代りになるものの価値が同等であるという条件のもとで容認される。まことに汝らの主は解説者、全知者である。また彼はまことに、日の老いたる者である。

97

質問

冬と夏の期間の足の洗浄について

答え

夏、冬共に同じである。温湯が好ましいが、冷たい水でも構わない。

98

質問

離婚に関する更なる質問

答え

神——その栄光は永遠なり——は離婚を好まれないので、この問題に関しては何も啓示されていない。しかしながら、別居の始まりから一年が終

99

質問

答え

協議について

わるまで、二人、またはそれ以上の人が証人として報告を受けていなければならぬ。もし最後まで和解がなければ離婚となる。このことは正義院の信託者から任命されたその市の宗教上の司法役員によって記録されなければならない。理解力を備えた心の持ち主が悲しまないよう、この手順に従うことは不可欠である。

最初に集まった人たちの間の協議が不一致に終わった場合、新しい人々が加えられ、その後最大名の数、またはそれより少ないか、それを越える数の人々がくじで選ばれる。そこで新たに協議され、そこで出された結果はいかなるものであれ、それに従わねばならない。まだ不一致があるときは、再び同じ手順を繰り返し、多数決で決められる。まことに彼はお望みの者を正しい道に導き給う。

## 100

## 質問 遺産に関して

## 答え

遺産に関して、最初の点なる御方——彼の他のすべての人々の魂が彼のために捧げられんことを——が定めたことは十分満足のいくことである。生存している相続人は自分に配分された遺産の分け前を受け取り、その残りに関する報告書を最も高遠なる御方の宮居に提出せねばならない。彼は望みのままに定め給う。これに関して、ある法が神秘の国（アドリアノーブル）で啓示された。それは、正義院が設立され、これに関する政令が發布される時が来るまで、相続人不在の遺産は現存する相続人に一時的に与えられるという法であった。しかしながら、古来の美と同じ年に移住した人たちの遺産はその者らの相続人に与えられた。これは彼らに授けられた神の恩寵である。

101

質問

発見された財宝について

答え

財宝が発見された時は、その三分の一の権利は発見者にあり、他の三分の二は正義院の紳士たちによってすべての人民の福利のために用いられるべきである。これは正義院の設立後に実施されるであろう。それまでは、各地域と領土在住の信頼できる人々に託されるであろう。まことに彼は、支配者、制定者、全知者、すべてに精通する御方である。

102

質問

利益を生み出さない不動産に対するホグクについて

答え

神の規定は、そこから何らの利益も上げることがない、収入をもたらさない不動産はホグクを払うには値しないということである。まことに彼は、統治者、寛大なる御方である。

103

質問

次の聖句に關して。「昼間や夜が長くなる地域では、時計やその他の、時間の経過を示す手段で祈りの時間を合せよ。…」

答え

この意味は、遠隔の地を意味する。しかしながら、このあたりの気候では、昼夜の長さは二、三時間違うだけである。従って、この規定は当てはまらない。

104

アバ・バデイへの書簡の中で、この聖句が啓示された。「まことにわれは、すべての息子に自分の父に仕えるように課した。」これこそは、われが聖なる書に述べた命令である。

105

また、もう一つの書簡で次の高遠なる言葉が啓示された。「おおモハメッドよ。日の老いたる者は、その御顔を汝に向け給うた。そして、汝のことを述べ、神の人々に彼らの子どもたちを教育するよう勧告された。父親が、永遠の王のペンに

よってアグダスの書に書かれたこの最も重要な命令を怠るならば、彼は父親としての権利を失い、神の面前で有罪と見なされるであろう。主の戒めを心に銘記し、それらにしっかりと縋る者は幸いである。まことに、神はしもべらに、彼らを助け、彼らの利益となり、彼らを神に近づけるようなものを課し給うのである。彼は制定者におわし、永遠なる御方である。

彼は神なり。彼は高遠におわし、尊厳と威力の主であり給う。予言者たちと、選ばれた方々はすべて、唯一真なる神——その栄光に賛美あれ——に、人間存在の木を高潔さと理解の活水で養育するように委任されてきた。それにより、人間の中から神がその内奥の本質に託し給うたものが現れるように。容易に見られるように、各々の木は何らかの果実を生み出し、実を結ばない木は燃やされるのみである。これらの聖なる教育者が語り、説いたことすべての目的は、人間の高遠なる地位を維持することであった。神の日に、神の教えをしっかりと握りしめ、そ



の真実で基本的な法から逸脱しなかつた者は幸いである。人間の生命の木に最もふさわしい果実は、信頼に値することと敬神、真实性と誠実である。しかし、神——彼に賛美と栄光あれ——の唯一性を認めることに次いで、何よりも重要なことは両親に対して示されるべき当然の権利を顧慮することである。この教えは神の書のすべてに述べられてきた。そして最も高遠なる者のペンによって再確認された。慈悲深き主がコーランに啓示されたことを考えよ。彼の言葉は高遠なり。「神を崇拜せよ。彼に対等者も類似者も結びつけるな。そして汝らの両親に親切と慈愛を示せ」。両親に対する慈愛が、いかに唯一真なる神を認めることに結びついてきたかを見よ。真の英知と理解を付与された者ら、神が以前の聖典とこの比類なき驚くべき書簡に啓示されたことを見て、感知する者ら、読み、理解する者ら、守る者らは幸いである。

彼——その言葉は高遠なり——は書簡の一つにこう啓示された。そしてザカートに  
関して、われは同様に、汝らがコーランに啓示されたことに従うよう命じた。



# アグダスの書の法と規定の概要と体系化

## 内容の要約

- I バハオラの後継者、その教えの解釈者としてアブドル・バハを任命
  - A アブドル・バハに向かうこと
  - B 彼に問い合わせる
- II 守護者制度に対する予期
- III 正義院の制度
- IV 種々の法、法令、勧告
  - A 祈り
  - B 断食
  - C 個人の身分に関する法
  - D 種々の法、法令、勧告
- V 特定の説論、戒告、警告
- VI 種々の題目

## 概要と体系化

### I バハオラの後継者、その教えの解釈者としてアブドル・バハを任命

A 信徒らは「神が意図し給うた者、古来の根茎より分岐した者」に面を向けるよう命じられている。

B 信徒らはバハイの書の中で理解できないことがあれば、「この強大なる幹から分岐した者」に問うよう命ぜられる。

### II 守護者の制度に対する予期

### III 正義院の制度

A 正義院が正式に制定される。

B その機能が明確にされる。

#### IV 種々の法、法令、勸告

C その財源が定められる。

##### A 祈り

- 1 バハイ啓示で必須の祈りがしめる崇高な地位。
- 2 ゲブレについて

a バブは、ゲブレを「神が現わし給うであろう者」と特定された。

b バハオラはバブによる指定を確認された。

c バハオラは御自分の死後のゲブレを、その墓所とされる。

d 必須の祈りを唱える時は、ゲブレを向くよう義務付けられる。

- 3 必須の祈りは成人の年齢である15歳に達した男女に義務付けられる。

- 4 下記の者は必須の祈りを免除される

a 病人

b 70歳以上の者

- c 月経中の女性。但し、洗淨を行ない、特別に示された聖句を日に95回繰り返し返す。
- 5 必須の祈りは各人、個々に唱えること。
- 6 3つある必須の祈りのうちの1つを選択することが許される。
- 7 必須の祈りに関して述べられている「朝」とは日の出から正午までの間。「昼」とは正午から日没まで、「夕方」とは日没からその二時間後までを意味する。
- 8 最初の必須の祈り（長い祈り）は、24時間に一度唱えれば十分である。
- 9 第三の必須の祈り（短い祈り）は、起立して唱えることが望ましい。洗淨について。
- a 必須の祈りを唱える前に、洗淨を行わなければならない。
- b 必須の祈りを唱える度に、新たに洗淨を行わなければならない。
- c 正午に必須の祈りを二つ唱える場合は、一回の洗淨で十分で



ある。

d 水がない場合や、その使用が手や足に有害である場合は、特別に指示した聖句を五回繰り返すよう規定する。

e 気候が寒過ぎる場合には温水の使用を勧める。

f 他の目的で洗浄を行った場合には、必須の祈りを唱える前に新たに洗浄を行う必要はない。

g 入浴したか否かにかかわらず、洗浄は必要である。

11 定められた祈りの時間の確認。

a 必須の祈りの時間の確定を時計に頼ることは許される。

b 昼と夜の長さがかなり変化する北極や南極の国々においては日の出や目没を無視し、時計に頼るべきである。

12 危険な状態にあつて、必須の祈りを唱えることができなかつた場合、それが旅行中であるか否かに拘らず、唱えることのできなかつた各

必須の祈りの代りにひれ伏し、その状態で特別な句を唱え、続いて別の特定の聖句を18回繰り返すよう命じる。

13 「故人のための祈り」を除いては、合同の必須の祈りを禁じる。

14 「故人のための祈り」は、その全体を唱えるよう命じる。但し、文字の読めない者は、その祈りの中の6つの特別な節を繰り返すよう命じる。

15 先に示された朝、昼、夕の日に三度唱えることになっていた必須の祈りは、後に示された三つの必須の祈りにとって代えられた。

16 「現象の祈り」を廃止し、それに代る特別な聖句を示す。但し、それを唱えることは義務ではない。

17 毛髪、毛皮、骨片などは、それを身につけた者の祈りを無効にはしない。

B  
断食

- 1 バハイの啓示で断食が占める崇高な地位。
- 2 断食の期間は、閏日の終了とともに始まり、ノー・ルーズの祝祭で終わる。
- 3 日の出から日没までの間、飲食を断つことを義務とする。
- 4 断食は、成人の年齢である15歳に達した男女に義務付けられる。
- 5 下記の者は断食を免除される。
  - a 旅行者
    - i 但し、9時間以上の旅の場合
    - ii 徒歩の旅行者、但し、二時間以上の旅の場合
    - iii 19日以下の短期の旅の場合
    - iv 断食の期間中、旅を中断し、その場に19日間滞在する場合、断食の免除は到着した日から数えて三日間に限る

v 断食期間中に帰宅した場合、帰宅と同時に断食に入らねばならない

b 病人

c 70歳以上の者

d 妊婦

e 授乳中の女性

f 月経中の女性、代りに洗淨を行い、特別に示された聖句を日に95回繰り返して唱える。

g 重労働に従事する者、但し、彼らはこの免除を適用する時、分別と自制をもって法への敬意を表すよう勧められる。

6 願かけのために、定められた断食の月以外の月に行う事は許されるが、神の目から見れば、人類に利益をもたらす祈願の方が望ましい。

## C 個人の身分に関する法

## 1 結婚

- a 結婚は大いに奨励されるが、義務ではない。
- b 一夫多妻は禁じられている。
- c 結婚は、両者が成人の年齢である15歳に達していることが条件とされる。
- d 結婚は両者と、その各々の両親の承諾が条件付けられる。
- e 双方ともに、自分たちが神の意志に満足であることを表明する特別に示された聖句を復唱しなければならない。
- f 義母との結婚は禁じられている。
- g 血族結婚に関することはすべて正義院に照会されなければならない。
- h 信者でない者との結婚は許される。

i 婚約

- i 婚約期間は95日を越えてはならない。
- ii 未成年の少女との婚約は非合法である。

j 結納金

- i 結婚には結納金の納付が条件付けられる。
- ii 結納金は、都会に住む者は純金19メスガル、また村に住む者は銀19メスガルと定められている。これは、妻ではなく夫の居住地によって決まる。
- iii 95メスガル以上の結納金は禁じられている。
- iv 夫は、銀19メスガルの支払いをもって満足することが望ましい。
- v 結納金の全額を一度に支払うことができない場合、約束手形を出すことができる。

k

特別に示された聖句を復唱し、結納金を納付した後、まだ床入りが終わらないうちに、もし両者の一方が他方に対して嫌悪の情を抱いた場合、離婚に先立って待機期間を経る必要はない。但し、結納金を取り戻すことはできない。

l

夫は旅に出るつもりなら、妻に対して家に帰る日を定めなければならぬ。もし、正当な理由で夫が規定の期日までに帰ることができない場合、夫は妻にそのことを知らせ、妻の元へ帰るよう努力しなければならぬ。夫がこれらの条件のいずれかでも実行しなかった場合、妻は9ヵ月間の待機の後、再婚できる。しかし、妻はそれ以降も待つことが望ましい。もし夫が死亡、あるいは殺されたという知らせが妻の元に届き、その知らせが一般の報道や、または信頼のおける二人の証人によって確認されたなら、妻は9ヵ月後に再婚すること

ができる。

m

もし夫が、アグダスの書で規定された法を知りながら、旅に出る際に帰る日を妻に知らせなかった場合、丸一年経過したら妻は再婚できる。もし夫がこの法を知らない場合、妻は夫からの知らせを待たねばならない。

n

夫が結納金を納付した後、妻が処女でないことを発見した場合、結納金と出費した経費の払い戻しを請求することができる。

o

処女であることが結婚の条件であった場合、出費した経費と結納金の払い戻しを請求することができ、その結婚を無効とすることができる。しかしながら、神の目からみれば、このことを隠しておくことは大いなる賞賛に値する。



## 2

## 離婚

- a 離婚は強く咎められている。
- b もし夫か妻のいずれかに反感や憤りの感情が高まった場合、離婚は許される。但し、丸一年待たなければならぬ。一年間の 待機期間に入ったこと、またその終結に関しては、二人以上の証人の証言を必要とする。離婚は、正義院を代表する司法官によって記録されなければならない。待機期間中の性交は禁じられる。この規定に違反した者は、悔い改め、金19メスガルを正義院に支払わねばならない。
- c 離婚後、更なる期間待つ必要はない。
- d 不貞が理由で離婚される妻は、待機期間中の経費受給の権利を失う。
- e 前に離婚した妻と再び結婚することは許される。但し、彼女

が他の男性と結婚していない場合に限る。彼女が再婚している場合、元の夫と再婚する前に離婚せねばならない。

f 待機期間中に愛情が蘇ったら、夫婦の縁は有効である。もし、仲直り後に不和が生じ、再度離婚を希望する場合は、新たに一年の待機期間に入らなければならない。

g 旅行中、夫婦間に不和が生じた場合、夫は妻を自宅に送り返すか、または信頼の置ける者に託して自宅まで付き添わせ、妻の旅費と一年間の経費をまるまる払わねばならない。

h 妻が、外国に移住するよりも、夫との離婚を求める場合、一年の待機期間に入るのには夫婦が別居を始める時からであり、それが夫の出発の準備中に始まるか、それとも出発後に始まるかは問わない。

i 以前に離婚した妻との再婚に関するイスラム教の法律は廃止

される。

### 3

遺産相続（この遺産分配は遺言のなかった場合に適用される。この節参照）

a 遺産相続は次の様な項目に割り当てられる。

- 1 子ども…遺産の  $2520$  分の  $1080$
- 2 夫、または妻…遺産の  $2520$  分の  $390$
- 3 父親…遺産の  $2520$  分の  $330$
- 4 母親…遺産の  $2520$  分の  $270$
- 5 兄弟…遺産の  $2520$  分の  $210$
- 6 姉妹…遺産の  $2520$  分の  $150$
- 7 教師…遺産の  $2520$  分の  $90$

b バハオラは、バブによって定められた子どもへの割り当てを二倍にし、その増額分を残りの受給者らの割り当て分から均等

に差し引かれた。

c

i 子孫がない場合、子どももの割り当ては正義院に帰属し、それは孤児や未亡人、そして人類のためになることに費やされる。

ii 故人の息子が死んでいて、その息子に子どもがいる場合、これらの子どもは父の割り当て分を相続する。故人の娘が死んでいて、この娘に子どもがいる場合、故人の娘の割り当て分は最も聖なる書に規定された7つの部類に分配される。

d

故人が子孫を残している場合、もし他の部類の相続人の全員、または一部が存在しなければ、該当者のない部類の割り当て分の三分の二は故人の子孫に、三分の一は正義院に帰属する。

e 規定された受給者が一人も存在しない場合、遺産の三分の二は故人の甥や姪に帰属する。それがない場合、上記の割り当ては故人の叔父や叔母に、またそれもない場合、それは叔父や叔母の息子や娘に帰属する。いずれにせよ、遺産の残り三分の一は正義院に帰属する。

f 故人に上記のような相続人が一人もない場合、遺産の全額が正義院に帰属する。

g 亡くなった父親の邸宅と衣類は女の子孫ではなく、男の子孫に相続される。邸宅が複数の場合、その中の最も重要なものを男の子孫が相続する。残りの邸宅は故人の他の所有物と共に、相続人たちに分配されなければならない。男の子孫がない場合、亡くなった父親の主な邸宅と衣類の三分の二は女の子孫に、三分の一は正義院に帰属する。母親が亡くなった場合、

彼女が使用していた衣類のすべては娘たちの間で均等に分けられなければならない。亡母の衣類の中で未使用の物は、故人の宝石類や財産と共に相続人たちに割り当てられなければならない。亡母に娘がない場合、故人の使っていた衣類も同様に相続人たちに割り当てられる。

**h** 故人の子どもたちが未成年である場合、彼らが成人するまでの期間、その遺産の割り当ては、信頼できる個人、または法人に投資を目的として信託されるべきである。生じた利息の一部は信託者に渡すべきである。

**i** ホゴゴラ（神の権利）が支払われ、故人の負債が返済され、そして適切な葬儀と埋葬のための費用の支払いが済むまでは遺産の分配をしてはならない。

**j** 故人の兄弟が同じ父親を持つ場合は、規定による割り当ての

金額を相続する。異父兄弟の場合は、規定による割り当ての三分の二だけを相続し、残りの三分の一は正義院に帰属する。この規定は父親が異なる姉妹にも適用される。

**k** 同じ父を持つ兄弟姉妹がいる場合、父の異なる兄弟姉妹は遺産相続を受けられない。

**l** バハイでない教師は遺産の相続を受けない。教師が複数の場合、教師に対する割り当ては、教師間で均等に分けられる。

**m** バハイでない者は遺産相続を受けない。

**n** 妻が使っている衣類と、夫が妻に贈与したということが立証できる宝石類やその他の贈り物を除き、夫が妻のために買った物はすべて、夫の所有物と見なされ、夫の相続人たちの間で分けられる。

**o** 各人は自分の所有物を、適切と判断するままに自由に遺贈で

きる。但し、ホゴゴラの支払いと負債の返済のための規定を設けておかねばならない。

D 種々の法、法令、勸告

1 種々の法や法令

a 巡礼

b ホゴゴラ

c 寄付

d マシユレゴウル・アズカル

e バハオラ宗教制の期間

f バハイの祝祭

g 19日毎のフィースト

h バハイの暦



t	s	r	q	p	o	n	m	l	k	j	i
遺失物の発見	女中の扱い	狩猟	最大名を日に95回復唱	教区税	遺言の作成	子どもの教育	政府への服従	仕事への従事は義務であり、それは礼拝の地位にまで高められている。	遺体の埋葬	成人の年齢	閏日

## アグダスの書の法と規定の概要と体系化

- u 貴重な発見物の処置
- v 信託物件の処分
- w 故殺
- x 公正な証人の定義
- y 禁制、禁止事項
- i 聖典の解釈
- ii 奴隷売
- iii 禁欲主義
- iv 修道院制度
- v 物乞い
- vi 僧職
- vii 説教壇の使用
- viii 手に接吻すること

ix	罪の告白
x	一夫多妻制
xi	酔いを引き起こす飲物
xii	阿片
xiii	賭博
xiv	放火
xv	姦通
xvi	殺人
xvii	盗み
xviii	同性愛
xix	故人のための祈りを除く、会衆での祈り
xx	動物に対する残虐行為
xxi	怠惰と無精

2

過去の宗教制で規定した特定の法や法令のうち、以下のことを廃止。

- |       |                    |     |              |            |       |                    |                 |                 |              |      |    |
|-------|--------------------|-----|--------------|------------|-------|--------------------|-----------------|-----------------|--------------|------|----|
| xxxii | xxxii              | xxx | xxix         | xxviii     | xxvii | xxvi               | xxv             | xxiv            | xxiii        | xxii |    |
|       | 男性が頭髪を耳たぶより長く伸ばすこと | 剃髪  | 食べ物に手を突っ込むこと | 通りで聖句を眩くこと | 争いや闘争 | 人を殴ったり、傷を負わせたりすること | 家主の許可なしに、家に入ること | ペルシヤの浴場の公衆浴槽の使用 | 必須な場合以外の武器携帯 | 中傷   | 陰口 |

- a 書物の破損
- b 絹着用の禁止
- c 金銀材食器の使用禁止
- d 旅行の制限
- e 信教の創始者に高価な贈り物をする事
- f 信教の創始者に対して質問することの禁止
- g 前妻との再婚
- h 隣人を悲しませた者を罰すること
- i 音楽の禁止
- j 服装や髪に対する規制
- k 種々の物や、人が汚れているということ
- l 精液が汚れているということ
- m ひれ伏して礼拝する際、ある一定の物を汚らわしいとすること

3 種々の勧告

- a すべてのの宗教の信奉者と親しく交わること
- b 両親を敬うこと
- c 自分の欲しないことを、他人に望まないこと
- d 信教の創始者の昇天後での、信教布教について
- e 信教を広めるために起ち上がる者を援助すること
- f 教典から逸れないこと、また教典から逸れた者らに惑わされないこと
- g 相違が生じた場合、聖典を参照すること
- h 教えの学習に身を浸すこと
- i 己の愚かな妄想や、空しい空想に従わないこと
- j 朝夕、聖句を唱えること

- k** 美しい旋律で聖句を唱えること
- l** 自分の子どもにマシユレゴウル・アズカルで詠唱するよう教えること
- m** 人類にとつて有益な技術や学問を勉強すること
- n** 共に協議すること
- o** 神の定め給うたことを遂行するにあたり、厳格であること
- p** 自己の罪を神に悔いること
- q** 善行をもつて自己を際立たせること
- i** 正直であること
- ii** 信頼される者であること
- iii** 誠実であること
- iv** 公正であり、神を畏れること
- v** 公明正大であること

アグダスの書の法と規定の概要と体系化

- vi 考え深く、賢明であること
- vii 礼儀正しくあること
- viii 親切にもてなすこと
- ix 忍耐強くあること
- x 世俗を超脱すること
- xi 神の意志に完全に従順であること
- xii 騒乱を起こさないこと
- xiii 偽善者にならないこと
- xiv 傲慢にならないこと
- xv 狂信的にならないこと
- xvi 己を隣人に優先させないこと
- xvii 隣人と争わないこと
- xviii 情欲に溺れないこと



- xix 逆境にあつて、嘆き悲しまないこと
- xx 権威と抗争しないこと
- xxi 腹を立てないこと
- xxii 隣人を怒らせないこと
- r 親密な和合を保つこと
- s 病気の時には有能な医師にかかること
- t 招待に応えること
- u 信教の創始者の親族に親切であること
- v 信教促進のために語学を学ぶこと
- w 信教の榮譽を讃えるために都市や国々の発展を促進すること
- x 信教の創始者たちと関係のある史跡を修復し、保存すること
- y 清潔さの真髓となること
- i 足を洗うこと

V

特定の説諭、戒告、警告

以下の者に宛てたもの

- 1 人類
  - 2 世界の国王たち
  - 3 聖職者たちの集合
  - 4 アメリカの為政者たちと、その地の共和国の大統領たち
- ii 香水を使うこと
  - iii 汚れていない水を用いて沐浴すること
  - iv 爪を切ること
  - v 汚れた物は汚れていない水を用いて洗うこと
  - vi 清潔な衣服を着ること
  - vii 家具を更新すること

## VI 種々の題目に関して

- 5 プロシア国王のウイルヘルム一世
  - 6 オーストリア皇帝のフランツ・ヨゼフ
  - 7 バヤンの人々
  - 8 各国の国会議員たち
- 1 バハイの啓示の卓越性
  - 2 信教の創始者の高遠なる地位
  - 3 「最も聖なる書」であるアゲダスの書の至上の重要性
  - 4 「最大の不謬性」の教義
  - 5 顕示者を認知し、その法に従うということは一対であり、不可分の義務
  - 6 すべての学問の究極の目標はあらゆる知識の的である御方を認める

こと

- 7 「その行いに関して彼は問われることはない」という根本的な真理を  
認知した者は幸いである
- 8 「最も偉大な秩序」の大変革を起こす力
- 9 世界のすべての人々が使用する共通の言語の選定と、共通の文字の  
採用。これは人類が成熟期に達したことを示す二つの証拠の一つで  
ある
- 10 「神が現わし給うであらう者」に関するバブの予言
- 11 信教への反対に関する予告
- 12 信教を奉じ、それに仕えるために起ち上がる国王への賛辞
- 13 人の世の無常
- 14 真の自由の意味
- 15 すべての行いの真価は、神がそれを承認し給うか否かにかかる

- 16 神を愛するがゆえに、神の法を守ることの重要性
- 17 物質的手段を用いることの重要性
- 18 バハの人々の中にいる博識者らへの賞賛
- 19 もし悔い改めるなら、ミルザ・ヤーヤは必ず許されるといふ確約
- 20 テヘラン市への呼びかけ
- 21 コンスタンチノーブル市とその市民への呼びかけ
- 22 「ラインの川岸」への呼びかけ
- 23 密教的な知識を有すると偽って主張する者に対する非難
- 24 学識に対する誇りが、自己を神より締め出す結果となることを許す者に対する非難
- 25 ホラサン地方に関する予言
- 26 ケルマン地方に関する予言
- 27 シエイキ・アハマド・アサイへの言及

- 28 「小麦のふるい手」に関する言及
- 29 ハジ・モハメッド・カリム・カンに対する非難
- 30 シエイキ・モハメッド・ハサンに対する非難
- 31 ナポレオン三世についての言及
- 32 セイエド・イ・モハメッド・イ・エスファハニについての言及
- 33 信教に奉仕しようと起ち上がる者に対する援助の確証



# 注 积



## 注釈

1 わが衣の甘い香り。\*4 (以下\*と数字で、本体中の段落の番号を示す)

これは、コーランと旧約聖書の中にあるヨセフの物語の引喩である。それは、ヨセフの兄弟達が父親ヤコブに届けたヨセフの衣で、ヤコブは、長い間行方が分からなかった、愛する息子ヨセフを特定することができたという話である。よい香りのする「衣」の比喩は、神の顕示者とその啓示を認識することを表すものとしてバハイの書物にしばしば用いられる。

バハオラは、ある書簡の中で、自身を、無思慮な者らによって、ただ同然の値で売り飛ばされた「聖なるヨセフ」として描写しておられる。バブは、ガユームル・アスマの中でバハオラを「真のヨセフ」として特定し、自分が、自分の不誠実な弟の手がもたらす苦難にさらされることを予告している(注釈190参照)。同様にシヨーギ・エフェンデイは、アブドル・バハの卓越性により異母弟のミルザ・モハメッド・アリに芽生

えた嫉妬心と、「ヨセフの優越性が彼の兄弟達の心に火を灯した」致命的な妬みとの間に類似点を見いだしている。

2 われは強大と威力の指をもって、選り抜きの美酒の封を切ったのである。\*5

ワインやその他、人を酔わせる物を飲食することはアグダスの書で禁止されている（注釈144及び170参照）。精神的恍惚状態の原因などという寓意的な意味での「ワイン」使用に関する言及は、バハオラの啓示だけでなく、聖書やコーラン、古代ヒンズー教の伝承にも見られる。

たとえば、コーランでは、正しき者らには「封印をされた選り抜きの美酒」が提供されると約束されている。バハオラはいくつかの書簡で、「選り抜きの美酒」を自分の啓示と結びつけ、その啓示の「じゃこうの香りで満たされた芳香」は「全創造物」の上に漂っていると説明している。バハオラは、この「美酒の封を切り」、そうすることによってそれまで知られていなかった精神的真理を明らかにし、それを飲む者ら

が、「聖なる一体性の光輝を感知し」、「神の諸々の教典の根本的目的を把握する」ことができるようになしたと述べている。

バハオラの瞑想の言葉の中に、神に嘆願する次のような箇所がある。「あなたの他のすべてのものを忘れさせ、あなたの大業に仕えるために立ち上がらせ、あなたへの愛に確固たらしめる」ために、信者らに「あなたの慈悲の選り抜き的美酒」をお与えくださいと請願している。

### 3 われは…必須の祈りを汝らに命じた。\*6

アラビア語では祈りを意味する言葉がいくつかある。この文節で用いられているのは「サラート」という言葉で、それは特定の部類の祈りを指す。そのような祈りは、一日の特定の時間に唱えるよう信者に義務づけている。この部類の祈りを他のものと区別するために、ここでは「サラート」を「必須の祈り」と訳している。

バハオラは、「必須の祈りと断食は、神の目に崇高なる地位を占める」と述べてい

## 注釈

る（「質疑応答」93参照）。アブドル・バハは、そのような祈りは「謙虚さと従順、神に顔をすえること、神への献身を表現することに資する」とし、また、それらの祈りを通して「人は神と交わり、神に近づこうとし、自身の、心から愛する御方と会話し、精神的地位に達する」と述べている。

この聖句に言及されている必須の祈り（注釈9参照）は、後にバハオラによって啓示された三つの必須の祈りに取って代えられた（「質疑応答」63）。現在使用されている三つの祈りの文言、およびその唱え方に関する指示は、この書の「アグダスの書の補足といくつかの聖句」に掲載されている。

「質疑応答」の項目の幾つかは三つの新しい必須の祈りに関するものである。個人はこの三つの必須の祈りのうちの一つを選ぶことが許されると、バハオラは明示している（「質疑応答」65）。その他の規定については、「質疑応答」の66・67・81・82で解説されている。

必須の祈りの法に関する詳細は、「概要と体系化」のIV Aの1〜17に要約されている。

## 4 9つの「ラカー」\*6

ラカーとは、特別に啓示された聖句を唱え、それらに伴う規定された、跪座きざやその他の動作をするということの意味する。

当初、バハオラが信奉者らに命じられた必須の祈りは9つのラカーから成っていた。この祈りは紛失したため、その正確な性質や唱え方に関する特定の指示は不明である。

(注釈9参照)。

アブドル・バハは、現在義務づけられている必須の祈りについて述べたある書簡で、「必須の祈りの言葉や動作にはすべて、人が理解できない、また文字や巻物を含むことのできない諸々の暗示や神秘や英知が含まれている」と指摘している。

また、シヨーギ・エフェンディは、バハオラがいくつかの特定の祈りに関して与えている簡単な指示は、精神的意義を有するだけでなく、人が「祈りや瞑想に十分に集中する」のを助けるものでもあると説明している。

5 正午と朝と夜に。\*6

現在義務づけられている中位の長さの必須の祈りを唱える時間の、朝と正午と夜という定義について、バハオラは、これらが日の出、正午、日の入りを指すと述べている（「質疑応答」83）。バハオラは、「必須の祈りを唱えることが許される時間は、朝から正午まで、正午から日の入りまで、日の入りから日没後二時間までである」と指定している。さらに、アブドル・バハは、朝唱える必須の祈りは、早ければ夜明けでも唱えることができる」と述べている。

正午を、正午から日の入りまでと定義することは、中位の長さの必須の祈りだけでなく、短い必須の祈りを唱える時にも適用される。

6 われは…より多くの数を唱えることを免除した。\*6

バブの宗教制やイスラムの宗教性で義務付けられた必須の祈りの条件は、アグダスの書で規定された9つのラカーから成る必須の祈りの実行に関するものよりも厳し

かった（注釈4参照）。

バブはバヤンにおいて、19のラカーから成る必須の祈りを、24時間内に、すなわち、その日の正午から次の日の正午までに一度捧げることが規定した。

イスラムの祈りは一日に五回、すなわち、早朝、正午、午後、夕方、そして夜遅く、である。祈りを唱える時間によってラカーの数は異なるが、一日に合計17のラカーを捧げることになる。

7 この祈りを捧げたいと欲するときには、わが最も神聖なる面前の宮居に顔を向けよ。それは、…永遠の都の住人らの崇敬の点と…、神が定め給うたこの聖なる地点である。\*6

「崇敬の点」とは、必須の祈りを捧げるときに礼拝者が向かうべき点であり、それはゲブレと呼ばれている。ゲブレの概念は過去の宗教にもあった。過去の時代にはエルサレムがゲブレとして定められた。また、ムハンマドは、ゲブレをメッカに変更し

## 注釈

た。アラビア語のバヤンにおけるバブの指示は、次の通りである。「ゲブレとは、まことに神が現わし給う御方のことである。彼が動きを停止するまでは、ゲブレは彼の動きと共に動くのである」。

この聖句は、バハオラによってアゲダスの書に引用されており（本体段落<sup>137</sup>）、注釈7の冒頭で抜粋した文中で確認されている。またバハオラは、ゲブレの方を向くことは、「必須の祈りを唱えるとき定められた条件である」と指摘している（「質疑応答」14及び67）。しかし、その他の祈りや礼拝の時は、各自はいかなる方向に向かおうと構わない。

8 **そして真理と発言の太陽が沈んだ後は、われが汝らのために定めた地点へ顔を向けよ。\*6**

バハオラは自分が亡くなった後のゲブレとして、自身の眠る地を定めている。最も神聖なる廟はアッカのバージにある。アブドル・バハは、その地点を、「輝かしい廟」、



「天上の群衆がその周囲を回る場所」として描写している。

シヨーギ・エフエンディは、その代理による手紙で、ゲブレに向かうことの精神的意義について説明するにあたり、太陽の方向へ向かう植物のたとえを用いている。

…植物は太陽光線から生命力と成長力を受け取るが、ちょうど、植物が太陽に向かつて伸びるように、私達も祈るとき、神の顕示者であるバハオラの方へ心を向ける…。私達は…この内なる行為の象徴として、彼のご遺体がこの地上に眠る場所へ…顔を向けるのである。

## 9 われは必須の祈りの詳細を別の書簡に記した。\*8

当初の必須の祈りは、「英知ある理由」でバハオラによって別の書簡に啓示された〔質疑応答〕63)。当初の必須の祈りは現在使われている三つの必須の祈りにとって代えられ、バハオラが生存中に信者達にそれが公開されることはなかった。

バハオラの昇天後間もなく、この祈りの原本は、他の多くの書簡と共に、彼の聖約

の最大の破壊者であるモハメッド・アリによって盗まれた。

## 10 「故人のための祈り」 \* 8

「故人のための祈り」（「アゲダスの書を補足する聖典」参照）は、バハイで唯一の、会衆で唱えられる必須の祈りである。それは出席者全員が起立して、沈黙するなかで、一人の信者が唱えることになっている（注釈19参照）。バハオラは、「故人のための祈り」は、故人が大人であるときのみ必須であること（「質疑応答」70）、故人の遺体を埋葬する前にそれを唱えるべきであること、そしてこの祈りを唱えるときゲブレに向かう条件はないことを明確にしている（「質疑応答」85）。

「故人のための祈り」の更なる詳細は、「概要と体系化」のIV A 13〜14に要約されている。

## 11 聖句の啓示者である神により、6つの特定の文が規定された。 \* 8

「故人のための祈り」の一部を構成するいくつかの聖句は、アラホ・アブハ（神は栄光に満ちたもう）という挨拶の言葉を6回繰り返すことから成る。そして、それぞれ一回唱えるたびに、特別に啓示された6つの聖句の一つを19回ずつ唱えることを伴う。これらの聖句は、バブがバヤンに啓示した「故人のための祈り」と同一のものである。バハオラはこれらの聖句の前に嘆願の言葉を加えている。

12 獣毛は汝の祈りを無効にはしない。また、もはや命が宿っていないもの、たとえば骨やそれに類似するものも祈りを無効にはしない。汝らは、ビーバーやリスやその他の動物の毛皮を着ると同じように、黒てんの毛皮を着ることができる。 \* 9

いくつかの過去の宗教制では、ある動物の毛を身にまとう、あるいはその他の特定の物を身につけると、祈りが無効になると見なされていた。バブはアラビア語のバヤンで、そのようなことが祈りを無効にすることはないと宣言しているが、バハオラは

それをここで確認している。

13 われは、成人に達したときから祈りと断食をするよう汝らに命じた。\*10

バハオラは、「宗教的義務に関する成年の歳」を「男女とも15歳」と定義している（「質疑応答」20）。断食の期間に関する詳細は注釈25参照

## 注釈

14 神は…、病気や高齢のために虚弱な者についてはこの義務を免除された。\*10

病気や高齢のために虚弱な者らを「必須の祈り」を捧げることや断食から免除することについては、「質疑応答」で説明されている。バハオラは、「不健康のときにそれらの義務を守ることは許されない」と指摘している（「質疑応答」93）。バハオラは、これに関して、70歳からを高齢と定義している（「質疑応答」74）。シヨーギ・エフェンディはある質問に対して、70歳に達している人達は、虚弱であろうとなかろうと免除されていると明確にしている。

断食の免除は、他の特定の状況の人にも適用されており、そのリストは「概要と体系化」のIV B 5に掲載されている。追加の説明については注釈20・30・31参照のこと。

15 神は、清潔な表面ならどこであろうとひれ伏してよいという許しを汝らに与えられた。われはこれに関して、聖典において規定された制限を取り除いたのである。\*10

過去の宗教制における祈りの条件には、しばしば、ひれ伏す動作が含まれていた。バブはアラビア語のバヤンで、ひれ伏すときには額を水晶の表面の上に置くよう信者らに命じた。同じように、イスラムでも、イスラム教徒がひれ伏すとき許されている表面に関していくつかの制限が課されている。バハオラはそのような規制を廃止し、単に「清潔な表面ならどこであろうと」と規定している。

16 洗淨用の水が見つからない者は、「最も純粹におわし、最も純粹にまします神の御名において」という言葉を五回繰り返し、それから祈るがよい。\*10

## 注釈

必須の祈りを捧げる準備として、信者は洗淨を行うようになってい。それは、手と顔を洗うことから成る。もし水がない場合は、特別に啓示された聖句を五回繰り返すよう規定されている。洗淨に関する一般的な説明については、注釈34参照。

水がない時に代わりに行うべき手順の規定に関する過去の宗教制でのしきたりは、コーランやアラビア語のバヤンに見いだせる。

17 昼間や夜が長くなる地域では、時計やその他、時間の経過を示す手段で祈りの時間を合わせよ。\*10

これは、昼と夜の長さが著しく異なる、極北や極南に位置する地域に関する言及である（「質疑応答」64及び103）。この規定は断食にも適用される。

18 われは汝らに対し、現象の祈りを唱える義務を廃棄した。\*11

現象の祈りは、地震や日食などのような自然現象——それらは恐怖感を引き起こす

こともある神の印や行為と見なされた——が起きたとき唱えるように定められていたイスラム教の必須の祈りの特種なものである。この祈りを捧げるといふ義務は取り消された。その代わりにバハイは、「支配は神と共にあり、神こそは目に見えるもの、見えぬものの主におわし、創造の主におわします」と唱えることができるが、これは必須ではない。（「質疑応答」52）

### 19 「故人のための祈り」を例外とし、会衆の祈りの慣行は廃止された。\*12

たとえば、イスラム教の習慣では、モスクでの金曜礼拝はイマムが先導して行うが、バハイの宗教制ではこのように定められた儀式に従って唱える正式な必須の祈りとしての会衆の祈りは廃止されている。故人のための祈り（注釈10参照）のみがバハイ法により規定される唯一の会衆の祈りである。これは、出席者のうちの一人が、残りの皆が沈黙し、起立した状態にある中で唱える。しかし、この祈りを唱える者に特別な地位はない。これを唱える時、会衆はゲブレの方を向くという条件はない。（「質疑応

## 注釈

答「85」

三つの必須の祈りは、会衆ではなく、個人で唱えることになっている。

その他多くのバハイの祈りの唱え方には規定された方法はない。あらゆる人は、そのような、必須でない祈りを、会合、あるいは個人で好みに合わせて自由に使うことができる。これについて、シヨージ・エフェンディは次のように述べている。

：友らは、このように自分の好みに合わせることができるが：彼らは自分達のやり方が厳格なものになりすぎて、制度化してしまわぬように最大の注意を払わなければならぬ。これは、友らが、教えに指摘されている明確な道から逸れてしまわぬために、常に心しておくべき点である。

**20 神は、月経中の女性を必須の祈りと断食から免除された。** \* 13

月経中の女性は必須の祈りと断食から免除されている。必須の祈りの代わりに洗浄を行い（注釈34参照）、その日の正午から次の日の正午の間に、「光輝と美の主なる神



に栄光あれ」という聖句を95回、繰り返さねばならない。この規定はアラビア語のバヤンに前例があり、そこでも、同じような免除の規程がある。

過去の宗教制によつては、月経中の女性は儀武を行うには不浄であるとし、祈りと断食の義務の実施を禁じていた。儀式を行うには不浄であるというこの概念は、バハオラにより廃止されている。(注釈106参照)

万国正義院は、ある義務や責任を免除するというアグダスの書における規定は、言葉が示す如く免除であり、禁止ではないことを明確にしている。したがって、望むなら、いかなる信者も自分に適用される免除を受け入れることができる。しかし、免除を受け入れるか否かを決めるにあたり、信者は英知を行使し、バハオラは妥当な理由を持ってこれらの免除を与えているということを知るべきであると、万国正義院は助言している。

規定された必須の祈りの免除は、当初は9つのラカーから成る必須の祈りに関するものであったが、現在はそれに取って代わった三つの必須の祈りに適用される。

21 汝ら、もし旅行中に安全な場所に止まって休むなら、男性も女性も同じように、唱えていない必須の祈りの回数に応じて一度ずつひれ伏す。\* 14

必須の祈りの免除は、必須の祈りを唱えることができなくなるような、安全でない状況に置かれている人に適用される。この免除は、旅をしているときにも、家にいるときにもあてはめられる。それは、そのような安全でない状態にあるため唱えることができなかつた必須の祈りを補う手段を提供する。

バハオラは、必須の祈りを捧げるための安全な場所を見つけることができれば、「必須の祈りは旅行中でも止めてはならない」と明言している〔質疑応答〕58〕。「質疑応答」21・58・59・60・61は、この規定についてさらに詳しく述べている。

22 平伏の動作を終えたなら、足を組んで… \* 14

アラビア語の「ヘイキャロト・トーヒード」という表現は、「足を組む」と訳されているが、「調和の姿勢」を意味する。これは伝統的に、あぐらをかいた姿勢を意味

している。

23 言挙げよ。神は、わが隠されたる愛を、財宝への鍵とされた。\*15

神と、その創造に関してイスラムによく知られた伝承がある。

われは隠されたる宝であった。われは知られんことを欲し、よって、われ知られんがために創造物を生じさせた。

この伝承に関する言及や暗示は、バハイの書の至るところに見いだすことができる。たとえば、バハオラはある祈りでこう示している。

あなたの御名に誉れあれ、おお主よ、わが神よ。かつてあなたは、あなたの古来の存在に包まれた、隠された宝であったこと、あなたご自身の真髄の中に秘められた、不可思議な神秘であったことを私は証言いたします。あなたはご自身を明示したいと欲し、大世界と小世界を生じさせ、あなたの全創造物の上に人間を選び給うた。そして、その人間を、この両方の世界の印とされた。おお、

## 注釈

最も憐れみ深き、われらの主なる御方よ。

あなたは、あなたの創造し給うた万人の目前にあなたの玉座を占有させるため彼を引き上げ給いました。あなたは、彼が、あなたの神祕を解明し、あなたの靈感と啓示の光をもって輝くことを、また、あなたの諸々の名と属性を現わすことを可能ならしめ給いました。彼を通して、あなたは創造界の書の序文を飾り給いました。おお、あなたが形成し給うた宇宙の支配者なる御方であるあなたよ。(「バハオラの祈りと瞑想」XXXXVIII)

同じように、「隠されたる言葉」では、バハオラはこう述べている。

おお人の子よ！ われ汝の創造を愛した。さればこそ、われ汝を創った。されば汝、われを愛せよ。われ汝の名を呼び、汝の魂を、生命の生氣もて満たし得んがために。

アブドル・バハは、上記の伝承の注釈としてこう書いている。

おお、最愛なる御方の道を行く旅人よ。このことを知れ、すなわち、この聖

なる伝承の主な目的は、真理の具現者達のなかにある神の隠蔽と顕現の段階を述べることである。真理の具現者達とは、神の栄光に満ちた御方の黎明の場なる者らである。たとえば、消えることなき火の炎が灯され現れる前に、すでにその炎は、普遍的顕示者という隠された実在の中に存在し、またそれ自身の中に自ずと存在するのである。これが、「隠されたる宝」の段階である。そしてその祝福された樹がそれ自身で、またそれ自身の中で火を灯されるとき、また、あの聖なる火がその本質により、その本質の中で燃え盛るとき、これが、「われは知られんことを欲した」という段階である。そしてそれが、無限の、諸々の聖なる名称と属性をもつて宇宙の地平線から、偶発的で定まった場所のない世界に輝き出るとき、これは、新しく驚くべき創造の出現を構成する。そしてこれが、「かくの如く、われは創造物を生じさせた」という段階と一致するのである。そして聖別された魂らが、すべての現世的愛着と世俗的状态のとはりを引き破るとき、また、聖なる存在の美に視線を向ける段階へと急ぎ、顕示者

を認める栄誉を受け、心の中で神の最も偉大なる印の光輝を目撃することができる。創造の目的が明かされるのである。

24 おお、最も高遠なる御方のペンよ。\* 16

「最も高遠なる御方のペン」、「至上のペン」、「最も崇高なるペン」はすべてバハオラを指し、神の言葉の啓示者としてのバハオラの機能を意味する。

25 われは、汝らに短期間の断食を命じた… \* 16

断食と必須の祈りは、神の啓示された法を支える二本の柱を成す。バハオラはある書簡の中で、必須の祈りと断食の法を啓示したのは、信者らがそれらを通して神に近づくことができるようにするためであると断言している。シヨーギ・エフェンディは、日の出から日の入りまで飲食を完全に控える断食の期間について次のように述べている。

…本質的には、祈りと瞑想、精神的回復の期間であり、その間、信者は自身

の内面的生活に必要な再調整を行い、魂に潜在する精神的力を補給し、活気づけるよう努力しなければならない。したがって、その意義と目的は本質的に精神的なものである。断食は象徴的なもので、利己的、肉体的欲望を控えることを思い起こさせるものである。

断食は、15歳に達した時から70歳になるまですべての信者に課せられている。

断食の法に関する詳細な規定や、いくつかの部類の人々に適用される免除に関する規定は、「概要と体系化」 IV A 1～6に記されている。断食の免除に関する解説は注釈14・20・30・31参照。

19日間にわたる断食の期間はバハイの高尚の月と一致し、通常3月2日から20日までである。それは閏日の直後に始まり（注釈27と147参照）、断食の終了後、ノー・ルーズの祝宴につながる（注釈26）。

26 そして、その期間の終わりにノー・ルーズを祝宴として定めた。\*16

## 注釈

バブは新しい暦を導入しており、それは現在、バディ、またはバハイ暦として知られている（注釈27と147）。この暦によると、一日の長さは日の入りから日の入りまでである。バブはバヤンで、「高尚」の月を断食月と定めている。そして、ノー・ルーズでその期間を終了とし、ノー・ルーズを神の日と定めた。バハオラは、ノー・ルーズを祝宴と指定したバディ暦を確認している。

ノー・ルーズは新年の最初の日である。それは北半球では、春分の日に一致する。春分の日は通常3月21日に当たる。バハオラは、この祝宴の日は太陽が牡羊座に入る日（すなわち春分点）で、たとえそれが日の入り一分前に起きても、その日にもたれるべきであると説明している。（「質疑応答」35）したがって、ノー・ルーズは春分の時刻次第で、3月20、21、22日のいずれかになる。

バハオラは、多くの法の詳細を万国正義院による補足に託している。その中に、バハイ暦に関する多くの事柄がある。守護者は、ノー・ルーズが催される時間に関する法の世界的な適用については、春分点を決める基準となる地球上の特定の地点を選ぶ



必要があると述べている。そして彼は、その地点の選択は万国正義院の決定に託されたと指摘している。

27 それらの月を超過して余剰の日々を、断食の月の前に置くがよい。\*16

バディ暦は、365日5時間と5分余から成る太陽暦の一年に基づいている。一年は、一ヶ月19日で、19ヵ月（計361日）と4日の余分の日（閏年は5日）から成る。バブは、その新しい暦において閏日をどこに置くかについては規定しなかった。アグダスの書では、この「超過して余剰の」日々をアラアの月の直前という固定した位置に置くよう定めることにより、この問題を解決している。さらなる詳細は「バハイ世界」第18巻のバハイ暦に関する部分参照。

28 われはこれらの日を、…「ハ」という文字の現われとして定めた。\*16

アヤメ・ハ（ハの日々）として知られる閏日は、「ハの文字」と関連しているとい

う特異性を有している。アブジャド法で数えたアラビア文字の「ハ」の数的価値は5であり、これは閏日の最大可能数と一致する。

「ハ」という文字は、聖なる書の中でいくつかの精神的意味を与えられており、その一つは、神の本質の象徴としての意味である。

29 自製の時期の前にあるこれらの施しの日々。\* 16

バハオラは、これらの日々を祝宴や祝典、慈善行為に捧げるよう信奉者らに命じている。シヨーギ・エフエンデイの代理による手紙ではこう説明されている。「閏日は、もてなしや贈り物の施しなどのために特別に設けられたものである。」

30 旅人…には断食の義務はない。\* 16

信者が断食を免除される旅行の最低期間はバハオラによって定義されている（「質疑応答」22・75）。この規定の詳細は、「概要と体系化」IV B 5 a i vに要約さ

れている。

シヨーギ・エフエンデイは、旅行者は断食を免除されてはいるが、望むならば断食することは自由であると明確にしている。また、断食の免除は旅行期間のすべてに適  
用され、列車や自動車などの中にいる間だけではないことを指摘している。

31 旅人や病弱者、子どもをみごもっている者や授乳中の者らには断食の義務はない。彼らは、神の恩寵の印として神により免除を受けている。\* 16

病人や高齢者（注釈14参照）、月経中の女性（注釈20参照）、旅人（注釈30）、妊婦や授乳中の女性は断食を免除されている。この免除はさらに、重労働に従事する者にも適用されるが、重労働者は同時に、食事は「質素に、内々に」すること、「神の法と断食の崇高なる地位に敬意を示すよう」助言されている（「質疑応答」76）。シヨーギ・エフエンデイは、断食を免除されている仕事の種類は万国正義院によって定義されると述べている。

32 日の出から日の入りまで飲食を断ち、… \* 17

これは、断食の期間に関する言及である。アブドル・バハはある書簡の中で、断食は飲食を断つことから成っていると述べた後、さらに喫煙が飲むことの一つの形態であることを指摘している。アラビア語では飲むという動詞は、同等に、喫煙にもあてはまる。

33 …神を信じる者はすべて、毎日、…「アラホ・アブハ」を95回繰り返すよう定められている。\* 18

「アラホ・アブハ」は、「神は栄光に満ち給う御方」という意味のアラビア語の表現である。それは、神の最大名の一つの形態である（注釈137参照）。イスラムでは、数多い神の名前の中で最も偉大なものが一つあるという伝承がある。しかし、この最大名の正体は隠されていた。バハオラは、最大名はバハであることを確認している。

バハという言葉の様々な派生語も、「最大名」として見なされている。シヨーギ・エフエンデイの秘書は彼の代理として次のように書いている。

「最大名」はバハオラの名称です。「ヤー・バハオル・アブハ」は、「おお、諸々の栄光の中の栄光なる御方」という意味の呼びかけの言葉です。「アラホ・アブハ」は、「神は栄光に満ちたもう」という意味の挨拶の言葉で、両方ともバハオラを指すものです。「最大名」の意味は、バハオラが神の「最大名」において現れたこと、つまり、彼が神の最高の顕示者であるということです。

「アラホ・アブハ」という挨拶は、バハオラがアドリアノーブルで追放者として生活しているときに導入されたものである。

「アラホ・アブハ」を95回繰り返す前には洗淨を行わねばならない。(注釈34)

### 34 必須の祈りを唱える時も…洗淨を実施せよ。\*18

洗淨は、いくつかの祈りに特に関連付けられている。それは、三つの必須の祈りを

## 注釈

捧げる前、毎日「アラホ・アブハ」を95回唱える前、また、月経中の女性が必須の祈りと断食の代わりとして規定されている聖句を唱える前である（注釈20）。

規定の洗浄とは祈りの準備として手と顔を洗うことを意味する。中位の長さの必須の祈りの前の洗浄は、ある聖句を唱えることを伴う（「アグダスの書を補足する聖典」参照）。

洗浄が単に洗うという意味を越えた意義を持つということは、必須の祈りを唱える直前に入浴していても、なお洗浄する必要があるということからも察せられる（「質疑応答」18）。

洗浄用の水がないときは、定められた聖句を五回繰り返し返して唱えなければならない（注釈16）。これは、水の使用が身体に有害な人にも適用される（「質疑応答」51）。

洗浄に関する詳細な法は、「概要と体系化」のIV A 10 a g、及び「質疑応答」の51・62・66・77・86にある。

35 汝らは、殺人を禁じられている。\* 19

他人の命を奪うことの禁止は、アグダスの書の本体段落73で、バハオラにより再度述べられている。計画的殺人に対する罰は規定されている（注釈86）。過失による殺人の場合、定められた慰謝料を遺族に払う必要がある（本体段落188）。

36 姦通を禁じられている。\* 19

アラビア語の「ゼナー」という言葉はここでは「姦通」と訳されているが、密通と姦通の両方を意味する。これは、既婚者が配偶者でない者との間にもつ性的関係だけでなく、婚外の性交渉全般にあてはまる。「ゼナー」の一つの意味に強姦がある。バハオラが規定している罰は密通に対してだけである（注釈77）。その他の性犯罪に適用される罰については万国正義院の決定に託されている。

37 陰口や中傷 \* 19

陰口、中傷、他人の欠点を長々と論ずることは、バハオラによって再三にわたり咎められている。バハオラは「隠されたる言葉」で、「おお実在の子よ！ いかにして汝、自身の欠点を忘れ、他の人々の欠点を挙ぐるに急なるを得るや。何人がこれをなすも、わが呪いを受けん。」と明確に述べている。また、「おお人の子よ！ 汝自身罪人である間は、他人の罪を囁くな。汝この命令に背くならば、呪われん。われこれを証言す。」とも述べている。この強烈な戒めは、バハオラの生涯の最後の書「わが聖約の書」でも繰り返されている。「我はまことに言う、舌は善を語るためのものであり、不相応な発言でそれを汚すな。神は過去のことを許し給うた。今後万人は適切で、節度ある言葉で語り、中傷、暴言など、人を悲しませるような発言を慎むべきである」と。

38 われは相続財産を7つの部類に分けた。\*20

バハイの遺産相続の法は、遺書がない場合、つまり、人が遺書を書かずして他界した場合にのみ適用される。バハオラはアグダスの書で、すべての信者に遺書を書くよう



指示している（本体段落109）。また、別の箇所でも、人は自分の財産を完全に管轄する権利があり、財産をどのように分配し、それらを、バハイであるなしに関係なく、誰に相続させるかを遺書で定めることは自由であると述べている（「質疑応答」69）。これに関して、シヨーギ・エフエンディの代理による手紙ではこう説明されている。

…バハイは、遺書で、自分の財産を自分の望むとおりに処分することが許されてはいますが、道徳的に、また良心的に、常に、次のことを覚えておくべきです。つまり、遺書を書きながら、富の社会的機能に関するバハオラの原則を支持する必要性、その原則に基づき、過度な蓄財や、少数の個人やグループに富が集中することを避ける必要性を常に心に留めることが求められます。

アグダスの書のこの聖句は、バハオラによる遺産相続に関するバハイの法の長い説明文の序文となっている。この長文を読むときは、この法は故人が男性という仮定で書かれていることに留意すべきであるが、法の規程は故人が女性の場合にも準用される。

故人の財産を7つの部類（子ども、配偶者、父親、母親、兄弟、姉妹、教師）に応

## 注釈

じて分配するという遺産相続のシステムは、バブがバヤンに定めた規定に基づいている。人が遺書なしに死亡した場合の遺産相続に関するバハイの法の主な特徴は次の通りである。

1 故人が父親で、財産に住居が含まれる場合、その住居は長男に渡る（「質疑応答」34）。

2 故人に男の子孫がない場合、住居の三分の二は女の子孫に渡り、残る三分の一は正義院に渡る（「質疑応答」41・72）。この法が適用される正義院という機構のレベルについては、注釈42参照のこと（また、注釈44参照）

3 財産の残りは7つの部類の相続人の中で分配される。それぞれの部類に該当する者が受け取る割合の詳細については、「質疑応答」5、および「概要と体系化」IV C 3 a 参照のこと。

- 4 各部類に該当する相続人が一人以上いる場合、その部類に配分される財産はそれらの相続人の間で均等に分配される。これは、男女の別に関係しない。
- 5 子どもがいない場合、その受け取り分は正義院に帰属する（「質疑応答」7・41）。
- 6 故人が子どもを残し、残りの部類に該当する相続人が一部、あるいは全く存在しない場合、その不在の相続人の受け取り分の三分の二は子ども達に帰属し、三分の一は正義院に帰属する（「質疑応答」7）。
- 7 規定されたすべての部類に、該当する相続人が存在しない場合、財産の三分の二は故人の甥と姪に帰属する。甥や姪もない場合その受け取り分は

叔父と叔母に帰属する。それもいない場合、甥や姪の息子や娘らに帰属する。いずれにしても、残りの分、つまり、三分の一は正義院に帰属する。

8 前述した相続人が一人もいない場合、財産のすべてが正義院に帰属する。

9 バハオラは、バハイでない者はバハイである親や親族から相続する権利はないと述べている（「質疑応答」34）。シヨーギ・エフェンデイは代理による手紙でこう説明している。この制限は、「バハイが遺書をなしに死亡し、財産がアグダスで規定されている規則に応じて分配されなければならぬときに限って適用される。さもなければ、バハイは、遺書を残して自分の望みを記すならば、宗教に関係なく、いかなる人にも遺産をあてがうことができる。」よって、バハイは遺書を残すことにより、バハイでない配偶者や子どもや親族に遺産を残すことができる。遺産相続に関するさらに詳しく

い法は、「概要と体系化」IV C 3 a } o に要約されている。

39 兄弟には5分…、姉妹には4分 \*20

「質疑応答」は、故人の兄弟姉妹に割り当てられる受け取り分に関して、法の規定内容をさらに詳しく説明している。もし、兄弟と姉妹の父親が同じで、その父親が故人となった場合、彼らは分配分のすべてを受け取る。しかし、父親が異なる場合、彼らは、分配分の三分の二のみを受け取り、三分の一は正義院に帰属する（「質疑応答」6）。さらに、相続人の中に故人と両親を同じくする兄弟姉妹がいる場合、母親が異なる兄弟姉妹は相続しない（「質疑応答」53）。当然、これらの兄弟姉妹も、自分の父親の遺産の割当分を受け取る。

40 教師 \*20

アブドル・バハはある書簡で、子どもの精神的教育に携わった教師を、「その子ども

もに永遠の生を授ける」「精神的父親」に例えている。アブドル・バハは、「教師が、神の法において相続人の中に挙げられている」理由はこれであると述べている。

「バハオラは、教師がどのような条件で相続するか、また割当がどれだけかを規定している（「質疑応答」33）。

41 われは、まだ生まれていない子らの叫びを聞いたとき子ども分け前を二倍にし、残りの分け前を減らした。\*20

バブによる遺産相続の法では、子どもらは五四〇株を構成する9分が割り当てられていた。これは、全財産の四分の一以下であった。バハオラは、その割当分を二倍の一〇八〇株にし、残り6部類の相続人の割当分を減らした。彼はまた、この句の正確な意図と、遺産の配分に関する意味についても述べている。（「質疑応答」5）

## 42 正義院 \*21

アグダスの書で正義院に言及するとき、バハオラは、必ずしも、万国正義院と地方正義院とを明確に区別していない。両方とも、この書で定められている機構である。バハオラは通常、「正義院」と言及し、それぞれの法が、将来どのレベルの正義院に適用されるのかを明確にする余地を残している。

アブドル・バハは、地方会計の財源について、書簡で、相続人のいない遺産という項目を挙げており、アグダスが遺産に関するこれらの聖句で言及している正義院が地方のものであることを指す結果になっている。

## 43 故人が子どもを残している場合、しかし他の部類の相続人がいない場合 \*22

バハオラはこう明確にしている。「この規則には、一般的に適用されるものと個別に適用されるものの両方がある。つまり、後者の部類に属する相続人がいないとき、その相続人らの配当分の三分の二は子どもらへ渡り、三分の一は正義院へ渡ることに

## 注釈

なる」〔質疑応答〕7)。

44 われは、故人の住まいや衣服を、女ではなく男の子どもに割り当てた。そして、その他のいかなる相続人にも割り当てていない。\*25

アブドル・バハはある書簡で、男性の故人の住まいと個人的衣服は、男性の子孫の筋に残されると述べている。それらは長男に渡り、長男がいない場合、次男などに渡るのである。アブドル・バハは、これは長子相続制という法の表れであると述べている。この制度は神の法において常に支持されてきた。彼は、ペルシャのある信奉者にこう書いている。「全ての神の宗教制では、長男は並ならぬ特異性を与えられてきた。預言者の地位でさえ、長男の生得権であった。」しかし、長男に与えられる特異性にはそれに伴う義務がある。たとえば、長男は神のために母親の世話をするとか、他の相続人の必要事を考慮するという道徳的責任がある。

バハオラは、この相続法のこの部分の様々な面について明確にしている。彼は、も



し住宅が一つ以上あるならば、主な、最も重要な住宅は男性の子孫に渡ると指定している。残りの住宅はその他の所有物と一緒に、他の相続人らの間で分配されるのである（「質疑応答」34）。また、もし男性の子どもがいない場合、亡くなった父親の主な住宅と個人的衣服の三分の二は女性の子どもに相続され、三分の一は正義院に帰属するとも述べている（「質疑応答」72）。さらに、故人が女性である場合は、彼女が使った衣服は娘らの間で平等に分配されるべきであると述べている。彼女の未使用の衣服や宝石や財産は相続人らの間で分配されねばならず、使用済みの衣服も、娘がいない場合には相続人らの間で分配される（「質疑応答」37）。

45 子どもを残して先立った息子の父親が故人となった場合、その子ども達は神の聖典に規定されている通り父親の取り分を相続する。\*26

法のこの部分は、父親または母親よりも早く他界した息子の場合のみにあてはまる。故人の娘が他界しており、子どもを残している場合、娘の取り分は、最も聖なる書に

## 注釈

において規定されている7つの部類に応じて分配されねばならない（「質疑応答」54）。

46 故人が未成年の子どもを残した場合、子どもたちの取り分は、信頼できる個人に委託されなければならない。\*27

この段落で「信頼できる個人」や「管財人」と訳されている「アミン」という単語は、アラビア語では、主として信頼性という概念に関連して、広い意味を持っているが、確実性、忠誠、忠実、清廉、正直、などという意味もある。法用語では、「アミン」は管財人、保証人、信託人、保護者、管理者などの意味も有する。

47 財産の分与は、ホゴゴラが支払われ、借金が清算され、葬儀と埋葬の費用が支払われてから、行われるべき。\*28

バハオラは、これら経費支払の優先順位について、最初に葬儀と埋葬の経費、次いで個人の借金の支払、次いでホゴゴラ、とされている（注釈125）（「質疑応答」9）。

彼はまた、故人の財産をこれにそつて処理するとき、支払いは、まず残余財産から払い、もしそれで清算することができない場合、故人の住宅や衣服から払うべきであるとも述べている（「質疑応答」80）。

48 「これこそが決して変わることはない隠された知識である。なぜなら、その始まりは9と共にあるから。」\*29

アラビア語のバヤンで、バブはその相続の法を、「神の書の、隠されたる知識に依りており、その知識とは、変ることも置き換えられることもない知識である」と述べている。また、遺産分配を表している数字には、神が現わし給う御方を認識する助けになるよう意図されたという意義が与えられていた、とも述べている。

ここで言及される「9」という数字は、アラビア語の文では「タ」という文字で表されており、これはアブジャド法のそれに相当するものである（「用語集」参照）。これは、バブによる遺産分配の最初の要素で、そこで彼は、9分を子どもの取り分と定

めている。9の意義は、それが最大名「バハ」の数的価値と一致するところにある。これは、「隠され、かつ明白なるもの、侵すことができず、また近寄ることもできないほど崇高なる御名」という聖句の次の部分で暗示されている。（注釈33も参照のこと）。

49 主はあらゆる町に正義院が設立されると定め給うた。 \* 30

正義院という機構は、選出された議会により構成され、社会の地方・全国・国際的なレベルで機能する。バハオラは、万国正義院と地方正義院の両方をアグダスの書で定めている。アブドル・バハは、その「遺訓」の中で、二次的（全国または地域）正義院を規定し、万国正義院選出において取るべき選挙法の概略を述べている。

上に引用した聖句は地方正義院に言及しており、これは、9人またはそれ以上の大人のパハイが居住する地方で選出されることになっている。ここでいう大人という言葉の定義は、守護者によって暫定的に21歳と定められているが、それは将来、万国正

義院により変更される可能性がある」と述べている。

地方及び二次的正義院は、現在、地方及び全国精神行政会という名称で知られている。シヨーギ・エフェンデイは、これは「一時的な名称」であると述べている。

バハイ信教の地位と目標がより良く理解され、もっと十分に認識されるにつれ、：は徐々に、恒久的で、より適切な、正義院という名称に取って代えらるであろう。現在の精神行政会は、将来、違った様式に変わるだけでなく、バオラの信教が認識されることによって必要になる権限や義務や特権を現在の諸機能に追加することもできるようになるであろう。そしてその認識とは、世界の認められた宗教体系の一つとしてだけでなく、独立した主権国家の国教として認められることを指す。

## 50 「バハ」の数。\*30

「バハ」のアブジャド法による数的価値は9である。万国正義院、全国及び地方精

神行政会には、現在、それぞれ9名のメンバーがおり、これはバハオラが規定した最低の数である。

51 彼らは自らを、人々の中の慈悲深き御方の信託人となるべきである。 \* 30

万国正義院、全国及び地方神行政会の全般的権限と義務、そのメンバーの資格要件は、バハオラとアブドル・バハの書、及びシヨーギ・エフエンデイの手紙と万国正義院の解説文に述べられている。これらの機構の主な機能は、万国正義院憲法と、全国及び地方神行政会の憲章に概略が述べてある。

52 共に協議し… \* 30

バハオラは、協議を、その信教の根本的原則の一つとして確定し、「すべての事柄について共に協議する」よう信者らに勧告した。バハオラは、協議を「道の先頭に行く、導きのランプ」であり、「理解を授けるもの」として描写している。シヨーギ・エフエ

ンデイは、「協議の原則は」バハイ行政秩序の「根本的な法の一つをなす」と述べている。バハオラは、「質疑応答」の99で協議方法の概略を述べ、採決時に満場一致に達することの重要性を強調し、もしそれができないときは過半数の意見を採らねばならないと述べている。万国正義院は、この内容は精神行政会が確立される前に啓示されたものであり、これは、協議に関するバハイの教えについての質問に対する答えであつたということを明確にしている。万国正義院は、友らが常に援助を求めることができ、精神行政会の確立は、「質疑応答」に述べられている手順に友らが従うことを何ら禁止するものではないと述べている。希望するなら、友らはこの方法を、個人的な問題についての協議にも使うことができる。

### 53 各地に礼拝堂を建設せよ。\*31

バハイ礼拝堂は、神の賛美のために捧げられている。礼拝堂は、マシユレゴウル・アズカル（「神の賛美の黎明の場」）の中心的建物をなすが、このマシユレゴウル・ア

ズカルは、将来、進展するにつれ、礼拝堂に加えて、社会的・博愛的・教育的・科学的追求のためのいくつかの付属機関を含むことになる。アブドル・バハは、マシユレゴウル・アズカルを、「世界の最も重要な機構の一つ」として描き、シヨージ・エフェンディは、それが「バハイの礼拝と奉仕」の統合を具体的な形で例証すると述べている。この機構が将来発展することを予期して、シヨージ・エフェンディは、礼拝堂とこれらの付属機関が、「苦しんでいる者に安らぎを、貧しい者に支えを、旅人に避難所を、そして遺族に慰めを与え、無知なる者に教育を施す」であろうとみている。将来、バハイの礼拝堂はあらゆる町や村に建てられるであろう。

**54 主は、可能な者に対しては神聖なる家への巡礼を定め給うた。\*32**

この法の対象には、二つの神聖なる家が含まれている。シラーズにあるバブの家と、バグダッドにあるバハオラの家である。バハオラは、これらの家のどちらかに巡礼することによって、この聖句の必要条件を満たすことができると述べている（「質疑応



答」25、29)。「ハッジの書簡」(「質疑応答」10)として知られている二つの別の書簡で、バハオラは、これらの巡礼のそれぞれに関する特定の儀礼を定めている。この意味では、巡礼は単にこれらの家を訪問するということ以上のものである。

バハオラの昇天後、アブドル・バハはバージにあるバハオラの廟を巡礼の場所として定めた。アブドル・バハはある書簡のなかで、「最も神聖なる廟、バゲダッドにある祝福された家と、シラーズにある、バブの、崇敬される家は巡礼に捧げられており」、「もし経済的に可能で、何の障害もなければ」これらの場所を訪れることは「義務」であると述べている。最も聖なる廟への巡礼に関しては、いかなる儀礼も定められていない。

55 そして、主はご自身の慈悲としてこの定めから女性を免除された。\*32

バブはバヤンで、経済的にその旅ができる信奉者らには、一生に一度巡礼するという法令を定めた。そして、旅の厳しさから解放するために女性をこの義務から免除す

ると述べた。

バハオラも同じように、女性を巡礼の義務から免除している。万国正義院は、この免除は禁止ではなく、女性は自由に巡礼することができるということを明確にしている。

56 何らかの職業に従事すること。\*33

男性も女性も、商業や専門職に従事する義務がある。バハオラは、「そのような仕事に従事すること」を神への「崇拜という地位」にまで引き上げている。この法の精神的・実務的意義及びその履行に対する個人と社会の相互責任は、シヨーギ・エフエインデイの代理による手紙にこう説明されている。

信者は何らかの職業に従事すべしというバハオラの命令に関して。教えはこの点について大いに強調しており、特にアグダスのこの点に関するその文言は、働く気のない者は、新しい世界秩序において居場所がないということをかなり

はつきりと述べている。この原則の当然の結果として、バハオラはさらに、物乞いをとがめるだけでなく、社会から完全になくさなければならぬと述べている。社会構造のあり方に責任を持つ人々は、何らかの職業に就くのに必要な技能を習得する機会を各人に与え、また、そのような技能を活かす手段をも提供する義務である。なぜなら、技能を使うこと自体に価値があるし、生計をたてる手段にもなるからである。人はみな、いかに障害を持っていても、また制限を受けていても、何らかの仕事や職業に従事する義務を課されている。というのは、バハオラによると、仕事は、特にそれが奉仕の精神でなされたときは崇拜の一つの様式だからである。仕事には実利的な目的があるだけでなく、それ自体に価値があるのである。つまり、それは私たちが神に近づけ、私たちに對する、この世での神の目的をよりよく理解することを可能にする。ゆえに、誰も、富の相続によって日々の仕事から解放されることはないということも明らかである。

## 注釈

アブドル・バハはある書簡でこう述べている。「もし人が、生計を立てることができず、極貧に苦しむなど、自分ではどうすることもできない状態であつたら、富者、あるいは代理人らが、その人に生活のために月々の費用を供給する義務がある…。代理人らという意味は、人民の代表者、つまり、正義院のメンバー達のことである」。(物乞いについては注釈162参照)

バハオラの法令では、夫だけでなく、妻や母親も生計のための仕事をするよう義務付けられているのかという質問に対して、万国正義院は、バハオラの指示は、友らが自分と他人のために益になるような職業に従事するということであり、家政は社会に根本的な重要性を有する、名誉ある、責任を伴う仕事であると答えている。

一定の年齢に達して仕事から引退することについて、シヨージ・エフェンディはその代理による手紙でこう述べている。「アゲダスにはそれに関する規定がないので、国際正義院が法を制定しなければならぬ事柄です」。

57 手に接吻することは聖典において禁止されている。\* 34

過去のいくつかの宗教制及びある文化においては、宗教的に重要な人物や卓越した人物の手に接吻することは、それらの人々への敬慕の表現、彼らの権威への服従の象徴として要求されていた。バハオラは、手に接吻することを禁じ、書簡の中で、他の人の前で額づく習慣や、他人との関係において自分を卑下したりするような行動を咎めている。(注釈58参照)

58 他の者に赦免を求めることは誰にも許されない。\* 34

バハオラは、人に罪を告白したり、自分の罪の赦免を人に求めたりすることを禁止している。そのかわりに、人は、神に許しを請うべきである。ベシャラトの書簡でバハオラは、「人々の前でそのように告白することは、人の屈辱と卑下につながり、」と述べ、神は「しもべらの屈辱をお望みにならない」と断言している。

シヨーギ・エフエンデイはこの禁止をこのような背景で位置付けている。彼の秘書

が代理として書いた手紙にこう記されている。

…カトリック教徒が神父に対して行うように、自分の罪や欠点を人に告白すること、あるいは幾つかの宗派がするように、公の前でそのようなことを行うのは禁じられています。しかし、自分の犯した間違いを自発的に認め、あるいは自分の性格の欠点を認めたいのであれば、その相手の人に許しや容赦を求めることは自由です。

万国正義院は、罪の告白に関するバハオラの禁止令は、バハイ機構の下で行われる協議の中で自分の違反行為を認めることを妨げるものではないということを確認している。同じように、それは、そのような事柄について親しい友や職業的なカウンセラーの助言を求める可能性を排除するものでもない。

59 人々の中には、入口のそばの下足場に座していても、心の中では榮譽の上座に着くことを切望する者がいる。\* 36

東洋では、伝統的に、会合に入る時は下駄や靴を脱ぐ習慣があった。部屋の中では入口から最も離れている部分が上座、榮譽の座とされ、出席している人の中で最も卓越した人が座することになっている。他の者は、地位の高い順に入口へ向かって座っていく。入口のそばには靴や下駄が置かれており、最も地位の低い者が座す。

**60** また、人々の中には内なる知識を…有していると主張する者がいる。 \* 36

これは、秘儀的な知識に通じていると称し、そのような知識への執着のために神の顕示者の啓示から遮られてしまう人々のことである。バハオラは、他のところでもこう断言している。「自らの想像力が作り上げた偶像を内なる真実と崇める者は、まことに無神論者の内に数えられる」と。

**61** インドの地に身を隔離し、神が合法的と定めるものをも放棄し、禁欲生活を送り、難行苦行を自らに課した…者らが、何と多くいたことか。 \* 36

## 注釈

これらの聖句は、修道院生活と苦行を禁止するものである。「概要と体系化」IV D 1 y iii ~ v 参照のこと。「楽園の言葉」でバハオラは、これらの規定についてさらに詳しく述べている。「隠遁生活や苦行は、神の面前において受け入れられない」と。また彼は、そのような生活に関わる者らに、「喜びや輝きをもたらすことを守るがよい」と呼びかけている。さらに、「山中の洞穴に住まい」を持つ者ら、「夜、墓地へ行ったりする」者らにそれらの習慣を捨てるよう指示している。また彼は、神が人類のために創り給うたこの世の恩恵を、自ら奪ってしまわぬよう命じている。バハオラは僧や牧師らの「敬虔な行為」を認めながらも、ベシヤラトの書簡で、彼らに「隠遁生活を捨て、自らの歩みを開かれた世界へ向け、自らと他人の益になるようなことに勤しむ」よう呼びかけている。彼はまた、「神について述べる者を生じさせるために、結婚すること」を彼らに許可している。

62 一千年が完全に経過する前に、神より下された啓示を携えてきたと主張する



者は： \*37

バハオラの宗教制は次の神の顕示者が来るまで続くが、その顕示者の到来は少なくとも「一千年が完全に経過する」までは起こらないのである。バハオラはこの聖句において、その「明白な意味」以外いかなる意味付けもせぬようにと警告している。そしてある書簡で、この一千年の「それぞれの一年」は「コーランでいう12ヵ月、バヤンでは月19日で19ヵ月」からなると記している。

1852年10月、テヘランのシア・チャールでバハオラが啓示の告示を受けた時が、彼の預言者としての使命の誕生を標し、それはまた、次の神の顕示者が出現するまでに経過しなければならぬとされる一千年または、それ以上の年代の起算点である。

63 これは、われがイラクに住んでいたとき、そしてその後は神秘の地にいたときに汝らに予め警告してきたことである。そして今や、この輝かしく地点からその警告を発している。 \*37

## 注釈

「神秘の地」はアドリアノーブルを指し、「この輝かしき場所」はアツカを指す。

64 人々の中には、学識があることで傲慢になり、∴自分の後ろについてくる靴音を聞くと、∴尊大になる者がある。\* 37

東洋では、宗教的指導者の信奉者らは、敬意を表すため、師の一、二歩後ろを歩く習慣があった。

65 ニムロデ。\* 41

この聖句で言及されているニムロデはアブラハムを迫害した王で、その名はユダヤ教の伝承でも、イスラム教の伝承でも傲慢の象徴になった。

66 アグサン。\* 42

アグサン（ゴスの複数系）は「枝」という意味のアラビア語である。バハオラは

この言葉を自分の男系子孫を指すものとして使った。この言葉は、基金の処理をするだけでなく、バハオラの昇天（注釈145）とアブドル・バハ没後の権限後継にも特別な意味を有する。バハオラは彼の聖約の書で、長男のアブドル・バハを聖約の中心、及び信教の長に指名した。そしてアブドル・バハは、その遺訓で、男系の長孫であるシヨール・エフエンディを信教の守護者、かつ長として指名した。

ゆえに、アグダスのこの聖句は、選ばれたアグサンの継承と、それによる守護者制度を予期していることになる。さらに、守護者の血統が途切れる可能性をも視野に入れている。1957年、シヨール・エフエンディの逝去はちょうどこの聖句で言及されている状況をもたらしした。つまり、アグサンの筋は万国正義院が設立される前に途切れてしまったのである（注釈67）。

## 67 バハの人々に帰属する。\*42

バハオラは、アグサンの血筋が万国正義院の設立の前に途絶える可能性に備えてい

る。そのような状況下では寄贈された財産はバハの人々に帰属すると定めている。「バハの人々」という言葉は、バハイの書では様々な意味で用いられている。この場合は、バハの人々とは、「彼の許可なしに語ることなく、この書簡において神が定めたことだけに従って判断する人々」として描写されている。1957年に守護者が亡くなつてから、1963年に万国正義院が設立されるまで、神の大業の翼成者らが大業の業務を指揮した（注釈183参照）。

68 剃髪してはならない。\*44

いくつかの宗教の伝統では、頭を剃ることが好ましいとされている。頭を剃ることはバハオラにより禁じられており、バハオラが書かれたハッジの書簡で、シラーズの聖なる家へ行く巡礼者は頭を剃らねばならないとされている規定は、アグダスの書のこの句により取ってかえられていることを明確にしている（「質疑応答」10）。

69 髪を耳たぶよりも下に伸ばすことは相応しくない。\* 44

シヨーギ・エフエンデイは、髪を耳たぶより下に伸ばすことを禁止するこの掟は剃髪禁止とは違って、男性のみに適用されることを明確にしている。この掟の適用の仕方は万国正義院によって明確にされる必要がある。

70 盗人に対しては追放と投獄が定められている。\* 45

バハオラは、違反行為の重大さに応じて罰を決めることは正義院に委託されていると述べている（「質疑応答」49）。窃盗に対する罰則は将来の社会の状態を対象としたものであり、その状況が確立されたら、万国正義院はこの法に補足を加えて適用するであろう。

71 三回目の犯行におよんでは、その者の額に印をつけよ。そうすることで、彼がそうであることが確認され、神の諸々の都市や国に受け入れられないようにされる。\* 45

盗人の額につけられる印は、人々にその者の性癖について警告する目的を果たす。印の性質や、印がどのようにしてつけられるか、どれくらいの期間つけるか、どのような条件下でそれが消されるかに関する詳細、窃盗の重大さについてなどは、この掟が適用されるときに決定するよう、バハオラは万国正義院の手に委ねている。

**72 金や銀の器の使用を望む者はそうするがよい。\*46**

バブは、バヤンで、金や銀でできた器具の使用を許可し、イスラム教によるそれらの使用の禁止を廃止している。この制限はコーランの明白な禁令に基づくものではなく、イスラムの伝承に基づくものである。バハオラはここで、バブの規定を確認しているのである。

**73 食事をするとき、椀や皿の中に手を突っ込まぬよう注意せよ。\*46**

この禁令は、シヨーギ・エフェンデイにより、「食物の中に手を突っ込む」という意

味と定義されている。世界の多くの地域に、共同の鍋から手で取って食べる習慣がある。

74 汝ら、最も洗練された作法を身につけよ。\*46

これは、洗練性や清潔の重要性に言及するいくつかの聖句の中で最初に登場するものである。アラビア語で書かれた原典の言葉はラターファで、ここでは、「洗練性」と訳されており、精神的含みと身体的意味の両方を含む幅広い意味がある。たとえば、優雅、優美、清潔、丁重さ、礼儀正しさ、物腰の柔らかさ、細やかさ及び上品さ、繊細さ、洗練された、聖別された、純粹などである。アグダスの書の中の様々な聖句の文脈に応じて、それは「洗練性」、または「清潔」と訳されている。

75 神の大業の黎明の場である御方は、その最高の不<sup>ふ</sup>謬<sup>びやう</sup>性において共同者をもたない。\*47

バハオラはエシユラガトの書簡で、最大の不謬性は神の顕示者に限られていると述べている。

「質疑応答集」の第45章はアグダスのこの聖句に関するアブドル・バハの説明である。彼はこの章で、本質的な不謬性は神の顕示者から切り離せないということを他の事柄とともに強調し、「彼らから流出するものはすべて真実と同一であり、実在性に一致」し、また、「彼らは、以前の法の下陰にはない」、「彼らが語ることはすべて神の言葉であり、彼らがなすことはすべて清廉なる行為なのである」と述べている。

76 **すべての父親には、読み書きの技術を息子や娘に指導する義務がある。\*48**

アブドル・バハはその書簡の中で、すべての子どもを教育する親の責任について注目しているだけでなく、「娘の訓練と教養は息子に対するものよりも必要度が高い」とはつきりと述べている。なぜなら、女子はやがて母親になり、母親は新しい世代の最初の教育者になるからである。もしも、家族がすべての子どもを教育することができなければ、娘の教育を優先すべきである。教育された母親を通して、知識の恩恵は最も効果的に、かつ速やかに社会へ広めることができるからである。



77 神は姦通を犯した者には、男性にも女性にも、罰金を課したまい、罰金は正義院に支払われることとした。\*49

「姦通」と訳されているこの言葉は、既婚者、あるいは未婚者の間での、非合法的な性交を意味する（この用語の定義については注解36参照）が、アブドル・バハは、ここで規定されている罰は未婚者同士の性交に対する罰であると述べている。彼は、既婚者が犯した姦通に対する罰については万国正義院が決定することになると指摘している。（「質疑応答」49も参照）。

アブドル・バハはある書簡で、道徳律の違反に関する精神的・社会的意味のいくつかについて言及しており、ここで述べられている罰の目的は、この法によってそのような行為が神の目に恥ずべきものであることをすべての人に知らしめること、また、違反が立証され罰金が課された場合、その主な目的は違反者が暴かれることであると述べている。そうすることにより、違反者が恥じ、社会の目に屈辱を与えられること

になる。このような違反の暴露自体は最大の罰であるとアブドル・バハは断言している。この聖句で言及されている正義院は地方正義院のことで、現在、地方精神行政会として知られている。

**78 金9メスガルであり、もし再び違反を犯したら罰金は二倍となる。\*49**

「メスガル」とは、重量の単位である。中東で伝統的に用いられてきた1メスガルは、24ナホドに相当する。しかし、バハイが用いるメスガルはバヤンの規定によるもので、19ナホドである（「質疑応答」23）。この計算で計った9メスガルは、32・775グラム、または1・05374トロイオンスに相当する。

罰金の適用に関して、バハオラは、罰金が課される度に、その前に課された罰金の二倍になると明確に述べている。こうして、課される罰金は等比級数的に増加していく。この罰金の賦課は、将来の社会状況を対象としたものであり、その状況が確立されたら、万国正義院はこの法に補足を加えて適用するであろう。

79 われは、汝らが音楽や歌を聞くことを合法とした。\* 51

アブドル・バハは、「東洋のいくつかの国では、音楽は咎められるべきものと考えられている」と書いている。コーランにはこれに関する特定の指導はないが、イスラム教徒のなかには音楽を聞くことを非合法とする者もいるし、一定の制限内で、特定の条件下で音楽を許容する者もいる。

バハイの書には、音楽を賞賛する聖句がいくつかある。たとえば、アブドル・バハは、「歌や演奏は、魂と心のための精神的食物である」と述べている。

80 おお汝ら、正義の紳士らよ。\* 52

万国正義院のメンバーは男性に限られるが、二次的及び地方正義院（現在全国及び地方精神行政会と呼ばれている）のメンバーについては男女とも被選挙権があると、アブドル・バハとシヨルギ・エフェンデイの書に説明されている。

81 人に怪我を負わせたり暴行を加えたりすることに対する罰は、負わせた傷害の程度による。それぞれの程度に応じて、審判の主はいくらかの賠償を規定された。\* 56

バハオラは、罰の程度は傷害の程度によると述べているが、各々の違反行為に対する罰の程度について詳しく述べた記録はない。これらのことを決定する責任は万国正義院に委託されている。

82 まことに汝らは、毎月一回フィーストを提供するよう命じられている。\* 57

この命令が、毎月一回バハイの祭典を開くことの基盤となっており、これが、19日毎のフィーストの掟を構成する。アラビア語のバヤンでバブは、信者らが19日毎に集まって、もてなしと友好の精神を示すよう呼びかけている。バハオラも、それをここで確認し、そのような催しが有する統合力を指摘している。

バハオラに従ってアブドル・バハとシヨーギ・エフェンデイは、この掟の機構的な

意味を徐々に展開させていった。アブドル・バハはこれらの会合の霊的・祈禱的な性格の重要性を強調し、シヨージ・エフェンデイはフィーストの祈禱的・社会的面をより詳しく説明する一方で、その会合の行政的要素を展開させ、フィーストを体系的に機構化するにあたり、情報やメッセージの分かち合いを含め、バハイ共同体の業務に関する協議の時間を設けた。

この指示は義務なのかという質問に対して、バハオラは、義務ではないと答えている（「質疑応答」48）。シヨージ・エフェンデイは、その代理による手紙で、さらに以下のように述べている。

19日毎のフィーストへの出席は義務ではありませんが、非常に重要です。あらゆる信者はそのような催しに出席することが本分であり、特権であると考えらるべきです。

83 鳥や動物を使って狩りをする場合、それを獲物に向けて放つ時に神の御名を唱え

よ。そうすれば、捕られた獲物は汝にとって合法的なものとなる、仮に獲物が既に死んでいたとしても。\* 60

この法により、バハオラは狩猟に関する過去の習慣や宗教的規制を極めて簡素にしている。彼は、弓矢や銃などの武器を用いた狩猟もこの規制に含まれると述べているが、罾や網のなかですでに死んでいる獲物を食することは禁止している（「質疑応答」24）。

84 過度に狩猟せぬよう…。\* 60

バハオラは狩猟を禁止してはいないが、過度の狩猟に対しては警告を出している。やがては、万国正義院が、過度な狩猟とは何かを考慮すべき時がくると考えられる。

85 神は、他人の財産に手をつける権利をわが親族に与えてはいない。\* 61

バハオラの親族に親切を示すという指示は、彼らに他人の財産を分け与えるという

ことではない。これは、シーア派イスラムの慣習と対照的で、ここでは、ムハンマドの直系の子孫はある種の税金の一部を受け取る権利がある。

86 ある者が意図的に家に放火したならば、その者自身も焼かれなければならない。また、故意に人の命を奪った者は死刑に処されなければならない。\*62

バハオラの法によると、殺人と放火には死刑という規定があるが、終身刑の選択肢もある。(注釈87参照)。

アブドル・バハは書簡で、復讐と罰の違いを述べている。彼は、個人は復讐する権利はなく、復讐は神の目に軽蔑されること、また刑罰の動機は復讐ではなく犯された違反に対する罰則であることを述べている。彼は「質疑応答集」で、社会のメンバーを保護し、社会の存在を擁護するために、犯罪人を罰することは社会の権利であると断言している。

この規定に関してシヨーギ・エフェンデイは、その代理による手紙で次のような説

## 注釈

明をしている。

バハオラは、殺人に対する罰は死刑であるとアグダスで述べています。しかし、彼は、別の選択肢として終身刑を下すことを許可しています。どちらも、バハオラの法に合致する刑です。われわれの中には、自分の限られた視点とは異なるこの英知を把握できない人がいるかも知れません。しかし、われわれは、彼の英知と慈悲と正義は完璧であり、全世界の救済のためのものであることを知っているのです、それを受け入れなければなりません。もし人がえん罪によつて死刑に処されたとしても、その人間による不正義について次の世で全能なる神はその人を一千倍も償なわれるということを信じられないでしょうか。まれに無実な人が罰されることがあるからといって、有益な法を捨て去ることはできません。

殺人と放火に関するバハイの法は未来社会の状況を対象としたもので、バハオラはその詳細を記していない。違反の程度の判定、情状酌量の理由を考慮するかどうかの



判断、規定されている二つの罰のうちどちらを規範とするかなど、法の様々な詳細はこの法が施行されるときに状況に応じて万国正義院の決定に任されている。罰の執行法も、万国正義院の決定に任されている。

放火に関しては、どのような「家」が焼失したのかによる。空き倉庫が焼けたのと、子どもで一杯の学校の建物が焼失したのとでは、明らかに、大きな違いがある。

### 87 放火犯と殺人犯を終身禁固刑に処すことは聖典の規定に照らして許される。\*62

シヨージ・エフエンディは、アグダスのこの聖句に関する質問に対して、死刑は許されているがそのような罰が非常に和らげられる代法として終身刑があることを述べている。彼は、「バハオラは私達に選択の余地を与えています。ゆえに、彼の法により与えられた制限の中で、われわれの判断を行使できるようにされている。」と述べている。バハイの法のこの側面の適用に関して特定の指導はないので、将来、万国正義院が法律を制定するように託されている。

88 神は、結婚を汝らのために規定された。\*63

バハオラはある書簡で、神はこの法を確立するにあたり、結婚を「幸福と救いの要塞となし」た、と述べている。

概要と体系化IV C l a s s o には、結婚と結婚が許可される条件（「質疑応答」3・13・46・50・84及び92）、婚約に関する法（「質疑応答」43）、結納金の支払（「質疑応答」12・26・39・47・87及び88）、配偶者の不在が長期化する場合に適用される手続き（「質疑応答」4及び27）、その他さまざまな状況（「質疑応答」12及び47）に関するアグダスの書と「質疑応答」の要約と統合がある。（注釈89～99も参照）

89 二人より多く妻をめとらぬよう注意せよ。神の侍女の中から一人の伴侶を選んで満足するならば、夫も妻も平穩のうちに生きるであろう。\*63

アグダスの書の本体は重婚を許可しているように見えるが、バハオラは、平穩と満

足は一夫一婦制から来ると助言している。別の書簡で彼は、個人が「自分自身と相手に慰めをもたらす」ように振る舞うことの重要性を強調している。バハイの書の権威ある解釈者であるアブドル・バハは、実際アゲダスの本体では、一夫一婦制が命じられていると述べている。彼はこれについて、次の書簡を含めたいくつかの書簡で説明している。

汝、神の法では、一夫多妻制は許されていないことを知れ。一人の妻で満足するように明確に規定されているからである。二人目の妻をもらうことは、すべての条件のもとで二人の妻の間で公平と正義を守ることが条件となる。しかし、二人の妻に対して正義と公平を守ることは全く不可能である。重婚を、不可能な条件に依存させているということが、その絶対的禁止の明確な証明である。ゆえに、男性が一人より多くの妻を持つことは許可されていないことになる。

一夫多妻制は、人類にとって非常に古くからあった習慣である。一夫一婦制は、神

の顯示者たちにより徐々に導入されてきた。たとえば、イエスは、一夫多妻制を禁止はしなかったが、姦通の場合を除いて、離婚を廃止した。ムハンマドは妻の数を四人までに制限したが、正義を守ることを条件として妻を複数持つことを許可し、また離婚を許す法を再導入した。バハオラは、イスラム教の環境で教えを啓示したので、英知の原則と彼の目的を漸進的に展開させる原則に依じて、一夫一婦制を徐々に導入した。自分の書の絶対の間違いない解釈者を信者のために残したので、バハオラは、アグダスの書で二人の妻を持つことを外見的に可能にしながら、後に、アブドル・バハが、この法の意図は一夫一婦制を施行することであつたと説明する条件を設けることができた。

**90 女中を雇いたい者は、礼節を持ってそうすることができる。\*63**

バハオラは、男性が家事奉公のために少女を雇うことは許されると述べている。シーア派イスラム教では、雇い主がその女性と結婚契約を結ばない限りそのような雇用は

許可されないことであつた。この聖句で言及されている「奉公」とは、「老若を問わず、賃金と引き換えになされる、すべての召し使いの仕事と同様の奉公を指す。」とバハオラは強調している（「質疑応答」30）。雇い主は女中に対していかなる性的権利も持たない。その女中は、「自分の好きなときに自由に夫を選ぶことができる」。女性を買いとすることは禁止されているからである（「質疑応答」30）。

91 これは、汝らに対するわれの指示である。自分自身のためにそれに確固としてつかまることがよい。\*63

結婚はアゲダスの書において命じられてはいるが、それは義務ではないということ。バハオラは明確にしている（「質疑応答」46）。シヨージ・エフェンディは代理による手紙で、「結婚は決して義務ではない」と宣言しており、「結婚生活を送るか、独身生活を送るかは、最終的には個人の決めることである」とも断言している。ある人が、配偶者を見つげるまでに長い間待たねばならない、あるいは、生涯独身のままでいな

ければならないとしても、人生の目的——根本的に精神的なもの——を達成できないということにはならない。

92 結婚について双方の両親の認可を条件とした。\*65

シヨージ・エフェンディは代理による手紙で、この規定についてこう書いている。

バハオラは、バハイの結婚には生存中の親全員の同意が必要であるとはつきり述べています。これは、親がバハイであろうとなかろうと、またその両親が何年も離婚したままであっても適用されます。バハオラは、この偉大なる法を、社会の構造基盤を強化し、家庭の絆をより密接に結び付けるため、そして、子ども達の心の中に、自分たちに生命を与え、その魂を創造者に向けた永遠の旅路へ送り出してくれた人たちに対するゆるぎない感謝と敬意の気持ちを植え付けるために規定されたのです。

## 93 結納金の支払いなしに結婚は成立しない。\* 66

「概要と体系化」IV C 1 j i vには、結納金に関する主な規定が要約されている。これらの規定の起源はバヤンにある。

結納金は花婿から花嫁に支払われる。都会に住む者は純金19メスガル、村に住む者は銀19メスガルと定められている（注解94）。バハオラは、結婚の際に花婿が結納金全額を払えない場合、花嫁に約束手形を渡すことが許可されると述べている（「質疑応答」39）。

バハオラの啓示の到来と共に、多くの馴染みある概念や慣習や制度が再定義され、新しい意味合いをもたされた。そのひとつが結納金である。結納金の制度は多くの文化において非常に古いもので、多くの形態がある。いくつかの国ではそれは花嫁の親から花婿に対して払われるし、ある国では花婿から花嫁の親に対して払われ、これは婚資と呼ばれている。いずれの場合も、金額は相当なものである場合が多い。バハオラの法はそのような変型をすべて廃止し、結納を、花婿から花嫁にある限られた価値

の贈り物を渡すという象徴的な行為に変えている。

94 都会に住む者は純金19メスガル、村に住む者は銀19メスガルと定められている。\*66

バハオラは、結納金の決定基準を、花嫁ではなく花婿の定住する場所としている（「質  
疑応答」87及び88）。

95 これ以上の額を納めようとする者は95メスガルを限度とし、…聖典によれば、最  
低額の支払いに満足することはその者にとってより良いことである。\*66

結納金に関する質問にバハオラはこう述べている。

都市や村に住む者に関してバヤンで啓示されていることはすべて承認されて  
いて、これを実行すべきである。しかし、アグダスの書は最低のレベルについ  
て言及している。その意味は銀19メスガルであり、これはバヤンで、村に住む  
者に規定されている。双方が合意すれば、それは神をより満足させる。目的は、



すべての者の安らぎを促進し、人々の間に調和と結合をもたらすことである。ゆえに、これらの事柄を考慮すればするほど、良い……。バハの人々は互いに、最高の愛と誠実さを持つて交わり、互いを扱わねばならない。彼らは、すべての者の利益、特に神の友らの利益に注意を払うべきである。

アブドル・バハはある書簡で、結納金を決めるための要素のいくつかをまとめている。以下の引用で言及されている支払いの単位は「ヴァヒード」である。1ヴァヒードは19メスガルに等しい。彼はこう述べている。

都会に住む者は金で払い、村に住む者は銀で払わねばならない。それは、花婿のもつ経済的ゆとりに依存する。もし彼が貧乏しければ、1ヴァヒードを払う。中位であれば2ヴァヒードを払い、かなり裕福であれば3ヴァヒード払う。さらに富裕な者は4ヴァヒードを、非常に金持ちであれば5ヴァヒードを払うのである。それは、まことに、花婿と花嫁、そして彼らの親の間の同意の問題である。同意されたことを実行すべきである。

同じ書簡の中でアブドル・バハは、この法の適用に関する質問は、「法を制定する権限を有する」万国正義院に照会するよう信者らに奨励している。彼は、「聖典において明白に述べられていない二次的な事柄について法を制定するのは、この機関である」と強調している。

96 神のしもべが旅をする時は妻に対して帰還の時を定めなければならない。\* 67

もし、夫が帰る期日を妻に告げずに家を出た場合、そして、妻に彼からの便りがなく、消息が断たれた場合、バハオラはこう述べている。もし夫が、アグダスの書に定められたこの法を知っていたのであれば、妻は丸一年待った後、再婚してもよい。しかし、もし夫がこの法について知らなかったのであれば、妻は夫の知らせが届くまで待たねばならない（「質疑応答」4）。

97 妻は9カ月間待つ義務がある。その後は、別の男性を夫として迎えても何ら支障はない。\*67

夫が、決められた期日に帰らなかつたり、遅延することを妻に知らせなかつたりした場合、妻は9カ月待たねばならず、その後、妻は再婚できるが、さらに長く待てばより好ましい（バハイ暦については注釈147参照）。

バハオラはこう述べている、このような状況において、「夫の死、あるいは殺害」の知らせが妻に届いた場合は、妻は再婚する前に9カ月待たねばならない（「質疑応答」27）。夫の死後9カ月待つのは、夫が家を開けている間に死んだ場合のみで、家にいるときに死んだ場合にはあてはまらないとアブドル・バハはある書簡でさらに明確している。

98 彼女は賞賛に値する道を選ぶべきである。\*67

バハオラは、「賞賛に値する道」を「忍耐強くあるということ」と定義している（「質

疑応答」4)。

99 二人の公正な証人 \* 67

バハオラは、証人に関して、「公正の基準」は「人々の間で評判が良いこと」と提示している。「すべての神のしもべらの証言は、信仰や信条が何であれ、神の玉座の面前で受け入れられる」ので、証人はバハイである必要はないと述べている。「質疑応答」79)

注釈

100 夫と妻の間に憎しみや嫌悪感が起きたならば、夫は妻と離婚すべきではなく、一年間、辛抱強く待たなければならぬ。\* 68

バハイの教えでは離婚は強く咎められている。しかし、もし夫婦間に敵意や反感が生じた場合、一年経過した段階で離婚が許可される。この忍耐の一年の間、夫は妻と子どものために経済的に養う義務があり、その間、二人は問題解決に努力するよう促

される。シヨーギ・エフエンデイは、夫と妻のどちらかが離婚は「絶対に必要であると感じる」ならば、夫にも妻にも「離婚を求める同等の権利がある」と述べている。

バハオラは「質疑応答」で、忍耐の一年とその実施（「質疑応答」12）、それが開始される日を決める方法（「質疑応答」19及び40）、和解成立の条件（「質疑応答」38）、証人と地方正義院の役割（「質疑応答」73及び98）に関して幾つかのことを説明している。証人に関して万国正義院は、今日、離婚の証人の役割は精神行政会が果たすと説明している。

離婚に関するバハイの詳細な規定は、「概要と体系化」IV C 2 a i に要約されている。

**101 妻に三度離婚を言い渡したときの過去の時代の慣習について、主は…それを禁止された。\*68**

これは、コーランに設定されているイスラム教の法に関連するもの。イスラムの法

では、男性が自分の一度離婚した女性と再婚したい場合、ある条件下では、その女性がその間に他の男性と結婚し離婚していなければならぬと定めている。バハオラは、アグダスの書ではこの習慣が禁止されたと述べている（「質疑応答」31）。

102 妻と離婚した男性は、月が経過するごとに、互いに愛情と同意があり、彼女が別の男性と結婚していなければ、その女性と再婚することができる：彼女の状況が明らかに変化しない限り： \* 68

シヨーギ・エフェンディは代理による手紙で、「月が経過すること」の意図は、制限を課することではなく、離婚した二人はどちらかが別の人と結婚していない限り再婚できるということであると述べている。

103 精液は不浄でない。 \* 74

多くの宗教的伝統やシーア派イスラムの習慣では、精液は儀式的に不浄であるとき

れた。バハオラはここでこの概念を取り消している。注釈 106 も参照のこと。

#### 104 洗練性の綱にしっかりとすがれ。\* 74

アブドル・バハは、「純潔と神聖さ、清潔と洗練さ」が「人間の状態」を高めることと、「人間の内的実在の成長」に及ぼす効果について述べている。また、「純潔で汚れひとつない身体を持つことは、人間の精神に影響を及ぼす」と述べている。(注解 74 参照)

#### 105 水の有する三つの面のいづれにおいても変化をきたしていない水を用いて、汚れた物をすべて洗浄せよ。\* 74

この聖句で述べられている「三つの面」とは、水の色、味、香りである。バハオラは、清らかな水について、またそれがどの時点で使用不適切となるかについて補足の指導をしている(「質疑応答」91)。

106 神は：様々な物や民族を汚れたものと見なす不浄の概念を廃止された。\*75

いくつかの部族社会や過去の宗教制の宗教共同体で理解され、実施されている儀式的「不浄性」はバハオラによって廃止されている。バハオラは、自らの啓示を通じて、「全創造物は、純化の海に浸された」と述べている。(注釈12・20及び103参照)。

107 レズワンの最初の日。\*75

これは、バハオラとその同伴者らが、バグダッド市外にあるナジビエの園——後にバハイたちにレズワンの園と呼ばれるようになった——に到着したことへの言及である。それは、1863年4月、ノー・ルーズから31日後のことで、バハオラがご自分の使命を同伴者らに宣言した時期の始まりを意味する。ある書簡でバハオラは、自分の使命宣言を「最高の喜びに満たされ恍惚の境地にあった、かのすばらしき日」と言及し、レズワンの園を、「神が慈悲深き御方たる彼の名の光輝を全創造物の上に注いだ場所」と描写している。



バハオラは、追放先イスタンブールへ発つ前の12日間をこの庭園で過ごした。

バハオラの宣言は、12日間のレズワン祭によって毎年祝われる。シヨーギ・エフェンディによると、レズワンは「すべてのバハイの祭典の中で最も神聖で、最も重要なもの」である。(注釈138及び140参照)

## 108 バヤン \* 77

バブによって顕わされた、バビ宗教制の母なる書である「バヤン」は、バブの法令の書のタイトルであると同時に、バブの書物の全体を指す言葉としても用いられている。ペルシャ語のバヤンは、バブの主要な教義の書であり、バブの宗教制の法が収められている。アラビア語のバヤンの内容は、ペルシャ語のバヤンのそれに平行するものであるが、その分量はより少なく、内容もペルシャ語のバヤンほど重厚ではない。シヨーギ・エフェンディは「神よぎり給う」の中でペルシャ語のバヤンについて、「将来の世代のための恒久的な指針となるよう意図された法や掟の法典としてではなく、

むしろ主として、約束された御方への賛美」と見なすべきであると述べている。  
 アブドル・バハは、「アグダスの書において確認され、述べられている法を除き、  
 バヤンはアグダスの書に取って代えられた」と書いている。

109 本の破棄 \* 77

バハオラはエシユラガトの書簡で、バブがバヤンで規定した法についてはバハオラの承認を条件としたことに言及して、「バブの掟のいくつかを、アグダスの書で別の言葉で表現することによって有効にした」が、いくつかを破棄したと述べている。

本の破棄について、バヤンでは、神の大業と宗教の真实性を立証するために書かれたものを除きすべての本を破棄するよう信者らに命じているが、バハオラは、バヤンのこの特定の法を廃止している。

バヤンの法の特徴と厳しさについて、シヨーギ・エフェンディは代理による手紙で次のように述べている。

バブが啓示した厳しい法や命令は、彼自身の宗教制の性質と目的と特徴についての彼自身の説明と照らし合わせて解釈して初めて、適切に評価し理解できるであろう。これらの言明が明白に述べているように、バビ宗教制は、本質的には、宗教的、そしてさらに社会的革命であった。その継続期間は短かく、悲劇的な出来事や、遠大で劇的な改革に満ちていた。バブとその信者らが実行したこれらの劇的な方策は、シーア派の正当制の原理的基盤を脅かすものとみられた。こうして、バハオラの到来のための道を敷いた。バブは、新しい宗教制の独自性を主張し、また、バハオラの啓示の到来の基盤を作るために、たとえそのほとんどは施行されなかったとはいえ、非常に厳しい法を啓示せざるを得なかった。しかし、彼がそれらを啓示したという事実こそは、彼の宗教制の独自性の証明であり、ついにはバブの殉教をもたらしただほどの、広範な騒動、聖職者らによる弾圧を引き起こすに十分であった。

110 われは、無意味な論争に終始するようなものではなく、汝らの益になる諸科学の本を読むことを許可した。\* 77

バハイの書では、知識の習得と、芸術や科学の勉学を奨励している。バハイは、教養と学識がある人々に敬意を示すよう忠告されている。また、実りのない口論のみを生み出すような学問を追求することに対して警告されている。

バハオラはその書簡で、「有益で」、社会の「進歩と発展」を促進するような科学や芸術を学習するよう信者らに助言している。また、「空虚な論争」につながる、「言葉に始まり言葉に終わるような学問」に対して警告している。ショーギ・エフェンディはその代理による手紙で、「言葉に始まり言葉に終わるような学問」を「形而上学的な、小事にこだわる実りのない暴走」に例えており、また別の手紙で、バハオラがそのような「学問」ということで主に意味したものは、「人間の理性が真理に達するのを援助するのではなく、その理性を妨げる神学的な論文や評論」のことであると説明している。

111 神と語り合った者 \* 80

これは、ユダヤ教とイスラム教で、モーゼについて参照する際の伝統的な称号である。バハオラは、自分の啓示の到来によって「人間の耳は、神と語り合った者がシナイで聞いたことを聞く資格を与えられた」と述べている。

112 シナイ \* 80

神がモーゼに法を下した山。

113 神の精神なる者 \* 80

これは、イスラム教およびバハイ信教の聖典においてイエス・キリストを指す称号の一つである。

注釈

114 カルメル山…シオン \* 80

「神のぶどう園」とも呼ばれるカルメル山は聖地にある山で、ここにバブの廟とバハイ信教の世界行政本部がある。

シオンはエルサレムにある丘で、ダビデ王の墓のある場所とされ、聖なる都市であるエルサレムの象徴である。

115 深紅の箱舟 \* 84

「深紅の箱舟」はバハオラの大業を意味する。バハオラの信奉者らは「深紅の箱舟の一行」と名付けられ、バブにより「ガユームル・アスマ」の中で賛美されている。

116 おおオーストリアの皇帝よ。汝がアクサの寺院を訪問すべく出発した時、神の光の曙なる御方はアッカの牢獄に住んでいた。 \* 85

オーストリアの皇帝で、ハンガリーの王であったフランシス・ヨセフ（フランツ・

ヨセフ 1830—1926) は、1869年に聖地へ巡礼をした。聖地にいる間、彼は、当時アッカの囚人であったバハオラについて尋ねる機会を生かそうとはしなかった。

アクサの寺院とは、「最も遠い」モスクという意味で、コーランに言及されている。これは、エルサレムにある「神殿の丘」であると見なされている。

117 おお、ベルリンの王よ！ \* 86

カイザー・ウイリアム一世（ヴィルヘルム・フリードリッヒ・ルートヴィヒ 1797—1888）は、プロイセンの七番目の王で、彼は、普仏戦争でドイツがフランスを下した後、1871年1月、フランスのヴェルサイユでドイツの最初の皇帝として皇位に就いた。

118 汝以上に卓越した権力を有し、汝の地位より高い地位にあった者 \* 86

## 注釈

これは、フランスの皇帝ナポレオン三世（1808—1873）に関する言及で、彼は、多くの歴史家により、当時西洋において最も有力な君主と見なされていた。

バハオラはナポレオン三世に二通の書簡を出しており、二通目で、ナポレオンの王国が「混乱の渦の中に落ち込み」、彼の「王座は」彼の「手から離れていつてしまうであろう」、そして彼の国の人民が大きな「動乱」を経験するであろうことを明確に予言した。

それから一年も経たず、1870年、ナポレオン三世はカイザー・ウイリアム一世を相手にしたセダンの戦いで大敗を経験した。彼はイギリスへ流罪となり、三年後にその地で亡くなった。

### 119 おお、コンスタンチノープルの人々よ！ \* 89

ここでコンスタンチノープルと訳されている言葉は、原典ではアー・ルーム、つまりローマである。この用語は、中東では一般的にコンスタンチノープルと東ローマ帝国



国を指して使われていたが、その後、ビザンチウム市とその帝国を、もつと後にはオスマン帝国を指した。

120 おお、二つの海の間位置する地よ！ \* 89

これはコンスタンチノープルを指しており、現在はイスタンブールと呼ばれている。黒海とマルマラ海とを結ぶ31キロにわたるボスポラス海峡に面した港町で、トルコ最大の都市である。

コンスタンチノープルは、1453年から1922年までオスマン帝国の首都であった。バハオラがこの都市に滞在していたとき、暴君のスルタンアブドル・アジズが王座についていた。オスマン帝国のスルタンは同時にカリフ、つまり、スンニ派イスラム教の指導者でもあった。バハオラはカリフによる統治制度の崩壊を予期していたが、これは実際、1924年に廃止された。

121 おお、ライン川の岸辺よ！ \* 90

アブドル・バハは、第一次世界大戦（1914—1918）前に書いた書簡で、ライン川の岸辺が「血糊に覆われている」のを見たというバハオラの言葉は、普仏戦争（1870—1871）に関するものであり、また、更なる苦しみが来るということを述べると説明している。

シヨーギ・エフエンデイは、「神よぎり給う」の中で、第一次世界大戦に敗北したドイツに課せられた「苛酷で厳しい条約」は、「半世紀前に不吉に予言された『ベルリンの嘆き』を呼び起こした」と述べている。

122 おお、「ター」の地よ！ \* 91

「ター」とは、イランの首都テヘランの最初の文字である。バハオラは、しばしば、最初の文字に言及することである場所を意味された。アブジャドの数え方によれば「ター」の数値は9で、これは「バハ」という名前の数値と同じである。

123 神の栄光の顕示者は汝の内に誕生した。\*92

これは、1817年11月12日、バハオラがテヘランで誕生されたことを指す。

124 おお、「ハー」の地よ！ \*94

これは、イランのホラサン州とその隣接地域を指す。この地域にはイシユカバード（アシユカバード）が含まれる。

125 ある者が、一〇〇メスガルの金を得たなら、そのうちの19メスガルは神のものであり、彼に捧げられねばならない。\*97

この句により、ホゴゴラ、すなわち神の権利が設立された。これは、信者の所有物の価値の一部を捧げることを指す。それは最初、神の顕示者としてのバハオラに捧げられ、バハオラ昇天の後、聖約の中心であるアブドル・バハに捧げられた。アブド

## 注釈

ル・バハはその「遺訓」の中で、ホゴゴラは「神の大業の守護者を介して」捧げられることを規定している。現在、守護者は存在しないので、ホゴゴラはバハイ信教の長である万国正義院を介して捧げられている。この基金は、神の大業の促進とその利益のためや、その他様々な博愛的目的のために使われる。ホゴゴラの献納は精神的義務であり、その履行は各バハイの良心に任せられている。共同体にホゴゴラの法について思い起こさせることはできるが、いかなる信者にも個人的にその支払いを迫ることはできない。

「質疑応答」の多くの項目がこの法の解説にあてられている。ホゴゴラの支払い額は、個人の所有物の価値の計算に基づく。もし誰かが、金19メスガルの価値に等しい所有物を有すなら（「質疑応答」8）、その価値の19パーセントを一度だけ、ホゴゴラとして支払うという精神的義務なのである（「質疑応答」89）。その後は、収入があつて、経費をすべて払った後に、所有物の価値が19メスガル以上増加する度に、その者はこの増加分の19パーセントを支払うことになる。その後も同様に、繰り返し支払つ

ていく（「質疑応答」 8・9）。

特定の所有物、例えば、住宅などはホゴゴラの支払い対象から免除される（「質疑応答」 8・42・95）。また、経済的損失を被った場合（「質疑応答」 44・45）、利益を産み出さなかった投資（「質疑応答」 102）、死亡した場合のホゴゴラの支払いについて特定の規定が示されている（「質疑応答」 9・69・80）。（後者の件については注釈47参照）。ホゴゴラの精神的意味とその適用の詳細に関する、様々な書簡、質疑応答、その他の書からの多数の抜粋は、「ホゴゴラ」と題した編纂書に収められている。

126 ∴ 御方から下される神の法に関して、信者らから様々な請願がわが玉座の前に送られてきた。したがって、われは人々が主の命令を遵守するようにとこの聖なる書簡を啓示し、主の律法をもってそれを装飾したのである。\* 98

バハオラはある書簡で、「何年もの間、神の法を願う請願が様々な土地から、最も神聖なる御前へ届いた。しかし、定められた時がくるまで、われはペンを保留した」

## 注釈

と述べている。テヘランのシア・チャールにおける預言者としての使命の誕生から二十年経過して初めて、バハオラは彼の宗教制の法の宝庫であるアグダスの書を著した。アグダスが著された後も、バハオラはペルシャのバハイたちにそれを送ることをしばらく保留された。この時代のために神が示された根本的な法の啓示が延期されたこと、そして、その後、それらの規定が段階的に履行されたことは神の意図であり、累進的啓示の原則の実例である。この累進的啓示の原則は各預言者の使命期間中でさえも見られるものである。

### 127 深紅の地点 \* 100

これは、牢獄都市アッカへの言及である。バハイの書においては、「深紅の」という言葉はいくつかの寓意的、象徴的意味で用いられている（注釈115参照）。

## 128 サドラトル・モンタハ \* 100

文字通りには「最も遠くにあるロートの木」という意味で、シヨーギ・エフェンディはこれを、「通り越すことのできない木」と訳している。これは、イスラム教では象徴として用いられている。たとえば、ムハンマドの「夜の旅」の話では、神に近づく過程で、人間も天使も越えることのできない点を指すのに用いられている。従って、人類に啓示された聖なる知識の境界線を指す。ゆえに、バハイの書では、しばしば、神の顕示者自身を指すものとして用いられている。(注釈164も参照)

## 129 母なる書 \* 103

「母なる書」という用語は、ある宗教制の中心となる「書」を指すのに用いられる。コーランと、イスラム教のハディースでは、この用語はコーランそのものを指す。バブの宗教制では、バヤンが「母なる書」であり、バハオラの宗教制ではアグダスの書がそれである。さらに、守護者は、その代理の手紙で、この概念は「バハオラが啓示

## 注釈

した教え全体を指す全般的な用語」としても用いることができる。また、これはもつと広い意味で神の啓示を収める宝庫を意味することもある。

**130 啓示の天から下されたものを解釈し、その明白なる意味を歪めた者は…\*105**

バハオラは、いくつかの書簡で寓話的な聖句と、法・掟・礼拝・宗教的義務に関する聖句の違いについて断言している。すなわち、前者には解釈の余地があり、後者はその意味において明白であり、信者の遵守を要求するものである。

注釈145及び184で説明されているように、バハオラは、長男アブドル・バハを自身の後継者及び教えの解釈者として指名している。次に、アブドル・バハは長孫のシヨール・エフエンディを聖典の解釈者及び大業の守護者として、自身の後継者に指名している。アブドル・バハとシヨール・エフエンディの解釈は、神に導かれているものと見なされ、信者はそれに従う義務がある。

権限ある解釈が存在することは、信者個人が教えを勉強し、それにより自身の解釈



や理解を得ることを妨げるものではない。しかし、バハイの書では、権限ある解釈と、個人が教えの学習によって到達する理解との間に明白な違いを設けている。個人的な理解に基づく教えの個人的解釈は、人間の理性的機能の実りであり、信教をよりよく理解することに十分貢献し得るが、そのような見解には権限がない。個人は自分の考えを提示するにあたって啓示された言葉の権威を放棄したり、権限ある解釈を否定したり、それと競ったり、論争に関わったりせぬよう注意を受けている。むしろ、自分の考えは自分自身のそれであることを明白にしつつ、それを知識への貢献として提示すべきである。

**131 ペルシャの大衆浴場にある浴槽に近づかぬよう注意せよ。\*106**

バハオラは、ペルシャの伝統的な大衆浴場に見られるような浴槽の使用を禁止している。このような浴槽では通常、多くの人々が同じ浴槽のなかで身体を洗い、水の入れ替えが稀であった。その結果、水は変色し、汚れ、不衛生となり、極度に悪臭を放つ

ていた。

132 同じく、ペルシャの家の中庭にある悪臭のする水槽も避けよ。\* 106

ペルシャのほとんどの家では、洗濯や掃除などの家事のために中庭に水を溜めておく場所があった。このような場所の水はよどみ、通常、何週間も替えられることがなかったため、極めて不快な臭いを放つようになる場合が多かった。

133 汝らは自分の父親の妻との結婚を禁じられている。\* 107

ここでは、自分の義理の母との結婚がはっきり禁じられている。これは、義父との結婚にも適用される。バハオラが男性から女性に対する法を定めている時、文脈からしてそれが不可能でない限り、それは、女性から男性に対する場合にも準用される。

アブドル・バハとシヨーギ・エフエンデイは、アグダスの本体では義理の母親だけが述べられているが、家族内の他の者との結婚は許されると言う意味ではないと確認している。バハオラは、「自分の親戚との結婚の適否について」の法制定は正義院に

委ねると述べている（「質疑応答」50）。アブドル・バハは、結婚相手との血縁関係は遠ければ遠いほど良いと述べている。なぜなら、そのような結婚は人類の身体的健全の基礎を整え、人類の友好関係に資するからである。

### 134 男児の主題 \* 107

ここで「男児」と訳されているこの言葉は、この文脈では、アラビア語の原語では男児相手の同性愛を暗示する。シヨージ・エフェンディは、この言及はあらゆる同性愛的関係を禁止するものであると解釈している。

性に関する道徳についてのバハイの教えは、人類社会の全構造の基盤たる結婚と家庭に中心をおき、結婚という聖なる制度を保護し、強めることを目指している。ゆえに、バハイの法は、性行為を結婚している男女間のみ許されるものとする。

シヨージ・エフェンディの代理による手紙は以下のように述べている。

同性の二人の間の愛がどれだけ献身的ですばらしいものであろうと、それを

性行為によって表現することは間違っています。それが理想だということは言い訳にはなりません。あらゆる種類の不道徳行為は、バハオラにより禁じられています。そしてバハオラは、同性愛の関係もそうであると見なしておられるし、それは自然に反することなのです。このようなことで苦しめられることは、良心的魂にとって大きな負担です。しかし、医者 の 助言や援助を通して、強固で決然とした努力を通して、また祈りを通して、人はこの障害を克服することができます。

姦通や男色に対する罰則は違反行為の程度に応じて万国正義院が決定すると、バハオラは規定している（「質疑応答」49）。

135 **誰であれ、道や市場を歩きながら公衆の面前で聖句を眩くことは許されない。** \* 108

これは、過去の宗教制のある聖職者や宗教的指導者の慣習に関する言及である。彼らは偽善と見栄のために、また、信奉者らの賞賛を勝ち得るために、自分たちの信仰

心の深さの表現として祈りの言葉を公の場でこれ見よがしに唱えていた。バハオラはそのような行為を禁じ、神に対する謙虚さと神に対する心からの献身の重要性を強調した。

136 **すべての者は遺書を書くよう義務づけられている。** \* 109

バハオラの教えによると、個人は遺言を書く義務があり、自分の財産を自分の望む方法で処分する自由がある（注釈 38 参照）。

バハオラは、遺言を書くにあたって、「人は自分の財産を完全に管轄する権利を有す」と認めている。なぜなら、神は、個人に「与え給うたものをその者の望む通りの方法で処分すること」を許されたからである（「質疑応答」 69）。遺言を残さずに死亡した場合の財産の配分法については、アグダスの書に規定されている（注釈 38 ～ 48 参照）。

137 **最大名** \* 109

注釈33でも説明されているように、神の「最大名」はさまざまな形態を持ちうる。また、それらはすべて「バハ」という言葉に基づいている。東洋のバハイたちは、「お、栄光に満ちたものの中の最も栄光ある御方よ」、「栄光に満ち給う神の御名において」、「彼こそは栄光に満ち給う御方なり」などの句を自分の遺言の文頭に記すことでこのアグダスの書の規定を満たしている。

138 すべてのフィーストは二つの最も偉大なる祭典と、一対の日に来る別のもう二つの祭典をもって頂点に達した。\*110

この言葉によりバハイの四大祭典が確立される。バハオラにより二つの最大の祭典として定められているものの一つはレズワンの祭典であり、バハオラが、1863年の4月から5月にかけてバグダッドのレズワンの園でその預言者としての使命を宣言したことを記念するものである。バハオラはそれを「祭典の中の王」と呼んでいる。二番目は、1844年5月の、シラーズでのバブの宣言である。レズワンの祭典の第

1、第9、第12日目、およびバブの宣言の日が聖なる日である（「質疑応答」1）。

「別のもう一つの祭典」はバハオラとバブの誕生日である。イスラムの陰暦ではこの二つの日は続いており、それぞれ、バハオラの誕生日はイスラム暦1233年、モハラム月2日目（1817年11月12日）、バブの誕生日はイスラム暦1235年、同じ月の1日目（1819年10月20日）となる。このようにこの二つの日は「対をなす誕生日」と呼ばれ、バハオラはこれらの日は神の目に一つと見なされると述べている（「質疑応答」2）。彼は、もしこれらの日が断食の月の間に起こるならば断食の命令はそれらの日には適用されないと述べている（「質疑応答」36）。バハイ暦は太陽暦（注釈26・147参照）であるため、対をなす聖なる誕生日を太陽暦、陰暦のどちらに基づいて祝うべきかは万国正義院が決定することになる。

### 139 バハの月の初日 \* 111

バハイ暦では、一年の最初の月と毎月最初の日は「バハ」という名前を与えられて

## 注釈

いる。したがって、バハの月のバハの日は、バハイの元日、ノー・ルーズである。これは、バブにより祭典として定められ、バハオラにより確認されている（注釈26・147参照）。

アグダスの書のこれらの節で定められている7つの聖なる日に加えて、バブの殉教の日も、バハオラの存命中に聖なる日として記念されていた。それに倣って、アブドル・バハは、バハオラの昇天も聖なる日として加えられたので、聖なる日は全部で9つになった。記念日として遵奉はするが仕事を休むことはしない二つの記念日は、聖約の日と、アブドル・バハの昇天の日である。「バハイ世界」第18巻のバハイ暦に関する章参照のこと。

140 まことに、この最大の祝祭日はもろもろの祝祭日の王である。\* 112

これは、レズワンの祭典に関するものである（注釈107、及び138）。



141 神は以前、各信者に自分の所有物の中から貴重な贈り物をわが玉座の面前に捧げる義務を課し給うた。しかし今、われは…この義務を廃止した。\* 114

この文により、その種類において無比の物は、神が顕わし給う者が現れるとき、彼に捧げるべきであるというバヤンの規定は廃止された。バブは、神の顕示者は比較を超越している故に、その種類において無比の物は何であれ、顕示者がそうでないと定めない限り、正当に、顕示者のために確保すべきであると説明している。

## 142 夜明け \* 115

バハイの礼拝堂であるマシユレゴウル・アズカルで夜明けの祈りに参加することについて、バハオラは、神の書に特定されている実際の時刻は「夜明け」であるが、「一日の夜明けが始まったばかりの時、夜明けと日の出の間、あるいは日の出の後2時間以内」(「質疑応答」15)でもよいと説明している。

143 これらの書簡は夜明けをもたらし、天と地の間に声を上げた御方の印章で飾られている。\* 117

バハオラは、神の言葉である彼の言葉が完全無欠であることを繰り返し断言している。バハオラの書簡の幾つかにはバハオラの印章の一つが捺おされているものもある。「バハイ世界」第5巻の4ページに、幾つかのバハオラの印章の写真が載っている。

144 理性を授けられている人間が、その理性を奪ってしまうものを取り込むことは許されない。\* 119

バハイの文書には、ワインや他のアルコール飲料の使用を禁止し、そのような酔わせる効果のあるものの有害な影響についての言及が多々ある。バハオラはある書簡でこう述べている。

神のワインを汝らのワインと交換せぬよう、注意せよ。なぜならそれは、汝らの知性を鈍らせ、汝らの顔を、栄光に満ちたもう御方、比類なき御方、近づ

くことのできない御方なる神の御顔からそむかせるからである。それに近づくなかれ。それは、崇高なる御方、全能者なる神の命によって汝らに禁じられているからである。

アブドル・バハは、アグダスでは、「軽い飲み物も強い飲み物も両方を」禁じていると説明し、アルコール飲料使用を禁止する理由は、「アルコールは、知性を迷わせ、身体を弱めるからである」と述べている。

シヨーギ・エフエンディは代理による手紙で、この禁止は、ワインだけでなく、「知性を混乱させるすべてのもの」を摂取することを含むと述べている。また、彼は、アルコールの使用は、それが「有能で良心的な医師の助言のもとで行われる、特殊な病気の治療のために処方しなければならない医学的処置の一部である」ときにのみ許される」と述べている。

145 神が意図し給うた者、この古来の根茎より分岐した者に汝らの面を向けよ。\* 121

バハオラはここで、アブドル・バハを自身の後継者とのめかし、彼に向かうよう、信者らに呼びかけている。バハオラは、自身の遺訓である聖約の書で、この節の意図について明かしている。彼は述べている。「この聖なる句の対象は、最も偉大なる枝に他ならない。」「最も偉大なる枝」とは、バハオラがアブドル・バハに付与した称号の一つである。(注釈 66・及び 184 参照)。

146 バヤンの書はわれに質問することを禁じている。\* 126

バブは、信奉者らが、神が現し給う御方(バハオラ)に質問することを、それが文書で出され、彼の崇高なる地位にふさわしいものでない限り禁じた。(「バブ選集」参照)。  
バハオラは、バブのこの禁止令を解いている。彼は、信者らが「必要な」質問をすることを勧めているが、「過去の時代の人々」を没頭させた「たわいない問い」を出すことは控えるようにと忠告している。

147 神の書で定められた一年間の月の数は19である。\*127

バハイの一年は、バディ暦に従い、<sup>ひと</sup>一月が19日で19ヵ月、それに閏日（通常は4日で、閏年は5日）が加えられて成り立つ。閏日は18ヵ月目と19ヵ月目の間に来るが、その追加により、バハイの一年は太陽年に合うようになっていく。バブは、各月に神の特定の属性の名を与えた。バハイの新年 ノー・ルーズは、天文学的に決まり、春分と一致する（注釈26参照）。一週間の日にちの名前や月の名前など、詳細は第18巻のバハイ暦に関するセクションを参照のこと。

148 最初の月は、全創造を覆い包むこの御名をもって飾られた。\*127

ペルシャ語のバヤンで、バブは、一年の最初の月に「バハ」という名前を与えている（注釈139参照）。

149 死者を埋葬する際：棺に入れるよう、主は定められた。\*128

バブは、バヤンで、故人は、水晶または磨かれた石で作られた棺に納めるべきであると定めた。シヨーギ・エフェンデイは、代理による手紙で、この規定の意義は、「一度は、不滅なる人間の魂によつて崇高にされた」身体に敬意を表すためであると説明している。

端的に言うと、故人の埋葬に関するバハイの法は、遺体をその死亡の地点から一時間以上移動させることを禁止するものであり、遺体は、絹または綿の布に包み、その指にはある言葉を刻んだ指輪をはめる、というものである。その言葉は、「われは神より来たり、そして神の他のすべてを超脱し、慈悲深き御方、憐れみ深き御方なる神の御名にしっかりとすがり、神のもとへ戻れり」である。また、棺は、水晶、石、堅い上質の木でできたものであるべきとする。「故人のための特別な祈り」(注釈10参照)は埋葬の前に唱えられるべきである。アブドル・バハ及び守護者によつて確認されているように、この法は火葬を除外する。定められた祈りと指輪は、成熟の歳、つまり

15歳に達した者に用いることを意図している（「質疑応答」70）。

棺の材料について、法の精神は、棺ができる限り耐久性のある物であるべきということである。故に、万国正義院は、アグダスに規定されている材料の他に、最も堅い木やコンクリートを使うことに問題はないと説明しているのである。現時点では、これについては、各自、自由に選択することができる。

### 150 「バヤンの点」 \* 129

「バヤンの点」は、バブが自身を指して使った称号の一つである。

### 151 死者を五枚の絹または木綿の布で包むよう… \* 130

バヤンで、バブは、遺体は絹または綿でできた五枚の布で包むべきと述べている。バハオラはこの規定を確認し、「財力に限りがある者は、これらのいずれかの布一枚で十分である」という規定を加えている。

法の中で言及されている五枚の布とは、五枚の全身大の布なのか、それまで伝統的に用いられてきた五枚の布なのかと聞かれたとき、バハオラは、布を五枚使うことであると答えている（「質疑応答」56）。

遺体の包み方について、バハイ文書には、五枚の布が使われるにせよ、一枚の布にせよ、包み方がどうあるべきという規定はない。現時点では、バハイはこれについて各自の判断に任されている。

152 遺体を、町から一時間の距離を越えて運ぶことは禁じられている。\*130

この命令の意図は、遺体を埋葬場所に運ぶ交通手段が何であれ、その移動時間が一時間を越えない、ということである。バハオラは、埋葬は早ければ早いほど、「ふさわしく、許容されることである」と確認している（「質疑応答」16）。

死亡場所とは、その人が死亡した都市や町を含むので、一時間の移動時間は、その町の境界線から埋葬場所の間で計算することもできよう。バハオラの法の精神は、故



人が、死亡場所の近くに埋葬されるということである。

153 神はバヤンで課せられた旅の制限を除き給うた。 \* 131

バブは旅に関する制限を定めた。それは、バヤンで約束された御方の出現まで有効とされるもので、信者らは、約束された御方が到来したとき、その御方に会うためにたとえ徒歩でも会いに出かけるようにと指示した。なぜなら、彼の面前に達することが、彼らの存在そのものの目的であり成果であったからである。

154 対をなす聖なる地点にある二つの家と…主の玉座が確立されたその他の場所を高め、賞賛せよ。 \* 133

バハオラは、二つの家を、バゲダッドの家——彼により最も偉大なる家と定められている——ならびにシラーズのバブの家としている。両方とも、バハオラによって巡礼の場所として定められている。「質疑応答」29・32と注釈54参照。

シヨージ・エフエンディは、「…汝の主の玉座が確立されたその他の場所」は、神の顕示者自身が住んでいた場所であると説明している。バハオラは、「これらの家が存在する地域の人々は、」彼が住んだ「家のすべて」を保存するか、「その内の一つ」を「保存するかを選択することができると述べている（「質疑応答」32）。バハイの機構は、一対の顕示者と関連のあるいくつかの歴史的な場所を確認し、書類に記録し、可能ならその場所を入手し、保存してきた。

155 聖なる書に記録されたことによって、この生ける書である御方に耳を傾けることを妨げられぬよう注意せよ。\*134

「聖なる書」とは神の顕示者たちによって啓示された言葉を記録したものである。「生ける書」とは顕示者自身を指す。

ペルシャ語のバヤンに、バブが、「生ける書」は「神が現し給う御方」であると特定した発言がある。上記の言葉はそれに言及したもの。バハオラ自身、ある書簡で、

「神の書は、この若者の姿で下された」と述べている。バハオラはアグダスのこの句、そして、さらに本段落<sup>168</sup>で、自身を「生ける書」と言及した。彼は、「自分たちの聖典中に」「生ける書」の発言を「論駁する」ための「さまざま理由」を探そうとすることに対して、「他のすべての宗教の信者ら」に警告している。彼は、「聖なる書」に記されていることによって、彼の地位を認識すること、ならびにこの新しい啓示に収められていることへの固守を妨げられないようにと勧告している。

156 わが先駆者なる者のペンより、この啓示を称賛して流れ出た次の言葉… \* 135

この句でバハオラが引用している「称賛」とは、アラビア語のバヤンからの引用である。

157 「ゲブレとは、まことに神が現し給う御方のことである。彼が動きを停止するまでは、ゲブレは彼の動きと共に動くのである。」 \* 137

この句の説明については、注釈7と8参照のこと。

158 バヤンを信じる者以外との結婚は法に反することである。もし結婚している二人のうち一方のみがこの大業を受け入れるなら、その者の所有物は、相手にとって：不法なものとなる。\* 139

バハオラがここで引用しているバヤンの句は、神が現し給う御方の到来が迫っていることに、信者らの注意を促すものである。バビ教徒以外との結婚の禁止と、信教を受け入れた夫または妻の財産をバビ教徒でない配偶者に渡すことは違法であるという規定は、バブにより明らかに保留されていたが、それらが施行される前にバハオラによって廃止された。バハオラはこの法を引用することにより、バブは、バハオラの大業がバブ自身のものより先に顕著になる可能性をはっきりと予期していたということを描いているのである。

シヨージ・エフエンディは、「神よぎり給う」の中で、バヤンは、「将来の世代のため恒久的な指針となるよう意図された法や掟の法典としてではなく、むしろ主に、

約束された御方への賛美」と見なすべきであると述べ、続けて、「それが課す規則や規定は意図的に厳格で、教え込む原則は革命的である。これは、聖職者らや人民の長い間の休眠を覚醒させるよう考慮され、また、時代遅れで腐敗した制度に突然で致命的な打撃を与えるよう意図されているのである。それは、その過激な規定により、予期された日、『召喚人が難事に召喚する』日の出現、『神の使徒が彼以前のやり方をくつがえしたように、彼が彼以前のものをすべてくつがえす』とき、を宣言したのである」。(注釈109も参照のこと)

### 159 「バヤンの点」\* 140

これは、バブの称号の一つである。

### 160 まことに…われの他に神はなし。\* 143

バハイの書物には、神の顕示者、及び顕示者と神との関係について説明する句が多

## 注釈

数ある。バハオラは、神の地位の独特で超越的な性質について説明している。「唯一の神をその創造物に結び付ける絆や直接の交わりはあり得ない。したがって」神は「各時代と各宗教制において、清廉潔白な魂が天と地の王国に出現することを定めた」。この「神秘的、かつ靈妙な存在者」である神の顕示者は「物質界」に属する人間的性質と、「神ご自身の実質より生じた」精神的性質とをあわせもっている。また顕示者には「二重の地位」が授けられている。

第一の地位は、彼の最も奥に潜む本質に関係するものであり、彼の声は神ご自身の声であることを意味する。∴第二の地位は、人間としての地位であり、次の聖句はそのことを指している。「われは汝らと同様の人間にすぎない」、「言挙げよ、わが主に賛美あれ。われは普通の人間や使徒以上のものではない」。

バハオラは、また、精神的領域においてすべての顕示者の間には「本質的な一体性」があると述べている。彼らは皆、「神の美」を示し、神の名称と属性を顕示し、神の啓示を発言するのである。これについて彼は述べている。

すべてを包み込む神の顕示者らのいずれが「われは神である」と宣言しても、彼はまことに、真実を語るものであり、何らの疑いもない。なぜなら、顕示者の啓示と属性と名称を通して、神の啓示、神の名称および属性が世界に明示されることは、繰り返し証明されているからである… 顕示者らは、神の名称と属性を啓示し、人類が神の知識とその啓示に接近させる手段であるが、シヨール・エフエンディは、顕示者らは「決して、…あの目に見えざる本質、神性の本質そのもの」と同一視されるべきではないと述べている。守護者は、バハオラに関して、「かくも圧倒的な啓示の媒体であった人間の身体」を神の「本質」と同一視してはならないと書いている。

バハオラの地位の特異性とその啓示の偉大さについて、シヨール・エフエンディは、過去の宗教制の聖典に見いだされる神の日に関する予言の言葉は、バハオラの到来で成就したと述べている。

イスラエルにとって、彼は「永遠の父」の化身であり、「数万の聖者と共に」

## 注釈

おりてきた「万軍の主」である。キリスト教世界にとっては「父の栄光において」再臨したキリスト、シーア派イスラム教にとっては、イマーム・フセインの再来、スンニ派イスラム教では、「神の霊「イエス・キリスト」の降臨である。ゾロアスター教徒にとっては、約束されたシャー・バラーム、ヒンズー教徒には、クリシュナの生まれ変わり、仏教徒には五番目の仏陀である。

バハオラは、ご自分がすべての神の顕示者と共有している「神性」の地位についてこう述べている。

∴「それは」自身を滅し、神に生きる地位である。神性とは、われが述べるときには常に、われの完全にして絶対的な自己滅却を示し、この地位は、われが自分の禍福、生命や復活をまったく制御できない地位なのである。

そして、神と自分自身の関係についてはこう証言している。

おお神よ、われが、われをあなたと結び付ける関係に思いを馳せるとき、われは「まことにわれは神である」と全創造物に対して宣言するよう動かされる。



そして、われ自身について考えるとき、なんと、われは、土くれよりも粗末なものであると思うのである！

## 161 ザカートの支払い \* 146

ザカートは、コーランでイスラム教徒に課せられた定例の慈善行為を指すものである。やがて、この概念は慈善税金という形に発展していった。これはある種の収入が定められた限度を超えると、一定の割当分を、貧者の救援や様々な慈善的目的、および神の信教を援助するために提供しなければならぬという義務を課したものであった。免除の限度額や税率は、商品の種類によって異なつた。

バハオラは、ザカートに関するバハイの法は「コーランに啓示されたこと」（質疑応答107）に従うものであると述べている。各種のザカートに対応する免除の限度、収入の種類、支払いの頻度、税率はコーランに述べられていないため、今後それらは万国正義院によって明確にされねばならないであろう。シヨーギ・エフェンディは、そ

れらが制定されるまで、信者は自分の資力と可能性に応じてバハイ基金に定期的に献金すべきであると指摘した。

162 物乞いは不法である。また物乞いに物を与えることも禁じられている。\*147

アブドル・バハは、ある書簡でこの句の意味を説明している。アブドル・バハはこう述べている。「物乞いをすることは禁じられている。また物乞いを職業としている人たちに施すことも禁じられている。」同じ書簡で、彼はさらに次のように指摘している。「目標は物乞いを完全に根絶することである。しかしながら、ある人が生計を立てることができないか、貧窮に見舞われるか、または抛り所がない場合は、富裕者または代理人がその人の生活費として毎月一定の割当を支給しなければならぬ：代理人というのは、人々の代表者、つまり、正義院のメンバーを指す。」

物乞いに施してはならないという禁令は、個人や精神行政会が貧困者や援助を必要としている人たちに財政的援助をすることや、その人たちが生計を立てられるように

技術を身につける機会を与えることを排除するものではない。(注釈56参照)

163 以前、他の人の悲しみの原因となった者に：罰金を定め給うた。 \* 148

バハオラは、隣人の悲しみの原因となったことに對する償いとしての罰金支払いに関するペルシヤ語のバヤン書の法令をここで廃止している。

164 聖なるロートの木 \* 148

「聖なるロートの木」は、サドラトル・モンタハを指すもので、「通り超すことのできない木」のことである(注釈128参照)。ここではバハオラを表すために象徴的に用いられている。

165 神の聖句を毎朝、毎夕唱えよ。 \* 149

「神の聖句」を唱える根本的な「必要条件」は、「神の言葉を読む」信者らの「熱望

と愛」であるとバハオラは述べている。(質疑応答68)

「神の聖句」の定義に関して、バハオラは「聖なる言葉の天より下されたすべて」を指すと述べている。シヨーギ・エフェンディは、東洋の信者の一人に宛てた手紙で、「神の聖句」という言葉はアブドル・バハの著作を含まないことを明確にした。同様に、自分の著作に「神の聖句」という言葉は適用されないとすることも指摘した。

166 汝らは19年ごとに家の家具を新しいものと取り替えるよう命じられた。\* 151

バハオラは、19年ごとの家具更新に関するアラビア語のバヤンの命令を確認している。ただし、それが可能ならば、である。アブドル・バハはこの法令を洗練と清潔に関連させている。彼は、この法の目的は、古くなり、光彩を失って嫌悪感を起こすような家具を変えることにあると説明している。これには珍しい物、または秘蔵品、骨董品、あるいは宝石類は当てはまらない。

## 167 足を洗うこと \* 152

アグダスの書で、信者は定期的に入浴し、清潔な衣服を着用し、すべてにおいて清潔と洗練の真髄であるように勧告されている。アグダスの書の概要と体系化 IV D 3 y i ~ viiにこれに関連する規定が要約されている。足を洗うことに関して、バハオラは、温湯の使用が好ましいが、冷たい水でも構わないと述べている。(質疑応答97)

168 汝らは説教壇の使用を禁じられた。皆に向けて主の句を唱えたいと欲する者には、  
 全人類の主なる神について語れるよう、壇上の椅子に座らせよ。\* 154

これらの規定は、ペルシャ語のバヤンに既にかかれていることである。バブは説教と聖なる句の朗読に説教壇を用いることを禁じた。その代わりに、皆が神の言葉をはつきりと聞くことができるように、講話者が座る椅子を壇上に置くべきであると明記した。

この法に関して、アブドル・バハとシヨーギ・エフエンディは次のように明確に注釈した。マシユレゴウル・アズカル（ここでは説教は禁じられており、聖典の言葉の

朗読のみが許される)では朗読者は立っていても、坐っていてもよい。皆によく聞こえるようにということなら、低い、可動式の壇を用いることもできるが、説教壇は許されない。マシユレゴウル・アズカル以外の場所での集会では、朗読者または講話者は座ろうが、立とうが、壇を用いようが構わない。アブドル・バハは、ある書簡で、いかなる場であろうと説教壇の使用は禁止されると繰り返して述べるなかで、バハイが集会で演説をするときは、最高の謙虚さと克己の態度で行うべきであると強調している。

169 賭博 \* 155

この禁令に含まれる諸活動は、バハオラの書物にはつきりと示されてはいない。アブドル・バハとシヨーギ・エフエンデイの双方が指摘しているように、この禁令を詳細に明記することは万国正義院に任されている。富くじ、競馬やサッカーの試合などへの賭け、およびビンゴなどは賭博の禁令に含まれているかという質問への返事で、

万国正義院は、これは将来、詳細に考究される事柄であるとしている。それまでは、行政会と各人はこのことを問題化せず、一人一人の信者の良心に任せるよう勧告している。

正義院は、富くじ、ラッフル販売、運まかせの勝負ごとによって信教の基金を集めることは適切でないと規定した。

### 170 阿片…、不調や、無氣力を引き起こすような物質の使用 \*155

この阿片使用の禁令はアグダスの書の最後の文節で繰り返されている。これに関して、シヨーギ・エフェンディは「純潔で聖らかな生活」の必要条件の一つは「阿片、その他、習慣性のある薬物を…完全に断つこと」であると述べている。ヘロイン、ハシシ、その他マリファナのように大麻から引き出されたもの、LSD、ペヨーテ、それに類する、幻覚を起こさせる物質はこの禁令に含まれると見なされる。

アブドル・バハはこう書いている。

## 注釈

阿片について、それは不潔で呪うべきものである。神よ、その使用者に課される罰からわれわれを保護し給え。最も聖なる書の明確な句によれば、阿片の使用は禁じられており、完全に非難されるべきことである。阿片の喫煙を一種の狂気であると理性は示し、経験はその使用者が人間界から完全に切り離されることを証明している。願わくは、神が、かくも忌まわしい行為、人間の土台そのものを滅ぼす行為、そしてその使用者を永遠に追放する原因となる行為から、すべてのの人々を保護し給わんことを。なぜなら、阿片は魂を捕えるため、その使用者の良心は消失し、知性は抹殺され、知覚力は蝕まれるからである。それは生者を死者にしてしまうのである。それは自然なる熱を消しさる。阿片のもたらす害より大きな害は考えられない。阿片という名を口に出しさえしない人は幸運である。ならば、その使用者がどれほど悲惨であるか考えてみよ。

おお汝ら、神を愛する者らよ！この全能なる神の周期において、暴力と強圧、強要と抑圧はすべて非難されるものである。しかしながら、人類がこの最も強



力な災いから救われるためには阿片の使用はいかなる手段をもつても阻止しなければならぬ。さもなければ、災いと苦悩が主への義務を怠った者を襲うであろう。

アブドル・バハはある書簡で、阿片に関してこう述べた。「使用者、買う者、売人はすべて神の恩寵と恩恵を奪われるのである。」

他の書簡の中で、アブドル・バハはこう書いた。

ハシシに関して、あなたはベルシャヤ人の中にその常習者となっている者がいることを指摘した。悲しいことである。ハシシは酔いをもたらす物質の中で最も悪のものであり、その使用禁止は明示されている。それを使用すると思考は支離滅裂となり、魂は全く麻痺してしまふ。どうして地獄の木の実を求め、それを摂り、怪物の性質を例証するに至るようなことができるのか。すべてに慈悲深き御方の祝福を奪われることになるというのに、どうしてこの禁じられた麻薬を使用できるのか。

アルコールは知力を衰弱させ、人をして愚かな行為を犯させる。しかし、この阿片、この地獄の木の汚らわしい実、この邪悪なハシシは知力を消滅させ、精神を凍りつかせ、魂を石と化し、身体を衰弱させ、人を挫折させ、惑わすのである。

ただし、上述のような、ある種の薬物の使用に対する禁止は、免許を持つ医師によって治療の一部として処方される場合は該当しないということに留意すべきである。

171 「主権者の印の大きいなる逆転の神秘」\*157

シェイキ派の創設者であり、「バブの信教の出現を告知した二人の先覚者」の最初の人であるシェイキ・アハマド・アサイ（1753—1831）は、約束された御方の出現により、万物は逆転し、最後が最初になり、最初が最後になるであろうと予言した。バハオラは、ある書簡で、「主権者の印の大きいなる逆転の神秘」の「象徴と隠喩」に言及している。彼は「この逆転により、神は高き者を低め、低き者を高められた」

と述べ、またこう回想している。「イエスの時代に彼を否定したのは学識で名高い者、学者と宗教学者であった。一方、身分の低い漁夫が御国に入るために急いだ。」（注釈172参照）。シエイキ・アハマド・アサイに関する補足情報は「夜明けを告げる人びと」の第1章と第10章を参照のこと。

172 この「高潔なるアレフ」により起こされた「6」を認めた者は幸いなり \* 157

シエイキ・アハマド・アサイは自著の本の中で、「ヴォブ」というアラビア語の文字を大いに強調した。ナビルは、夜明けを告げる人びと」のなかで、この文字は「神の啓示の新しい周期の出現、バブを象徴し、後に、アグダスの書でバハオラによって『大いなる逆転の神秘』、および『主権者の印』といった句で言及されてきた」と述べている。

「ヴォブ」という文字の音は、ヴォブ、アレフ、ヴォブという三文字で構成されている。アブジャド法の計算によると、これらの文字の各々の数値はそれぞれ6、1、6である。

シヨージ・エフエンディは、東洋のある信者に宛てた代理による手紙で、アグダスのこの句について説明している。彼は「高潔なるアレフ」はバブの出現を指したものであると述べている。アレフの前にくる6の数値をもつ最初の文字は、バブ以前の初期の宗教制と顕示者とを象徴し、同じく6の数値をもつ第3の文字はアレフの後に顕わされたバハオラの崇高なる啓示を表す。

173 **必要不可欠な場合を除き、武器を所持することは禁じられた。** \* 159

バハオラは、必要でない限り武器を所持することを不法としたバヤンでの指令を確認している。武器を所持することが個人にとって「不可欠」である状況に関して、アブドル・バハは、危険な環境で自己防衛のための武器所持を信者に許可している。シヨージ・エフエンディもまた、代理による手紙で、緊急時、近くに要請できる警察力がない場合、バハイが自己の生命を防衛することは正当と述べている。その他、武器を必要とし、合法的に使用できる状況が他にもいくつかある。たとえば、衣食のた

めに狩猟をする国々での使用、また弓道、射撃術、フェンシングなどのスポーツでの使用である。

社会的なレベルでは、バハオラが宣言し（落穂集117参照）、シヨーギ・エフェンディが詳細に述べた（「バハオラの世界秩序」の守護者の手紙参照）集団保障の原則は、武力使用の排除を前提とするものではなく、「軍事力は正義のしもべとされるシステム」を規定し、「全社会の有機的融合を護る」国際平和維持軍になることを認めるものである。バハオラは、ベシャラトの書簡で、「世界中の武器が世界再建の道具に変えられ、不和や争議が人々の間から除かれるように」という希望を表明している。他の書簡で、バハオラはすべての宗教の信者たちと親交の重要性を強調している。彼はまた、「聖戦の法は聖なる書から消された」と述べている。

174 絹を身にまとうことは許された。 \* 159

イスラム教の慣例では、男性が絹を身につけることは、聖戦の時以外は一般的に禁

## 注釈

じられていた。バブは、コーランの句に基づいたものではないこの禁令を廃止した。

175 主は：以前適用されていた衣服や髭の刈り方に関する制限を除き給うた。\* 159

衣服に関する多くの規則は、世界の諸宗教の法および伝統的な慣例に起源する。たとえば、シーア派の僧侶は特徴のある頭飾りとローブを採用し、またある時期には人々にヨーロッパ風の装いを禁じた。イスラムの習慣にも、「預言者」の習慣をまねたいとの望みから口ひげの手入れやあごひげの長さに関していくつかの制限がとり入れられた。

バハオラは衣服やひげに関するそのような制限を取り除いた。彼はそういった事柄を各人の「思慮分別」に任せ、同時に信者に礼儀の域を越えないように、また衣服に関するすべてに中庸を守るように求めた。

176 おおカフとラの地よ！ \* 164

カフとラは、イランの都市および地方の名であるケルマンの最初の二つの子音である。

177 汝から密かに放射しているものを感知する。 \* 164

この文節は、ミルザ・ヤーヤに従う（注釈190参照）アザリの中にあるグループの陰謀に言及するものである。ケルマン市に関連があるこのグループの中には、モラ・ジャファー、その息子シエイキ・アハマド・ルヒとミルザ・アガ・カニケルマニ（両者共にミルザ・ヤーヤの義理の息子）、およびミルザ・アハマド・ケルマニがいた。彼らは信教を密かに傷つけようとしただけでなく、政治的な陰謀にも加わった。これはナセルディン・シャーの暗殺で最高潮に達した。

178 モハメッド・ハサンという名のシエイキを想起せよ。 \* 166

イスラム教シーア派の指導的代弁者の一人シエイキ・モハメッド・ハサンはバブ

を拒絶した。シーア派の法制に関する多数の書の著者である彼は、1850年頃死亡したと伝えられている。

ナビルは「夜明けを告げる人びと」の中で、生ける文字の一人モラ・アリ・バスナミと、シェイキ・モハメッド・ハサンとの対面について叙述している。それはナジャフでのことであった。その対面中にモラ・アリはバブが出現したことを宣言し、その啓示の力強さを称揚した。このシェイキによる扇動で、モラ・アリは直ちに異端者であると宣告され、その集会から追放された。彼は裁判にかけられ、イスタンブールに移され、苦役の刑を言い渡された。

179 小麦や大麦のふるい手。 \* 166

これは、イスファハンで最初にバブの信教を受け入れたモラ・モハメッド・ジャファール・ガンダムパククンを指す。彼はペルシャ語のバヤンに述べられており、「使徒の衣を着た」者として賞賛されている。ナビルは、「夜明けを告げる人びと」で、「小



麦のふるい手」がメッセージを無条件に受け入れ、その新しい啓示をいかに熱烈に唱道したかを述べている。彼はシェイキ・タバルシの砦の防御者の一団に加わり、包囲攻撃された時に亡くなった。

180 「預言者」という言葉によって、この最も偉大なる宣言から引き止められることがないよう注意せよ。\* 167

バハオラは「洞察力」をそなた人びとに、自分たちの聖典の解釈によって神の顕示者を認めることを妨げられないように警告している。各宗教の信者は、自分の宗教の創立者への献身ゆえにその啓示が最後の神の言葉であると理解し、その後には預言者が出現する可能性を否認する傾向にあった。ユダヤ教や、キリスト教、イスラム教の場合もそうであった。バハオラは、過去の宗教制においても、自らの宗教制においても、この最終性の概念は真実でないと述べている。イスラム教徒に関して、彼は「確信の書」にこう書いた。「コーランの民も…『予言者達の打ち止め』という言葉を自らの目を

蔽う暗幕とし」、「理解力をくもらせ、多種多様な神の恩寵を自ら遠ざけた」。彼は「この課題…が、全人類の厳しい試練となってきた」ことを断言し、「これらの言葉に執着した彼らが、自分たちの真の啓示者である御方を信じなかった」という運命を嘆いている。バブはこの同じ課題に言及し、「名のヴェールに妨げられて、汝らの主である御方から引き離されないように。たとえそれが『預言者』という名であっても。なぜなら、そのような名は神の発言が創造したものに過ぎないからである。」と警告している。

181 「代理人」という言葉へのいかなる言及によっても、神の代理である御方の主権から除外されぬように。\* 167

ここでは「代理人」と訳されているが、アラビア語の原文では「ビラヤット」であり、「守護者」、「保護者」、または「後継者」をはじめとして多くの意味を含む。これは神自身との関連、神の顕示者との関連、または任命された、顕示者の後継者との関

連において用いられている。

アグダスの中のこの句で、バハオラは、この概念によって新しい神の顕示者、真の「神の代理人」の「主権」が見えない状態にならぬようにと警告している。

## 182 カリムを想起せよ。\* 170

ハジ・ミルザ・モハメッド・カリム・カーン・ケルマン（1810—1873頃）は、シエイキ・アハマド・アサイ（注釈171と172参照）の指定された後継者であるセイエド・カーゼムの死後、自らをシエイキ共同体の指導者に任じた。彼はシエイキ・アハマドの教えを推進するために献身した。彼が出した意見は、彼の支持者らや反対者たちの間で議論の的となった。

当時の指導的な学者であり、多作の著者の一人と見なされていた彼は、その当時発達していたさまざまな分野の学問に関して数多くの本や書簡を書いた。彼はバブとバハオラに激しく反対し、自分の論説を用いてバブとその教えを攻撃した。バハオラは

「確信の書」の中で、彼の著作の語調や内容を非難し、バブに関して否定的な言及をしている彼の著作の一つを取り上げて批判している。シヨージ・エフエンデイは彼を「異常に野心的で偽善的である」と述べ、また、彼がどのように「国王の特別な要請により、論説の中で、この新しい信教とその教義を、悪意をもって攻撃した」かを記述している。

183 おお汝ら、バハの学識者たちよ。\* 173

バハオラは信者の中の学識者をほめ称えている。聖約の書の中で、彼は「バハの人びとの中の支配者と学識者に幸いあれ」と書いた。この言葉に言及して、シヨージ・エフエンデイはこう述べている。

この聖なる周期において「学識者」とは、一方では神の大業の翼成者であり、また他方では、翼成者の地位は占めないが、布教活動で卓越した地位を獲得した布教者、普及者である。「支配者」は地方、全国および国際正義院のメンバー

を指すものである。これらの人びとの各々の義務は将来定められるであろう。

神の大業の翼成者はバハオラから任命され、さまざまな義務、特に信教の保護と普及を任された人たちである。「忠実なる人びとの追憶」の中で、アブドル・バハは他の卓越した信者たちを大業の翼成者と呼んだ。さらに遺訓の中に、信教の守護者に大業の翼成者を随意に任命するよう求める規定を含めた。シヨーギ・エフェンデイは、最初、すでにこの世を去っている何人かの信者を大業の翼成者の地位に高めた。そして、自分の後半生に、全大陸から計32人の信者をこの地位に任命した。シヨーギ・エフェンデイ死去の年である1957年から、万国正義院が選挙された1963年までの期間、大業の翼成者は、萌芽期にあるバハオラの世界連邦（注釈67参照）の主なる管理者として信教の事業を導いた。1964年11月、万国正義院は、大業の翼成者任命を可能にする法を制定することはできないと決定した。その代わりに万国正義院は、1968年、大陸顧問団を創設することにより、また、1973年、聖地に国際布教センターを設立することにより、信教の保護と普及に関する大業の翼成者の機能を將

## 注釈

来に向けて継続させた。

万国正義院は国際布教センターと大陸顧問団のメンバーを任命する。顧問補佐は大  
陸顧問団によつて任命される。これらの人びとはすべて、上述の文章でシヨージ・エ  
フエンデイが定義した「学識者」の中に含まれる。

184 聖なる書の中で理解できないことは何であれ、この強大な根茎から分岐した彼に  
尋ねよ。\* 174

バハオラは、自らの聖なる書を解釈する権限をアブドル・バハに与えている。(注  
釈145参照)。

185 超越的な唯一性の学舎 \* 175

この句とそれに続く句で、バハオラは、バヤンで約束された御方であるという自分  
の主張をバビたちが拒絶した理由の一つに反論している。彼らの拒絶は、「顕わされ

る御方」宛にバブが書いた書簡に基づくもので、その書簡の裏面にバブはこう書いていた。「神が顕し給う御方の一瞥が初等教育の学舎でこの手紙を照らし給わんことを。」この書簡は「バブ選集」に含まれている。

これらバビたちは、バブより二歳年上のバハオラがこの書簡を「初等教育の学舎」で受け取ることは不可能であると主張した。

バハオラはここで、これはこの存在の次元を超えた精神界で起こっている出来事に言及したものであると説明している。

186 **彼がわれに示した…神の句を受け入れた。 \* 175**

バブは、「神が顕し給う御方」に宛てた書簡の中で、バヤンを自分からのバハオラへの捧げ物であると特徴づけている。(バブ選集参照)

187 バヤンの人びとよ！ \* 176

バブに従う人たちを指す。

188 「存」と「在」という二つの文字が結合され、結ばれた。 \* 177

シヨージ・エフェンディは代理による手紙で、「存と在の二つの文字」の意味を説明した。この二文字は「存在」という言葉を構成し、それは「その命令により万物を生み出す神の創造力」、および「神の顕示者の威力、その偉大なる精神的創造力」を意味するものであると述べている。

アラビア語で、「存在」という語の命令法は「クン」であり、「カフ」と「ナン」の二文字で成り立っている。シヨージ・エフェンディはこれを上述のように訳した。この言葉はコーランの中で、万物を存在に呼び起こす神の命令として用いられた。



## 189 この新しい世界秩序 \* 181

ペルシャ語のバヤンで、バブはこう述べた。「バハオラの秩序に目を据え、主に感謝を捧げる者は幸いである。なぜなら、その御方は必ず顕わされるからである。実に、神はバヤンで、これを取り消すことができないように定め給うた。」シヨーギ・エフェンデイはこの「秩序」を、バハオラがアグダスで描いた聖なるシステムと同一視している。その中で、バハオラはそのシステムが人類の生活におよぼす革命的な影響を証言し、その働きを支配する法と原則を明らかにしている。

「新世界秩序」の特徴は、バハオラとアブドル・バハの著作、およびシヨーギ・エフェンデイと万国正義院の手紙の中に叙述されている。バハオラの世界秩序の「構造基盤」を成す現在のバハイ行政秩序の機構は成熟し、バハイ世界連邦へと発展していくであろう。これに関して、シヨーギ・エフェンデイはこう断言している。この行政秩序は、「その構成要素、その有機的機構が能率的、かつ精力的に機能し始めるにつれて、期が熟せば、全人類を包含するように定められている新世界秩序の中核としてのみでな

く、そのひな形そのものとして見なされるべきものであると主張し、また、そうみなされるだけの能力を実証するであろう。」と。

この新世界秩序の進化に関するさらなる情報としては、たとえば、「バハオラの世界秩序」に含まれているシヨーギ・エフエンデイの手紙を参照せよ。

190 おお、誤りの源泉よ！ \* 184

これは、ソブヘ・アザル（永遠の朝）として知られるミルザ・ヤーヤに言及したものである。彼はバハオラの異母弟で、バハオラに対抗して立ち上がり、その大業に反対した。ミルザ・ヤーヤは、約束された御方の差し迫った出現までの間、バブによってバビ共同体の名目上の代表に指名された。セイエド・モハマド・エスファハニの扇動（注釈192参照）によりミルザ・ヤーヤはバブの信頼を裏切り、自分がバブの後継者であると主張し、バハオラに対して陰謀を企て、バハオラを殺害させようとした。バハオラがアドリアノーブルで自身の使命をミルザ・ヤーヤに正式に宣言したとき、

ミルザ・ヤーヤは、自分は独立した啓示の受取人であるという主張まで持ち出してこれに対応した。やがて、彼の主張は、アザリとして知られる（注釈177参照）ようになつたごく少数を除くすべての人に拒絶された。シヨージ・エフェンディは彼を「バブの聖約の主たる破壊者」（「神よぎり給う」、第10章参照）と記している。

191 汝が大業に奉仕できるようにと、いかにわれが、日夜、汝を養育したかを思い起こせ。\* 184

シヨージ・エフェンディは「神よぎり給う」の中で、ミルザ・ヤーヤより13歳年上のバハオラは、ミルザ・ヤーヤが少年の時から大人になるまで、助言し、見守つたという事実と言及している。

192 神は汝を迷いに導いた者を捕らえ給うた。\* 184

シヨージ・エフェンディが「バハイ啓示における反キリスト」と記述した、セイエ

## 注釈

ド・モハマド・エスファハニを指す。彼は墮落した性格の、大いなる野心家で、ミルザ・ヤーヤをそそのかしてバハオラに反対させ、ミルザ・ヤーヤが自分自身のことを予言者であると主張するよう仕向けた。(注釈190参照)。セイエド・モハマドはミルザ・ヤーヤの支持者であったが、バハオラと共にアツカに追放された。彼はバハオラに対して扇動を起こし、陰謀を企て続けた。彼の死亡時の状況を、ショーギ・エフェンディは「神よぎり給う」でこのように書いている。

いま、新たな危険が明らかにバハオラの生命を脅かしていた。バハオラ自ら数回にわたり、口頭で、また文書で、信者たちに対して、迫害者への仕返しを厳しく禁じた。また、自分の愛する指導者が虐待され苦しんだことに対して復讐を目論んでいた無責任なアラブ人改宗者をベイルートへ送り返しさえもした。にもかかわらず、バハオラに同行した者らのうち七人が内密に彼らの迫害者のうちの三人を探し出し、殺害したのであった。それら迫害者の中にセイエド・モハマドとアガ・ジャンが含まれていた。

以前からずっと抑圧されていた共同体をとらえた狼狽は叙述し得ないものであった。バハオラの憤慨は限界を知らなかった。彼は、この犯行後まもなく書いた書簡の中で、自らの感情をこのように表現している。「われに降りかかったことを述べれば、天は裂け、山は砕けるであろう。」彼は、他の折にこう書いた。「わが監禁はわれを傷つけはしない。われを傷つけるものは、われに關係あると宣言しながら、わが心とわがペンが煩悶することを犯す、われを愛する者らの行動である。」

193 言語を一つ選び、…共通の文字を採用せよ。\* 189

バハオラは、万国共通の言語と文字の採用を命じている。彼の文書には、このプロセスで、二つの段階が描かれている。第一段階は、現存する言語、または発明された言語を選び、そしてそれを世界中の学校で母語の補助語として教えること。世界中の諸政府は、この重大な法を、議会を通して制定するよう求められている。遠い将来に

## 注釈

なる第二段階には、地上のすべての人のための一つの言語と共通の文字が最終的に採用される。

194 われは人類の成熟期の到来を証すものとして二つのしるしを定めた。\* 189

バハオラの文書に言及されている人類の成熟期の到来の最初の印は「聖なる哲学」として描写されている科学の出現で、これは、元素の変換という劇的な方法の発見を含む。これは、将来の知識の驚異的拡大の輝かしさを示すものである。

アグダスの書に啓示されたバハオラが指摘している「二つ目」の「印」について、シヨーギ・エフェンディはこう述べている。バハオラは、「その最も聖なる書で、地上のすべての人びとが使用する一つの言語を選び、共通の文字を採用することを命じた。彼ご自身がその書で断言しているように、命令が遂行されたときは、『人類の成熟期』の印となるのである。」

バハオラの次の言明は、人類が成熟し、成人するこのプロセスに更なる洞察を与え

てくれる。

世界の成熟期の印の一つは、王権の重みを負うことを引き受ける者がいなくなることである。王権は、誰もその重みを一人で担おうとする者がないままになるであろう。その日こそは、英知が人類の間に顕現される日である。

シヨージ・エフエンディは、人類の成熟期を、全人類の統合、世界連邦の確立、「全人類の知的、道徳的、精神的生活」への前例のない推進力と結びつけている。

## 語彙説明



## 語彙説明

### アブドル・バハ

「バハのしもべ」という意味。本名はアッバス・エフェンデイ（1844—1921）。バハオラの長男で、バハオラ自身に指名されたバハオラの後継者。また、バハオラの「聖約の中心」。

### アブジャド

アルファベットの文字に数的価値をつける古代アラビアのシステム。これにより数を文字で表すことも、またその逆も可である。このように、各文字には文字通りの意味と数的価値とがある。

## 語彙説明

### バブ

文字通りの意味は「門」。1844年5月、ミルザ・アリ・ムハンマド（1819—1850）がシラーズでその使命を宣言して以来用いた称号。彼はバビ教の創始者であり、バハオラの先駆者でもある。

### バハ

「栄光」を意味する。これは神の「最大の名称」で、バハオラの称号でもある。また、バハイ年の最初の月の名、バハイの月の最初の日の名でもある。

### バハオラ

「神の栄光」という意味で、バハイ信教の創始者ミルザ・フセイン・アリ（1817—1892）の称号。

## バヤン

「解説」という意味。バブが自身の「法の書」に与えた名前。また、バブの書いた書物全体を指すこともある。ペルシャ語のバヤンが主な教義書で、バブの定めた法を納める主な書物である。アラビア語のバヤンは、内容はペルシャ語のものと同等であるが、もっと短く、比較的に重々しさは少ない。ペルシャ語のバヤン、アラビア語のバヤンの双方に記載されている主題に対する注釈への論及は、それ以上の但し書きなしに「バヤン」という用語を使用することによって特定される。

## ホゴゴラ

「神の権利」。「アゲダスの書」に規定されている。それはバハイの書に特定化されている目的のために、バハイたちが信教の長を通して捧げるものである。

## 語彙説明

### マシユレゴウル・アズカル

「神の賛美の夜明けの地」を意味する。バハイの礼拝堂とその附属機関に与えられた名前である。

### メスガル

重量の単位。1メスガルは3.5グラム強に相当。アグダスの書で、様々な目的のために、通常、9、19、または95メスガルの量で、金や銀の量に言及して用いられる。メートル法及びトロイオンス（貴金属の測定に用いられる）への換算は以下の通りである。

9メスガル		32	・	7	7	5	グラム		1	・	0	5	3	7	4	トロイオンス
19メスガル		69	・	1	9	2	グラム		2	・	2	2	4	5	6	トロイオンス
95メスガル		345	・	9	5	8	グラム		11	・	1	2	2	8	2	トロイオンス

この計算はショーギ・エフェンデイの指導に基づくものである。彼の代理の手紙によると、「1メスガルは19ナホドから成っており、24ナホドの重量は46グラムである。計算はこれを基にして行うとよい」。中東では、1メスガルは伝統的には24ナホドから成っていたが、バヤンではこれが19ナホドとなっており、バハオラも、これがバハイの法で用いられる1メスガルの量であると確認している。(質疑応答23参照)

## ナホド

重量単位、メスガル参照

## 「ガユームル・アスマ」

コーランの「ヨセフの章」に関するバブによる注釈書。1844年に啓示され、バハオラはこれを、バビ宗教制で「すべての書の中で最初の、最も偉大で最も

## 語彙説明

強大なる書」と位置付けている。

シヨージ・エフェンディ（1897—1957）

バハイ信教の守護者（1921—1957）で、アブドル・バハの長孫。アブドル・バハにより信教の長として指名された。

シア・チャール

文字通りの意味は「黒い穴」。テヘランにある、悪臭の立ちこめる暗い地下牢で、バハオラは1852年、ここに四カ月間監禁されていた。

平成六年五月二十九日 初刊  
平成二十九年十月二十日 再刊

## アグダスの書

翻訳監修

日本バハイ全国精神行政会

発行所

バハイ出版局

〒160-0022

東京都新宿区新宿七丁目二の十三

東京バハイセンター

電話 03-3209-7521

e-mail: bpt@bahaijp.org

印刷所

水山産業株式会社

神戸市長田区二番町三丁目四の一

◎この本は日本バハイ全国精神行政会の承認のもとに  
出版されるものです。

© 2017 バハイ出版局

**THE KITÁB-I-AQDAS**

Bahá'u'lláh

© 2017 Bahá'i Publishing Trust of Japan

ISBN 978-4-902208-04-7-0014